平成 30 年 12 月 01 日発刊



NIPPON DISPLAY 一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会 創立50周年記念号

ND50TH

http://www.display.or.jp/

一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会 創立50周年記念号

一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会

〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-4 新京橋ビル9階
TEL 03-5524-3101　FAX 03-3564-6116
http://www.display.or.jp/

2018年 創立50周年記念号
発刊によせて



一般社団法人　日本ディスプレイ業団体連合会
会長 渡辺　勝

日デ連は今年創立50周年を迎えることが出来ました。これは諸先輩、会員、構成員、役員各位のこれまでの地道な努力とご協力の賜物と敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。また、この6月に東京ビックサイトで開催されました創立50周年記念全国大会には多くのご来賓の方々、関係団体各位はじめ、全国より８００名を超える皆様がご参集くださり盛大に祝うことが出来たことを大いなる慶びとするとともに、このときを迎えられたのも多くの方々のご支援の賜物と重ねて御礼を申し上げます。

70年大阪万博を控えた１９６８年に創設された本会は、日本経済の高度成長とともに活躍の場を拡げて躍進し、その後の市場の厳しい時、大きな災害にみまわれた苦難の時を乗越え、今また躍進の機会を迎えているように思います。

平成を終えるこの年に50周年を迎え、東京オリンピック・パラリンピックを控えてさらに大阪万博２０２５の開催、増大するインバウンド対応にと、担う役割がますます増えることと思われます。

50周年を迎えた大きな節目にＮＤ記念誌の発刊する運びとなりました。

「ディスプレイ業」の源流を明治に遡り、日デ連の創立から半世紀をひもといております。どの産業でもそうですが、社会の歴史の流れに沿った紆余曲折があり、浮き沈み・明暗を同じくして乗り切ってきた記憶があります。ディスプレイ業の先達は世の大きな変遷に果敢に臨み、常に進取の思いを強くして実行・具現化して人びとに歓びと感動を与える仕事を続けてきました。その先人のＤＮＡを受け継ぐ私たちは、かつてないほどのスピードで大きな変革が待ち受ける未来に向って、ひるまず進んでいかなければなりません。

一読願ってこれからの指針とヒントを得られれば幸いと存じます。

CONTENTS

1　発刊によせて　一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会　会長　渡辺　勝

2　創立50周年記念全国大会 IN TOKYO

13　ディスプレイという言葉　ディスプレイ史研究家　清水　章

ディスプレイ業の原点と未来

28　インタビュー　株式会社乃村工藝社　会長　渡辺　勝

30　インタビュー　株式会社丹青社　会長　青田嘉光

32　インタビュー　株式会社シミズオクト　会長　清水卓治

34　クロストーク

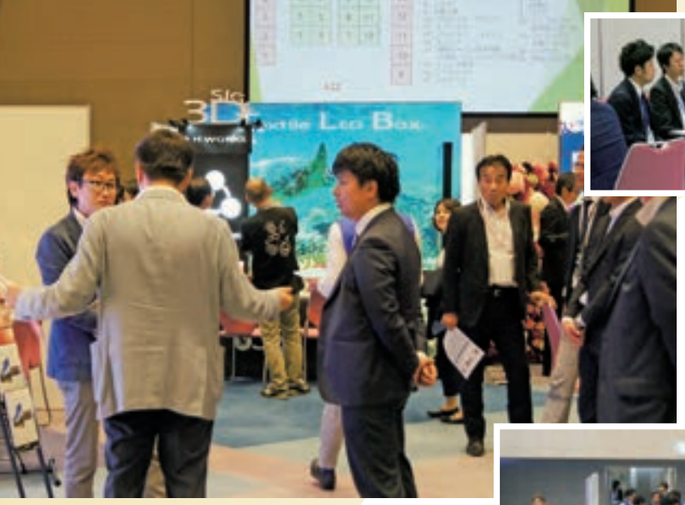
36　次世代座談会

43　50年を超えて　ディスプレイ業の系譜と展望
大阪府立大学研究推進機構教授/大阪府立大学観光産業戦略研究所所長/
一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会理事
橋爪紳也

44　日デ連50年のあゆみ

64　ディスプレイの記憶

73　編集後記

















全国ビジネス交流会

平成30年6月5日（火）14:00 ～ 16:30
東京ビッグサイト　会議棟1F　レセプションホール

2018年6月5日、日本ディスプレイ業団体連合会初となる全国ビジネス交流会が、東京ビッグサイトのレセプションホールで開催された。

この企画は、東京ディスプレイ協同組合が昨年から毎年2月に行っているビジネス交流会の成功をうけて、日デ連でも実現の運びとなった。

今回は、会場中央に10社の出展企業を配置。それを取り囲むように17社の賛助会員の協賛ブースが並び、自社製品やサービスがどのようなものか展示や資料配布を行った。

このレセプションホールがこの後に懇親会場になるため撤収しやすい簡易なブースではあったが、会場に華やぎを与えていた。

この交流会では、5分間の休憩（移動タイム）をはさみつつ、20分ごと計4回の交流タイムが設けられた。出展企業の各テーブルには受付表が設置され、交流を希望する企業への予約ができた。

交流会開始に先立ち、東デ協　吉田守克理事長から「組合に加入して親睦を深めることは手段であって目的ではありません。本来、目的は2つあって①会員同士の内部取引の活性化　②ノウハウ交流によって社員と会社が発展していくこと。組合に加入していてもメリットを享受できないという声も多々聞こえますが、メリットは待っていて受け取るものではなく、自ら積極的に勝ち取るものです。是非この機会に会社の受注につながる積極的な行動をお願いいたします。」との話があった。

実際、出展ブースには各社の発注責任者が必ず参加しており、積極的な名刺交換が会場では行われた。

また、賛助会員の協賛ブースでは多くの来訪者が足を止め、2時間半で数十社との名刺交換を行ったあるブースの担当者からは「全国からの構成員企業が集まるこの企画は、良い顔見世になった。」との意見も聞かれた。

客足は同日に行われた講演会のタイムスケジュールに多少影響は受けたが、来訪者は希望する出展企業との交流を取りこぼしなく行えたようで好評だった。

こうして第一回全国ビジネス交流会は幕を閉じた。

次回もこの全国規模の交流会がディスプレイ業界を活性化することを願ってやまない。

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　前田奈緒子／㈱マエダ

















一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会

創立50周年全国大会

in TOKYO　東京ディスプレイ協同組合実行委員会

式典

平成30年6月5日（火）　11:00 ～ 12:00
東京ビッグサイト　会議棟7F　国際会議場

（一社）日本ディスプレイ業団体連合会の創立50周年全国大会が、平成30年6月5日に東京ビッグサイトで開催された。栄えある50周年記念大会ということもあり、収容人数1,000人を誇る大会場に全国各地より多くのディスプレイ業界関係者が集合した。

日デ連の副会長／東日本地区委員長でもある東京ディスプレイ協同組合　吉田守克理事長より大会参加者800余名を代表して大会宣言が行われ、式典が開始された。

次に、渡辺勝会長の挨拶ではまず、日デ連が創立された経緯と日本経済の発展に寄り添って業務領域が拡大してきた経緯が語られた。そして、「若い世代のために黒子役から表舞台への登場数を増やし、事業を通じて社会に貢献していきたい。50周年は大きな節目ではあるが、通過点である」という力強い言葉によって締めくくられた。

続いて、経済産業省　副大臣　西銘恒三郎様をはじめとする来賓紹介をはさみ、日本経済新聞社の小松潔常務執行役員より「今や国力をはかるGDPは国内総生産ではなく『グッド・ディスプレイ・パフォーマンス』である。日本をいかに美しく見せていくかということが日本を支える重要なポイントである」との祝辞を賜った。

その後、長野県ディスプレイ協会の新旧理事長の紹介、永年功労表彰、本年度事業計画基本方針の発表が行われ、最後は日デ連副会長／中日本地区委員長　石川県ディスプレイ協同組合の土田充理事長の閉会挨拶により式典は終了した。

来賓者（順不同・敬称略）

経済産業省　副大臣	西銘恒三郎
日本経済新聞社　常務執行役員	小松　潔
日本経済新聞社	武藤寿美恵
東京都中小企業団体中央会　課長	橋北　隆
一般社団法人　日本空間デザイン協会　会長	鈴木恵千代
一般社団法人　日本展示会協会　事務局長	田中五十一
一般社団法人　日本イベント産業振興協会　専務理事	穂苅　雄作
公益社団法人　商業施設技術団体連合会　副会長	土井　啓実
日本テントシート工業組合連合会　理事長	泉　貞夫
大阪府立大学　21世紀科学研究機構　日デ連外部理事	橋爪　紳也
ディスプレイ史　研究家・著述家	清水　章

長野県ディスプレイ協会の新旧理事長（敬称略）

前理事長（永年理事長）	小岩井美展（株式会社クリエイティブシンコー）
新理事長	中條　眞一（エービーシー株式会社）

永年勤続表彰（敬称略）

今西　芳之（理事8年、専務理事8年、元相談役）	
村山常三郎（理事8年、第6代日デ連会長、元顧問）	

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　前田奈緒子／㈱マエダ

一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会

創立50周年全国大会 in TOKYO

東京ディスプレイ協同組合実行委員会 セミナー開催

2018年6月5日（火）
会場 東京ビッグサイト会議棟
605・606会議室／国際会議場



全国各地から800名を超える構成員企業の皆様にご参加いただき、若手向け・経営者向けのセミナーを開催いたしました。
これからのリーダー像やカジノ産業、2020東京オリンピック・パラリンピックやその後の空間活用などディスプレイ業に関連したお話をしていただくべく各講師をお招きしました。

「カジノ産業とエンタテイメント、ディスプレイ・ビジネス、米国・アジアの現況と日本市場の将来性」

講師 **北谷賢司 氏**
米アンシューツ・エンタテイメント・グループ（AEG）
アジア担当EVP 兼日本代表
金沢工業大学虎ノ門大学院教授
ワシントン州立大学財団理事



このセミナーでは、カジノの歴史から日本でのカジノビジネスなど、幅広くお話いただき大変勉強になりました。以下概要をまとめましたので、北谷先生の関連サイトでぜひIR産業の知識を深めていただければと思います。

◆カジノの歴史
・1931年ネバダ州で初の認可。一時期の暗い過去もあるが、厳格なカジノ法の整備により、60年代後半から著名アーティストの常設興行、無償の奇抜な屋外ショー、シルク・ドゥ・ソレイユの大型常設館など、エンタテイメントと融合し発展。現在は大手上場企業により経営されている。

◆世界のカジノ売上
・アジア圏の売上が北米を凌駕。欧州は小規模。売上占有率の推移：2010年北米48・9％ アジア29・2％
⇓2015年 北米40・1％ アジア43・4％
圧倒的なマカオ US$45・3billion。
ラスベガスはカジノ売上45％、残り55％は宿泊・飲食・エンタメ・コンベンション等、統合型ビジネスとして成熟。
マカオは未だ92％がカジノ売上。残り8％が宿泊・飲食・エンタメ。

◆来場者がいくら使うか
アジア圏がダントツ。マカオ US$1354／人 豪州US$736／人 ラスベガス US$156／人 シンガポール US$446／人 アジア圏は華人、華商系のハイローラー・VIP比率が高い。

◆カジノ産業のトレンド・必須アイテム
・カジノ、3千室級のホテル、大型ライブエンタメ施設、中小規模劇場、コンベンション施設、高級ショッピングモール、スパ・美容、フィットネス、ブランドレストラン、がIRを構成。
・スマートアリーナ＝〝稼げる新世代のエンタメ施設〟はラスベガスTモバイル・アリーナに見られるようIT機能の充実が不可避。

◆カジノ産業の地域別トレンド
・マカオ：東アジア各地から飛行機で3時間圏内。現在は3兆円 ⇓ 6兆円まで成長予測
・極東ロシア：ウラジオストック Primaryの巨大カジノ 2018年末オープン予定
・韓国：インチョン空港横パラダイスシティセガサミーが出資、日本人社員を多数派遣
・カンボジア プノンペン唯一のカジノNagaの純利益US$2・55億（GDPはUS$2億）カジノ税は0・87％で世界最低。
・フィリピン、カンボジアのカジノ合法化。その次はスリランカ、ベトナムとされる。

◆日本のカジノ展望
大阪夢洲、横浜山下埠頭（横浜市は誘致のため、1000億円整備費を検討）お台場
売上は1か所、1・5兆円と予測。掛け金の持ち込みに対する関税や勝ち取った金額に対する源泉課税率が高いと、カジノ経営を支えるハイローラー・VIP客が来日しない懸念も。

◆IR関連施設 デザインのヒント
・LA Live「全ての建物、街角、街灯のどの部分が看板、デジタルサイネージとして利益を生めるか」という視座で自治体と事前協議し長期計画による再開発を実現。
美観を損ねず、デザインを調和し、広告を出し利益を生む。賑わいを創造する商業性が重要。
日本でのIR・カジノ実現には様々な課題がありますが、IR産業の発展はディスプレイ業界にとって大きなビジネスチャンスでもあります。業界のノウハウを結集し、IR産業の発展に貢献したいものです。最後になりましたが、北谷先生、貴重なお話を有難うございました。

東京ディスプレイ協同組合
広報委員 佐々木秀明／ジーク㈱

「これからの世界で活躍するリーダーとは」

講師 **山元賢治 氏**
元アップルコンピュータ㈱社長
㈱コミュニカCEO&Founder



30年間、グローバル企業で活躍し、世界から日本を見続けてきた、株式会社コミュニカCEO&Founder 山元賢治氏より、次世代のみなさんへ「これからの世界で活躍するリーダーとは」というテーマで、ご講演いただきました。

「コンピューターの仕事に就く」と決めた高校生の頃。「日本企業に世界一の企業になってもらいたい。」という思いを、日本IBM、日本ケイデンス、ECMジャパン、日本オラクルでキャリアを重ねやりがいを感じてきました。

2004年45歳の時、株価$10弱で、低迷していたアップルのスティーブ・ジョブスから誘いを受けました。BtoBの世界で順風満帆だったキャリアから一転、BtoCの世界へ転身するきっかけとなったジョブスの言葉。

「賢治、日本だけが元気がないんだ。日本を元気にしてほしい」

それから、アップル・ジャパン代表取締役社長に就任し、iPodビジネスの立ち上げから、iPhoneを世に送り出すまで、スティーブ・ジョブスのもと、アップルの復活劇を体現してきました。

アップルの復活を見届け、ちょうど50歳になった時、世界で戦ってきた経験を、次世代に伝え、世界で活躍するリーダーを育てるために、会社を起ち上げました。ビジョンは「Think into the future（未来に思いを馳せる）」。3つのミッション「Create Your Future（あなたの未来を。あなたの手で）」、「Design Your English（あなた自身の英語を。デザイン）」「Visualize Your Career（あなたのキャリアを。描き出す）」を果たすべく、私塾「山元塾」を開き、塾生はのべ一千名を超えました。また、アップルを辞めた次の日に書いた書籍が「覚悟108」です。人の上に立ちたいとか、人よりも大きな事を成し遂げたいとか、ちょっと人よりもお金持ちになりたいのであれば、普通の人と違う生き方をしなければいけない。世界で戦えるリーダーを育てるための世界基準の話をまとめた教科書です。

「Think Different」スティーブが発した有名な言葉。スティーブから受け取ったバトンを次へ渡すという使命を感じる強く熱いメッセージとエールに終始引き込まれる講演に感謝申し上げます。

東京ディスプレイ協同組合
広報委員 浅野敦司／㈱乃村工藝社

「2020年以降の、これからのエンタメ空間・コンテンツ活性」

講師 **齋藤精一 氏**
㈱ライゾマティクス 代表



『2020年以降の、これからのエンタメ空間・コンテンツ活性』と題し、多くのメディアアートの作品の製作秘話や会社の事業紹介や、未来に向けてのメッセージなど映像のご紹介も頂きながらご講演を頂きました。

会社設立は2006年7月、設立13年目になる。コロンビア大学で建築を学び、ニューヨークの広告代理店に勤務、帰国後多くのアーティストが個で作品だけ創っていてもだめだ、そう思い、そういった仲間が結集し、アート集団となり、今となった。

事務所は、傍からみると町工場のよう。活発に動いていて段ボールは並んでるし、車が入って毎日搬出入があったり、撮影とか、設営とか、撤去とか、やっている事務所です。

テクノロジーを多用し、興味のあるものは全部作り、作ったものは美術館で展示、いろんな実験をして、そこで使えそうなコンテンツや物を蓄積し、他の演出で提案していくというやり方を取っている。

こんなことから、大学より研究が早くて、メーカーより導入というか、実際に実現するのが早いのが特徴で、オリンピック招致のプレゼンテーションの際『フェンシングは2020年の時には、どういう風に中継されるか？』という未来のイメージを創ったりもした。

10周年の2016年を機に、3つの部門に分けた。
・リサーチ
・デザイン
・アーキテクチャー
3つの組織になり会社として取り組んでいる事業は、
メーカー研究開発、商品開発
イベント設計製作
美術館などで作品展示
ネット技術とメディアアート
舞台演出
経済活性化（夜にどうやって経済活性化していくか？）
災害復興
条例の改定、素案作成 有機資産の有効活用、自治体所有
万博
オリンピック関連
メディア

依頼されたことを提案もするし、必要と思ったことは提案返しもしている。そんなことをしているうちにどんどん増えていった。

いい世界を創りたい、っていうのは地球上に生きている全員が思っている事で、我々ものを作れる人間として、どんどん物を創って、そんな場所、街を創って行きたいと思っています。

お話の途中では、乃村工藝社 川原様とのコラボにてお台場の等身大キャラクターの映像制作秘話のご紹介を頂きました。

最後に川原様より『ディスプレイ業界への期待』を尋ねると、もともとニューヨークにいたので感じるが、圧倒的に日本のクオリティは高いと思う。

モノづくり、コンテンツづくりが1つの固まりとして、創造することがこれからは必要と、今後の業界の未来へのヒントを頂くことが出来た貴重なご講演でした。

東京ディスプレイ協同組合
広報委員 大類憲司／㈱フジヤ



懇親会会場


展示コーナー


展示コーナー


日デ連音頭


榎本副理事長挨拶


懇親会のお仕舞いに、参加者全員で踊るとのこと。アップテンポで盛り上がる曲なので、最後まで楽しみが続く。


次回開催地PR

榎本副理事長挨拶

「この懇親会には、全国から807名もの方が参加しており、前回の2倍以上の参加人数。感謝の気持ちでいっぱいです。」




連合旗返還式

オリンピック・パラリンピックまでいよいよ2年。我々は何をやらなければいけないか。

それは、「代替のきかない最高の武器」をそれぞれが備えること。

それぞれがディスプレイの技を磨き、更に魅力ある業界にしたい。

我々のGDP（Good Display Performance）を上げていきましょう！

乾杯のご発声は上村西日本地区委員長

「日デ連は50周年という節目を迎えることができ、嬉しく思っている。

日デ連・渡辺会長は先ほどの全国大会で〝今の日デ連は先人が築いてくれた〟とおっしゃいました。

我々は次の50年の先人です。今日からスタートしていきましょう！」

乾杯の後、「日デ連ダンサーズ」が登場し、フィナーレで踊る振り付けを指導！

涼しげな浴衣姿のダンサー10名が、この日のために制作された「日デ連音頭」の踊りをステージで披露。


小林副理事長中締め


○×クイズ


全国青年交流会開催地PR



一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会 創立50周年全国大会 in TOKYO 東京ディスプレイ協同組合実行委員会

大懇親会

懇親会は東京ビッグサイト会議棟1階のレセプションホールで開催された。

広い会場では、全国から参加した人たちの挨拶の声が聞こえ、和やかな交流のひとときを過ごすことが出来た。

開場前にも関わらず、全国大会に参加される方々が続々と集まってきた。

懇親会場入口付近には、特設の「日デ連・歴史展示コーナー」が設けられ、装飾壁には、いくつもの「扉」が設置されていた。

その扉のひとつひとつは「歴史の扉」になっており過去50年の時代背景と日デ連の歴史を見ることができ、参加者は、当時の写真や絵を食い入るように見ていた。

大懇親会スタート

会場の中に入ると、ステージが中心にあり、会場のどこにいても、ステージが見られるようになっている。

会場のいたるところから「お久しぶり！」の声。

集合写真を撮ったり、久々の再会に話が弾んでいた。

開会のご挨拶は榎本副理事長

「この懇親会には、全国から807名もの方が参加しており、前回の2倍以上の参加人数。感謝の気持ちでいっぱいです。」

オリンピック・パラリンピックまでいよいよ2年。我々は何をやらなければいけないか。

それは、「代替のきかない最高の武器」をそれぞれが備えること。

それぞれがディスプレイの技を磨き、更に魅力ある業界にしたい。

我々のGDP（Good Display Performance）を上げていきましょう！

乾杯のご発声は上村西日本地区委員長

「日デ連は50周年という節目を迎えることができ、嬉しく思っている。

日デ連・渡辺会長は先ほどの全国大会で〝今の日デ連は先人が築いてくれた〟とおっしゃいました。

我々は次の50年の先人です。今日からスタートしていきましょう！」

乾杯の後、「日デ連ダンサーズ」が登場し、フィナーレで踊る振り付けを指導！

涼しげな浴衣姿のダンサー10名が、この日のために制作された「日デ連音頭」の踊りをステージで披露。

いよいよ、皆さんお待ちかねの○×クイズ！

ダチョウ倶楽部さんが会場後方から入場すると、最初はおとなしく見ていた参加者がステージ前に結集！

○×クイズも大盛り上がり！5問目を終えた段階で残っていた参加者11名は、ステージに登壇。

ステージ1問目で○8人：×3人に分かれたが、正解はまさかの×！上位3名が確定することに！

その後3問目で決着、優勝は乃村工藝社・ヴィクトリアさん、準優勝は同じく乃村工藝社・宮本さん。

賞品は、優勝が20万円分の旅行券、準優勝が5万円の旅行券、3位は3万円の旅行券。

優勝、準優勝の2人は照れた様子だが、表情は喜びに溢れ、晴れやかだった。

全国青年交流会の開催PRは、石川県ディスプレイ組合の元気な3人組

今回の為に用意したTシャツには、石川県の形を模した「いいね」サインがプリントされており、この交流会にかける気持ちが伝わってくる。

最後は石川弁で「いいね」に当たる方言「いいじ」を使い、「いいじ！石川！いいじ！金沢！」と参加者全員で掛け声！

次回開催は静岡

その流れで連合旗の引継ぎが行なわれ、次回の全国大会の開催地である静岡ディスプレイ協同組合・太田理事長に手渡された。

開催地PRでは、2分ほどのPR映像を上映。

太田理事長は「ご家族で参加出来る催しも企画中。〝チャレンジと限界突破〟を合言葉に、皆さんに楽しんでもらえるようにします！」とご挨拶。

いよいよフィナーレ！参加者全員で日デ連音頭！

今回振り付けを担当して下さった真島茂樹さんを始め、ダチョウ倶楽部さん、日デ連ダンサーズの皆さんも登場！

会場の雰囲気は最高潮に！

日デ連音頭の前に「マツケンサンバ」が流れ始めると、ステージの回りには盆踊りのように人の輪が出来た。

フルコーラス踊り終わると、そのままの流れで「日デ連音頭」へ。

東デ協・吉田理事長を始め、ステージ上の参加者が笑顔で踊る様子に、会場も大盛り上がり！

ゲストの退場まで鳴り止まない拍手が、盛り上がりの大きさを感じさせた。

中締めは、東デ協・小林副理事長。

「807名の参加は本当に嬉しい。皆さんへおもてなしが出来ていたら良いと思う。

基本に忠実に、新たな未来を皆で築いていきましょう！」

最後は参加者全員での3本締で、懇親会は大盛況のうちに幕を閉じた。

藁谷有紀／㈱アクティオ プラザ事業部

研修視察

業界企業視察コース


㈱シミズオクト




㈱丹青社

業界企業視察コースですが、初めにシミズオクト様のスタジオに、木工、塗装、造形、ステージ機構、サインの制作スタジオを構え、またトラスやレイヤーの保管倉庫もあり、そもそもの広さ、大きさに驚きです。参加された皆様もその規模に感嘆の声をあげていました。中でもX線検査機でチェーンモーターのチェーンの不具合をチェックしていると伺い、安全に対しての意識の高さを感じることが出来ました。

次に伺ったのは、丹青社様。上野から品川に本社オフィス移転をされた際の狙いやポイントを紹介頂きました。オフィスを「未来創造拠点」と称し、エントランスには、巨大なテーブルを配置し、出会いをディスプレイするショーケースと捉え、ここでイベントや作品展などに活用もされているようです。また、オフィス内にはプレゼンテーションの予行練習をするためのコロシアム型のスペースや、業務に集中できる個室型のスペースもあり、社員の皆様が働きやすい環境を作られておりました。

次は、乃村工藝社様。新木場にあるノムラトレーニングセンターに伺いました。こちらは、安全と品質を支えるプロ人材を育成するための施設とのことで、実際の足場や特定天井の構造部分が設置され、実際の職人体験もできる施設です。年間1345名ほど安全講習を受講されている実績があるようです。またBIM（ビルディングインフォメーション モデリング）でデザインされた造形も展示され、乃村さんの技術力を体験することができ、参加者の皆様も食い入るように見ておりました。

最後に伺ったのは、ムラヤマ様です。豊洲の本社に伺いました。ムラヤマさんは、「感動創造研究所」を設立され、感動体験に富んだ社会づくりを目指した活動をされています。熊本城の震災復興の支援もされており、その一環としての「熊本城　組み立て募金」の体験をさせて頂きました。段ボール製の手のひらサイズの熊本城　組み立てること自体も楽しいので組み立てる体験だったのですが、組み立てることで震災ですが、それを完成させ、デスクの上や自宅に置いておくことを忘れないという狙いもあり、その仕掛けに皆さま関心を示しておりました。

4社様とも、それぞれの会社が大事にしていること、信念などをいろいろなアプローチで伝えて頂き、ディスプレイ業界の未来や期待を感じられる本当によい機会となりました。

アテンドしてくださった各企業のご担当者様、本当にありがとうございました。

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　松本和徳／㈱博展


㈱乃村工藝社


㈱ムラヤマ

研修視察

一般企業視察コース


いすゞ自動車㈱　「ISUZU PLAZA」



6月16日　参加者10名にて小雨の降る中、一般企業見学コースは朝9時に出発しました。

初めに、神奈川県藤沢市の「いすゞプラザ」を訪れました。

2017年4月にいすゞ自動車創立80周年記念事業の一環としてオープンした施設です。いすゞ自動車の歴史やジオラマを使った運ぶを支えている車の紹介、実際の自動車を詰め込みすぎず空間を大切にした展示コーナーなどゆったりとした施設でした。特に驚きなのは、いすゞの車の歴史で紹介しているミニチュアカーの展示です。110台中86台はすでに図面がない車を昔の資料から再現したそうです。唸るくらい精巧にできていました。

私たちは、いすゞ自動車さんというとバス、トラックなど商業車中心のメーカーさんと思ってしまいましたが、スポーツカーや普通自動車も製造しており改めて技術力の高いメーカーさんであると見直しました。

その後、横浜中華街にて昼食をとり、休憩をしてヤマト運輸　羽田クロノゲートを訪れました。ヤマトグループの歴史・クロネコの由来、宅急便はヤマト運輸の商標登録のためそれ以外の会社では、宅配便という事。様々なサービスの由来の紹介。

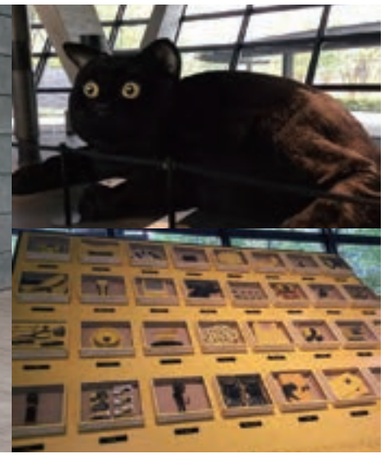
24時間稼働の施設の荷物の仕分けシステムの見学や膨大な仕分けを行う仕組みの説明。陸、海、空の物流拠点としてのメリットを生かしながら印刷業務、家電修理、家中サービス、通関業務など新たなサービスの紹介を映像を交えて説明していただけました。最後に実際の仕分け作業を体験させていただいたりと盛りだくさんの見学内容でした。

今回のような企画ではないと体験できない施設を回れてとても貴重な体験をできました。ありがとうございました。

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　中野　肇／㈱東広



ヤマトグループ　「羽田クロノゲート」



研修視察

江戸文化体験コース


石川酒造㈱









今回は総勢18名の参加で、東京の西から東を横断し〝職人技〟に触れるツアーです。

まずは、「多満自慢」で知られる福生の石川酒造を訪れ酒蔵見学です。明治13年建築で国登録有形文化財に指定されている本蔵。酒造りは「冬仕込み」という気温の低い時期に行うそうで、今の時期は作業風景を見ることはできませんが、ひんやりとした蔵の中で、巨大な貯蔵タンクを眺めながら厳かな気持ちで蔵人のお話を聞きました。お酒がどのようにして作られるかの話、現在の杜氏は30代の若い方が務めていること、杜氏以外は蔵人と呼ぶこと。吟醸・大吟醸の精米の磨き歩合の話（他酒造さんのパーセンテージも！）続いて、敷地内の杉玉、仕込み水、夫婦欅、麦酒釜を巡り歴史の奥深さを感じました。

見学後はお待ちかねの試飲です。「生原酒」「八重桜」「にごり」と女性に一番人気だという「梅酒」も。さらにお土産も買い込みバスの中でも地酒と地ビールを堪能しました。

昼食は調布の深大寺へ。創業文久年間の「元祖嶋田家」です。2階のお座敷で、窓から見える景観も小雨の降る中、風情があります。お蕎麦は平打ち太麺が特徴のざるそばとてんぷらに味噌おでん。さらにビールが進みます。

午後は、江戸川区の篠原風鈴本舗です。まずは職人さんに教えてもらいながらのガラス風鈴吹き体験。続いて絵付けの説明を聞くと、風鈴の内側に筆を入れて描くので、思っていた以上に難しい手仕事です。皆様口々に「私は絵心がない」だの「センスがない」などとおっしゃっていましたが、そんな声もなんのその！実際に描き始めると皆様飛び切りこだわった素敵な絵！童心に帰り夢中で絵付けに没頭していました。ガラスの形も絵柄も世界中に一つだけしかない東京土産が出来ました。

オリンピックを2年後に控え沸く東京、ビルが建ち並ぶ東京にも、まだまだ清らかな水と自然があるのだということを、思いがけず知ることができた1日となりました。

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　吉岡千帆子／㈱シミズオクト


篠原風鈴本舗







研修視察

進化する東京コース


VR ZONE SHINJUKU









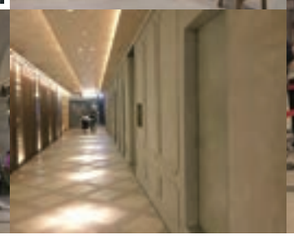
50周年全国大会2日目、進化する東京と題したツアーに行って参りました。東京にありながら中々行く機会の無かった各地を巡ります。まず最初は「VR ZONE SHINJUKU」です。オープンしてから約1年が経ちますが、巷では「週末2時間待ち」などと囁かれ、気になっておりましたが敬遠していたスポットであります。オープン前に到着し小雨の降る中を修学旅行であろう中学生や外国人観光客とともにスーツを着た人達が並んでいます。少し気恥ずかしさを感じながらも高揚する自分がいて、最近では中々に無い感覚でした。さて、この施設では全部で17のアトラクションがあり、音、映像、振動、重力、風などを駆使し触感、聴感、視感と同調させ私たちを別の世界へ誘います。体験したマリオカートでは高さ20ｍ位からジャンプするコース設定で、飛び降りる感覚は恐怖なのか楽しさなのかはわかりませんでしたが、自然と声が出てしまいます。入場直後は静かだった施設は退場する時は絶叫に包まれておりました。限られた時間ではありましたが、大変楽しく良い経験をさせて頂きました。皆さんも一度は体験されてみてはいかがでしょうか。年齢や体調などによる利用制限があるためご注意ください。また、ＶＲ体験をしている方を見る側からすると、とてもシュールな構図ですのでその点もご注意ください・・・壁に向かって「かめはめ波」のポーズなど、ＳＮＳ映えのし難い施設とも思いました。続いてはオペラシティ54Ｆ中国料理東天紅での昼食を挟んでから新国立競技場の外周見学でした。残念ながら生憎の雨天にて外周を歩くことはできず、バスでの軽めの見学となりました。最後に訪れたのは今年3月29日にオープンした東京ミッドタウン日比谷です。日比谷らしい古さを表現しながらも決してチープに見せない上質な空間作りがそこかしこになされており、開放的な空間や庭園と調和しておりました。ＴＯＨＯシネマズが入っていることによりご年配の方や大人だけでなく、若者も多く見られました。日比谷駅に直結しており地下からの導線も楽しめます。新しい東京のランドマークの一つとして期待したいと思うひと時となりました。振り返ってみれば、東京を観光したことが思い出せないくらいに無かったと思います。改めて様々に良い体験をさせて頂き勉強になりました。企画、計画、運営チームの方々へ感謝申し上げます。

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　奥下耕平／㈱ニップコーポレーション


新国立競技場


東京ミッドタウン日比谷













全国大会2日目には、千葉県成田市の格式ある名門「成田ゴルフ倶楽部」にてゴルフコンペが開催されました。気象庁が梅雨入りを発表したまさに当日となりましたが、実行委員の強い想いが通じた為か殆ど雨に降られる事無く、30組120名という多数の参加者により盛大に行われました。世界のトップ1000コースにも選出され、2017年には「米国PGATOURチャンピオンズ公式トーナメント」も開催された、各ホールに特徴のある難コースでしたが、全国のディスプレイ業界の方々によりハイレベルな闘いとなりました。

結果は

優　勝　㈱中村建装　山口 俊一郎さん（福岡）
準 優 勝　国際電氣工業㈱　平野 顕さん（愛知）
3　位　㈱ケン・スタッフ　高橋 秀さん（東京）
ベスグロ　㈱トーガシ　江草 好一さん（東京）

優勝された山口さんは、福岡ディスプレイ協同組合初の優勝者との事で、表彰式も大いに盛り上がりました。このゴルフ大会で培われた人脈が、今後の日デ連の活性化やディスプレイ業の発展に繋がる事を大いに願っております。

最後に、事前の準備や当日の運営に携わって下さいました実行委員の皆様、本当に有り難うございました。

東京ディスプレイ協同組合　広報委員　西林大輔／㈱インテリアニシダ


優勝／㈱中村建装　山口俊一郎さん


準優勝／国際電氣工業㈱　平野 顕さん


3位／㈱ケン・スタッフ　高橋 秀さん



ベスグロ／㈱トーガシ　江草 好一さん

ディスプレイという言葉



清水　章

ディスプレイ史研究家

著書「日本装飾屋小史」他

はじめに

戦後、大阪ではじめて設立された「大阪展示美術協会」で中心的役割をはたした「くろふね工芸社」は、戦前の社名を「くろふね装飾社」といい、１９１８年（大正７）の創業時は「くろふね図案所」と名乗っていた。この時代に創業した業者で改名した例は少なくない。

言葉はすぐに古くなる。改名は環境の急速な変化に取り残されまいとする思いがあったのかも知れない。油断なく、先の時代を見極める難しさを今日に伝える事例とも言えるかも知れない。

業界のルーツ

業界のルーツを辿ってゆくと明治の博覧会に至る。といっても社寺仏閣の広間に古器・珍品を並べる類いのものではない。

１８６２年（文久２）遣欧使節団がヨーロッパに滞在中、ロンドン万国博覧会に出会い、その壮大さに瞠目した。その一行に随行していた福沢諭吉は、帰国後に『西洋事情』の中でその様子を伝えている。わが国における本格的な博覧会は、１８７７年（明治10）上野の山を拓いて行われた内国勧業博覧会で、欧米の万国博をモデルとし、殖産興業を目指す国家的イベントとして始まった。



博覧会をわが国に伝えた福沢諭吉の『西洋事情』

生い立ち

ディスプレイ業の先覚者たちが第一歩を刻んだ博覧会の現場とは、どのようなものであったか、残された資料を集めて再現してみた。

風が砂塵をまきあげ、雨が降ると泥地になる道路を「前をあけろ！」と建材を山積みした大八車の男たちが怒声をあげる。

標準語はまだなく、東北弁も薩摩言葉も、戦場のような現場の騒音に消されてしまう。裏に回れば、糞尿の臭いが立ち込め、空地は残材を燃やす煙でむせ返る。安全管理のシステムも、工程表も無い作業現場は混乱を極めていた。そのような状況の中で完成に向かわせたのは「この手で新しい国を造る」という気概をもった若者たちだったと思う。

そのような現場の中からディスプレイ業が芽生えた。

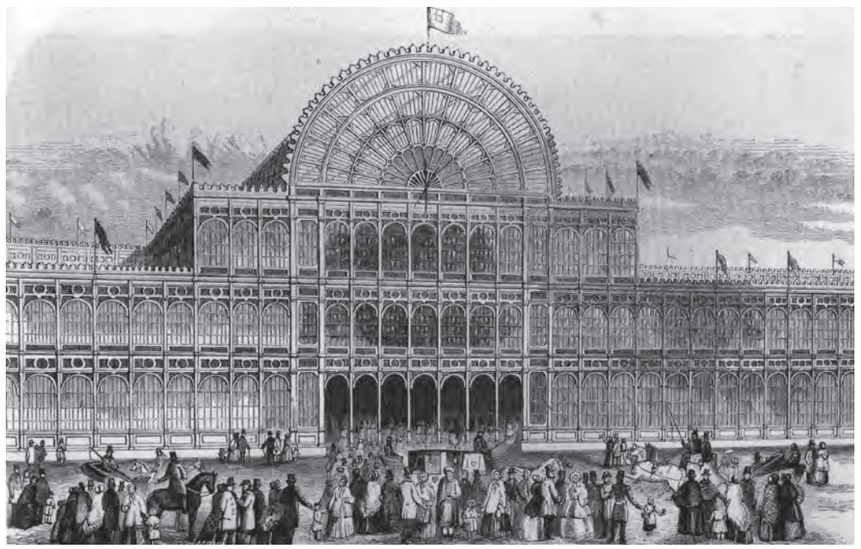

内国勧業博覧会の現場風景

奇想天外

１８５１年（嘉永４）５月１日からロンドンのハイドパークで開かれた世界最初の万国博覧会は、世界に平和を呼びかけた初めてのイベントでもあった。開幕の日には、会場に五十万以上の人がつめかけたが、懸念されていた暴動も無く、華やかなすべり出しを見せた。

だが、なぜイギリスが空前絶後といわれるような博覧会を開く必要があったのか。それは産業革命にあったらしい。革命の結果、伝統的な家内工業が崩壊し、工場による大量生産を可能としたが、消費の手立てが見つからない。そこで市場を世界に求めて声を上げた。「万国の産業の、成果の大博覧会」というのがロンドン博の正式名称だった。

この博覧会は、民間有志が博覧会社を組織し莫大な費用を投じて開設に当った。展示出品人は一万七千余人、


世界最初のロンドン万国博覧会の水晶宮（１８５１年）


水晶宮の展示

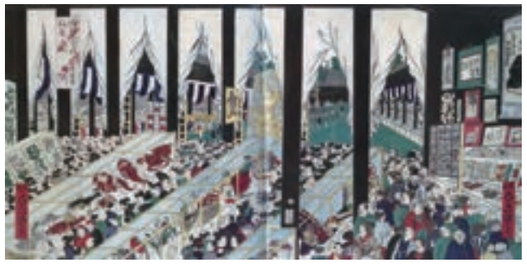

パリ万国博覧会のエッフェル塔（１８８９年）

その半数は外国四〇ヶ国が占めた。だが、それだけでは市民を動員させることは出来ない。会場に奇想天外な仕掛けが必要だった。そこで考えられたのが水晶宮（クリスタルパレス）だった。水晶宮の仕掛けは巨大な建築物にあった。

世界から集められた展示品を一堂に収納する水晶宮の５６５メートルという長さは、万国博開催の１８５１年にちなんだ１８５１フィートに由来している。また、この巨大な空間をもつ建築物の建材が伝統的なレンガや石材では無く、鉄とガラスで造られたことも話題を増幅させた。

万国博覧会で奇想天外が動員をよんだ例は他にもある。１８８９年（明治22）のパリ万国博覧会で、橋梁を地面に垂直に立てたような鉄骨のモニュメントは、工事中から「パリの街にそぐわない」と市民の不評をよんだが、「集客装置」としての役割は十二分に果たした。これが万国博終了後、エッフェル塔として観光名所となったことは良く知られている話だ。

万国博覧会はロンドン万博以降、パリをはじめ世界の各都市で開催されていくが、回が重なるに従って国の特色が見えてくる。例えば、イギリスは見本市的、フランスは出陳物に定価を付けたので百貨店的と言われ、アメリカは大企業がパビリオンを林立させて万博会場の風景を変えていった。


明治初期の博覧会の展示
湯島聖堂博覧会（１８７２年）


内国勧業博覧会では度々行幸が行われた

内国勧業博覧会

先進国の博覧会を学んで始まった明治の内国勧業博覧会は、なぜ集客のための奇想天外を採用しなかったのか、疑問を感じる。天皇の行幸をあおぎ、外国の来賓を迎える晴れの場に奇想天外を置くのは非礼だと、日本人の無骨な生真面目さがそうさせたのかも知れない。展示に関しても同様だ。当初の展示は、壁も床も台も立錐の余地の無いほど出陳物を並べたてたので、外見の行儀の悪さは否めない。その反省からか少し落ち着いた第三回内国勧業博覧会あたりから陳列箱が登場する。やがてパビリオンに同形の陳列箱が何百も並べられる姿が定着する。それを見た外国人には異様な風景と見えたかも知れないが、これがわが国における博覧会の原風景であった。


東京勧業博覧会の花電車（１９０７年）


イルミネーションで飾られた博覧会場の夜景 東京勧業博覧会（１９０７年）

陳列箱

業界史の中で「装飾箱時代」を規定するとすれば、明治の中頃から昭和の初期までとなろう。初めて登場した陳列箱とは、九〇センチの四方形で高さ２メートルほどのガラスケースで、ところどころに装飾が施された家具風の


初期の陳列箱

箱であった。

この陳列箱は、当初、協会から提供されていたが、どういう理由からか、1903年（明治36）大阪で開かれた内国勧業博覧会からは出展者側が製作することになった。だが、そのことが少なからず波紋をよんだ。

当時、各府県の展示にあたった担当者は次のように語っている。

「観覧者ガ本県ノ出品ヲ、細視スルニ先ダチ　外部ノ装飾ヲ以テ観者ノ心ヲ奪ヒ　暗々裏ニ同情ヲ寄セシメンコトデ企画セリ」

外部の装飾というのは陳列箱の装飾のことである。それによって展示品の印象を強くさせようとする考え方が、結果として、陳列箱の製作費を急騰させ、予算を圧迫したので、各所から悲鳴の声が上がった。そのような時に登場し、陳列箱に改良を加えたのが、日本橋呉服町に居を構える湘南木工所の加茂増五郎だった。増五郎は厚ガラスを細い木枠で支える新規の陳列箱を開発した。それまでの陳列箱は博覧会が終了すると廃棄されていたが増五郎はそれを回収し、再使用ができるレンタルのシステムを考案したので、それ以降、出展者は安価で陳列箱を利用できるようになった。

博覧会は洋の東西を問わず、観衆の声を大切にして発展してきた。当時の内国勧業博覧会の不人気の理由のひとつは、陳列箱を並べ立てた展示だった。ことに箱の中に出陳物が鎮座しているだけでは味気ない。

そんな声が高まってきたのだ。展示品をとりまく空間を演出する今日的なディスプレイの技法は、未だ確立されていないという背景があった。

陳列箱を面白く見せる工夫はないかと、初めに手を出したのは、器用な大工か好奇心の強い表具師だったのかも知れないが、やがて画塾の画学生が加わり、その連中を「飾り屋」と呼んだ時期を経て、業界の先駆者たちが姿を現してくる。それは多くの画工をかかえ「東京作画協会」（後の商工美術）をおこした長谷川一陽や、東商会から博覧会の専門業者として独立して「中村商会」（後の中村展設）を創業した中村伝治たちである。

大正の博覧会

大正の博覧会は、明治の近代国家の建設をスローガンとしたものと違い、大正デモクラシー華やかな中で、自由で闊達な博覧会へと変わっていく。それは主催が政府からはなれて、新聞社や電鉄などの民間によって開かれるようになった事にも原因があるようだ。それにより奇想天外を得意とする仕事人も次々と登場してくる。まるで重々しい明治の箱が壊れて、各色のガラス玉が飛び出し、四方に散らばってゆくような感じがする。そんな大正の博覧会をいくつか拾ってみた。

明治記念博覧会　1913年（大正2）


明治記念博覧会のジオラマ（1913年）

明治天皇の聖徳を追懐するために開かれる。目玉は本館の「明治天皇一代記」の十八面のジオラマ。背景画は茂木習古、生人形は安本亀八という当代の名工たちが手掛けた。

東京大正博覧会　1914年（大正3）


青山会場に登場した戦艦三笠の模型
東京大正博覧会（1914年）

空には複葉機が飛び、観客の移動手段として、エスカレーターやケーブルカーが登場し、近代的な博覧会の先立ちとなった。また青山会場には、作り物の戦艦三笠が話題となる。一方、美人島旅行館は、卑猥風俗として当局からお灸をすえられ、閉館を命じられる一幕もあった。


エスカレーターが人気を呼ぶ東京大正博覧会（1914年）

海の博覧会　1916年（大正5）

船橋の入口をくぐるとパッと視界がひらき、大海原をイメージさせる仕掛けの中で、波頭が光り、白いヨットが浮かぶ。また、海底トンネルや美しい南洋諸島を紹介する活動写真館もあり、テーマにふさわしいユニークな博覧会として人気を集めた。

婦人と子供博覧会　1916年（大正5）

眼下の家並みの遥かに、富士、筑波の山が望まれるという触れ込みで、高さ三十六メートルの人工富士が登場する。森鴎外も小さな三人の娘と登った。大人気で会期が延長された。

東京遷都奉祝博覧会　1917年（大正6）

イベントで成功した博覧会もある。呼び物は京を起点とした東海道五十三次のパノラマと、それにあわせたイベントである。笛太鼓、武士、隈取りの雲助などについて、市民が思い思いに仮装してつづいた。それを新聞が賑々しく書き立てたので、この博覧会も大評判となり会期を延長した。


東京奠都五十年奉祝博覧会のパノラマ（1917年）

電気博覧会　1918年（大正7）

電気時代の到来を記念して開かれた。高さ十七メートルの人工の山から水を落とし、発電の実演を見せた。いつの時代でも大仕掛はイベントの花である。

平和記念家庭博覧会　1919年（大正8）

暗い出来事もある。同年八月二十日の深夜、開催中の会場から出火、全焼する。各パビリオンに並べられていた湘南木工所所有の陳列箱はすべて焼尽する。そのために博覧会のメッカだった上野公園での開催は、大正十一年まで中止となる。

平和記念東京博覧会　1922年（大正11）


平和記念東京博覧会（1922年）

この博覧会は大正3年の東京大正博覧会と共に、大正時代を代表する博覧会である。一千百万人が来場し、二千数百人の女看守（コンパニオン）で人気が沸騰したという。開会式の日は雨となり正門前は泥沼のようになったが、一万六千人の来賓は乾杯の酒に酔う。博覧会の呼び物は水上飛行機と平和塔、だが会期中に襲った地震のため、陳列箱は総倒れとなり、オープン当初の人気は下降して最後は入場料を値下げするという結果になった。記録によると八十九万六千八百五十五円の赤字となり、博覧会事業の難しさを後世に残した。


第2回家庭博覧会（1923年）


大大阪記念博覧会（1925年）


優良国産博覧会の人工富士（1925年）

大大阪記念博覧会　1925年（大正14）

新聞社の博覧会への関与は、大正時代以降ますます盛んになるが、これも大阪毎日新聞社が主催した博覧会である。この年、大阪は市域を拡張し、人口が日本一となったことを記念して開かれた。本館では「水の大阪」「商業の大阪」「劇場と音楽の大阪」など大阪を二十七のテーマに分けて紹介した。その企画が博覧会を成功させた要因となる。

第二回化学工業博覧会　1926年（大正15）


百貨店のブース　第二回化学工業博覧会（1926年）

百貨店の装飾は、明治の博覧会の時代からパビリオンに一際光彩をはなってきた。これもそのひとつ。高島屋、松屋、三越、白木屋、松坂屋の五大百貨店が、ひとつになって出展したが、季節の移ろいを巧みに取り入れた演出に観客はしばし足をとめた。

電気大博覧会　1926年（大正15）


電気博覧会（1926年）

明治末期に登場したイルミネーションは博覧会の夜景を一変させたが、大正時代になると、それにかわってサーチライトが天空を走り、スペクタクルを演出した。

皇孫御誕生記念こども博覧会　1926年（大正15）

大正も後半になると博覧会においてもデザインに対する意識が高まってく

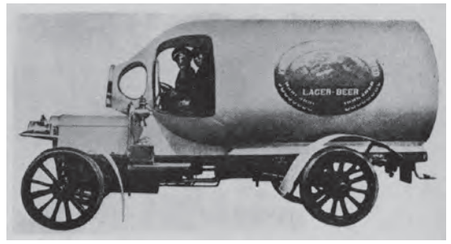

皇孫御誕生記念こども博覧会（１９２６年）

る。大正15年１月、東京日日新聞社主催で、上野公園で開かれた「皇孫御誕生記念こども博覧会」では、優秀な陳列箱の装飾に対して褒賞制度が定められ、岡田三郎助（東京美術学校教授）や、今和次郎（早稲田大学教授）らが審査委員として招聘された。

また、同年七月、大阪毎日新聞社主催で京都の岡崎公園で開かれた同名の博覧会でも、全館の装飾計画の一切を京都高等工藝学校（本野精吾教授）に依嘱し、童話のような世界を展開した。さらに陳列箱の質を高めるために、広告研究社、梅木装飾など意匠部を持つ装飾業者六社を指定業社として選出した。同博覧会は従来のイメージを一新させるほど画期的な試みであった。

開拓者列伝

ディスプレイ業の開拓者のおおくは、少年期に故郷を出て、不毛の地にディスプレイの花を咲かせた。美田を


世間をおどろかせたビール瓶の宣伝カー

残さず、立身出世を目的とせず、才気と度量を発揮して、一代を闊達に生きた。それらの中から九名の先人を生誕の順をおって列記した。

（一）秋田柳吉

廣目屋を創業した秋田柳吉は、安政５年ごろ現在の愛媛県で生まれ、その後大阪で暮らしていたが、明治10年ごろ上京し、京橋五郎兵衛長屋に住みつき、１８８８年（明治21）、突然貧乏生活から目覚めて東西屋を始めた。

廣目屋という屋号は、当時、同居していた戯作家の仮名垣魯文が命名したらしい。その後の柳吉の行動は目覚ましい。宣伝のために音楽隊を編成したり、巨大なビール瓶を自動車の頭に乗せて走らせたりした。

また、活動映画が輸入されると、その将来性に着目し、１９０５年（明治38）年、長谷川一陽（画家）や志村籠三（装飾）を大阪まで連れ出し、道頓堀中座の店頭を賑わし


浜田増治がデザインした花電車


復興した活動映画のポスター

く飾りたてて、日露戦争の映画を興行した。

同じ頃、街飾りにも手を広げる。出征兵士を迎える杉の葉の緑門やハリボテの凱旋門なども製作、博覧会の時期になると、街の要所に装飾塔をたて、花電車を走らせ、前景気を盛りあげた。

柳吉は、玄関をあけたままにしていたので多くの人材が巣立っていった。同社の出身者が興したディスプレイ会社は都内だけでも十社を数えることが出来る。廣目屋は創業時の屋号を改名せず、今日まで伝えているがそんな例は稀だ。

（二）乃村泰資

乃村工藝社を創業した乃村泰資は、１８７３年（明治６）高松で生まれた。子供のころから手先が器用で、好きな芝居の立版古を作り、近隣の大人達を驚かせていた。長じて芝居の大道具方になるが、伝統的な歌舞伎の大道具の定式に飽き足らず、より自由な菊人形


職人が手で雪を撒く（右下）
納涼日本アルプス展（１９３６年）

の世界に身を投じ、やがて東京の両国国技館で興行する菊人形の設計師となる。

１９２４年（大正13）、読売新聞社の社主になった正力松太郎は、購読者の拡大を計るには人々の関心を集める事業が重要だと考え、夏巡業で空になった大相撲の国技館に着目してイベントをうつ決心をした。だが東京の夏は暑く「夏枯れ」といって興行には不向きとされていた。「だからこそ暑さを払拭する奇想天外なイベントが必要だ」と「帝都銷夏の別天地」をキャッ

チフレーズにかかげた。その演出を託されたのが乃村泰資だった。国技館の夏のイベントで、毎年どのような奇想天外を見せるか、練りに練った。その出来、不出来の中で語り草として残っているのが、１９３６年（昭和11）夏の「納涼日本アルプス展」である。キャッチフレーズを「夏の両国に雪が降る」として読売新聞社が連日新聞紙上に書き立てたので、前人気は高まるばかりだった。

当日がきた。入口は来観者で列をなした。だが、先端技術を駆使して作ったはずの降雪機からは一粒の雪も降らなかった。泰資はとっさに天井に桟敷を組ませ、大量の氷を運ばせ、桟敷に上がらせた大工に鉋で氷を削らせ、手で撒かせたという。江戸気質の観客は、それを粋に感じて面白がったという。泰資は窮地に立ってもたじろかず、逆手にとって押し返す野太さを持ち合わせていた。　雪がやゝ正常に降り始めたのが、開演一週間後、正常にもどったのは二週間後だったと、当時の新聞は報じている。


制作中の降雪機

泰資が博覧会と最初に関わったのは、１９１４年（大正３）の東京大正博覧会である。青山会場で二百坪の生人形館を制作した。菊人形で培った演出を博覧会の場で試したかったのかも知れない。以来、博覧会に関わることになるが、陳列箱の装飾には関与せず、表現がより自由な特設館に主力を置いたところに特色がある。また、昭和に入ると百貨店の催し場にパノラマを中心とした展覧会を手掛けて販路を広げていった。

（三）初代八日市屋清太郎

八日市屋清太郎は、金沢に拠点をおく業者で、陳列箱の製作から博覧会の世界に入り、後にパビリオンの建材のレンタルで財を築いた。清太郎は１８７３年（明治６）、石川県の小松で生まれ、十三歳の時、浴衣一枚身にまとった姿で金沢に出て呉服屋の小僧になったが、野心と商才があったのだろう、生涯を通じて様々な事業を興した。二十歳の時、ホルスタインの牛を飼育する会社をたてた。三十五歳で市会議員となりアメリカを視察し、帰国するや金沢日夕新聞社を設立するが、ほどなく身をひく。


仮設建築のプロフェッショナル 八日市屋清太郎


高松産業博覧会の新聞広告（１９２８年）

八日市屋清太郎
前職 陸軍御用達
高松市出張所
高松市三番丁二二
本店 金沢市武蔵町四番地
電話 金沢四四番
紀伊名物
御陳列場設計製作請負
店員募集
南光 清三

清太郎がどういう動機で博覧会に関わったのか定かではないが、１９１４年（大正３）の東京大正博覧会の時らしい。清太郎の全盛期は昭和の戦前で博覧会のレンタル用建材の倉庫を全国各地に持ち、業界に確固不動の地位を占めた。

（四）加茂増五郎

加茂増五郎は、生涯を陳列箱に捧げ、その開発に情熱を注いだ。業界の開拓者のおおくが歩んだように、増五郎も十五歳で小田原の建具屋の見習い工となったが、二十二歳の時、一念発起して洋家具を学ぶためアメリカへ渡った。二年後に帰国して陳列ケース専門の湘南木工所を開業したが１９１２年（大正元）、ショーケース研究のため再び渡米する。内国勧業博覧会の装飾過剰な陳列箱を見たのが動機だったのかも知れない。そこで機能的で組立て可能な陳列箱を開発した。

当時の陳列箱の使用頻度は、大規模な博覧会で千五百台、小規模博覧会でも五百台ほど使用されていた。増五郎は陳列箱のレンタル業に思い至る。そしてレンタル業で得た利益を陳列箱の製作費にまわして、時ならずしてストック数が二千台にいたる。

『芝家具の百年史』（芝家具商工組合発行）によれば、湘南木工所の陳列箱は二回のレンタル料で元が取れたから、


加茂増五郎制作の陳列箱
第一回化学工業博覧会（１９１７年）

当時の金額として一回の博覧会で約二十万円の純利益が残ったと書かれている。

わが国の博覧会は、上野公園で始まり、大正時代に入っても中核的な位置はかわらず、頻繁に博覧会が開かれていた。当時の会場には「日本産業館」という恒久施設があり、博覧会はその施設の周りに仮設のパビリオンを建てて開かれていた。湘南木工所はその施設の指定業者となっていたので、加茂増五郎の力は絶大で「博覧会の主」と呼ばれるまでになった。

だが、１９１９年（大正８）開催中の博覧会会場から火災が発生して増五郎は所有する陳列箱の多くを失った。

（五）浮田仙太郎

浮田仙太郎は、風のように現れて、風のように去った、という印象である。仙太郎は明治15年ごろ姫路の書写山で生まれ、十歳の時、姉の嫁ぎ先である尼崎の浮田家の養子となった。家業は雨傘製造業だった。仙太郎は長じ


仙太郎が制作した広告塔（左端）
平和記念東京博覧会（１９２２年）

て看板屋から広告業に手をひろげ、電灯広告で名をあげる。そして大阪駅前や道頓堀の繁華街で大看板製作の第一人者となった。

大正時代の博覧会は、その集客力により、広告主が多額の経費を投じることを惜しまなかった。その代表的な事例が１９２２年（大正11）、上野公園で開催された平和記念東京博覧会での福助足袋の広告塔である。その巨大さは請負った浮田電気の名を全国にとどろかせた。当時の福助足袋の責任者は岸本水府で川柳作家として『番傘』を世に広めた人物だが、宣伝の世界でも名を知られていた。その水府が仙太郎の気骨に注目し手を貸したのかも知れない。ほどなく仙太郎は博覧会の展示の分野にも進出し、１９２８年（昭和３）、天王寺で開かれた「交通電気博覧会」では大阪の老舗業者である梅木装飾やくろふね装飾を出しぬき「発電電気館」や「世界一周館」など、メインパビリオンを独占するほどの勢力になった。

本人かどうかの真否は定かではないが、１９６３年（昭和38）、岸本水府が監修した『番傘川柳一万句集』の中に「切手にも盛衰があるコレクション仙太郎」が選ばれている。

（六）長谷川一陽

長谷川一陽は、才気を持って生まれたが、開拓精神も持ち合わせていたらしい。絵がよほど旨かったらしい。小学校を半ばで辞めて神田の看板屋の丁稚となり、ここで絵筆のイロハを学ぶ。だが、それには飽き足らず、黒田清輝が主宰する「白馬会洋画研究所」の門を叩き、本格的な画風を習得した。時あたかも外国映画の興隆期であった。ここで一陽は浅草の映画館の絵看板に着目する。ダイナミックな一陽の絵看板はたちまちのうちに注目され、１９０５年（明治38）浅草に四百坪のスタジオを建て「東京作画協会」（後の商工美術）を設立した。

一陽と博覧会との関わりは、明治時代の陳列箱の展示にあったようだ。以降それに傾斜してゆく。１９２８年（昭和３）の「大礼記念京都大博覧会」では三十五社の陳列箱を請け負い、常田自転車の展示で最高賞盃を受け、１９３８年（昭和13）の「国防大博覧会」では富士フイルムの展示で特選第一席の金牌を受けている。以降、商工美術は博覧会の展示部門の王道を歩む。


ロゴタイプを披露する長谷川一陽（左端）と陽気なスタッフ



伝治が教材として取り入れた『ドイツの芸術と装飾』（１９２２年発刊）

一方、ウィンドウ装飾にも意欲を示す。大正のはじめ赤門前の眼鏡屋の陳列窓を手掛けて以降、銀座に進出し、和光や日本楽器のウィンドウでも才気を示した。このように多才な一陽は業界においてパイオニアとしての足跡を残した。

（七）中村伝治

釘が打て、表具ができ、電気工事も扱え、見積書もかけて、ひとりで総てのことに精通していることが、その頃、装飾業者として自立できる基本的な条件だった。玄関先を仕事場とし、忙しい時は家人に大八車を引かせ、職人の二人も下宿させ家族同様に面倒を見ながら少しずつ請け負いを広げてゆき、やがて看板をあげるというのが一般的な業者のすがただった。

だが、１９１７年（大正６）中村伝治が創業した中村商会（後の中村展設）は、そのスタイルを異にしていた。

旗揚げに際し「博覧会の専門業者」を宣言し、職住の分離をし、印袢纏はおろか社章まで用意した。同社が、２０１１年（平成23）に出版した『実録博覧会１』によれば中村伝治は１８８６年（明治19）に千葉県の大網で生まれ、東京に出て東商会に入社する。東商会はテントを主とするかしもの業者であるが、陳列や装飾の分野にも手を広げていた。伝治はそこで博覧会の装飾、設計を担当し、１９０７年（明治40）の東京勧業博覧会を経験した。それから独立するあいだの十年間、東商会の中で経営のあり方や合理的な仕事の進めかたなどを学んだものと考えられる。設立した時の経営方針を「一括受注」としたのもそのあらわれだ。

地方で博覧会が開かれる時、大工や職人を地元から集める業者が多い中で、中村商会は人手を東京で集めて現地に送った。各地で開かれた博覧会の報告書の中に、指定業者として同社をあげている例は少なくない。

（八）広瀬尋常

開拓者列伝の中でも広瀬ほど見事な経歴をもつ人物は少ない。１９０９年（明治42）東京美術学校の図案科を卒業して東京ガスに入社するが、それを辞して、１９１４年（大正３）ヒロセ興業所を設立した。１９２０年（大正９）図案及び一般装飾術を学ぶ海外研究生として、ニューヨークに滞在、帰国後の１９２６年（大正15）、アメリカ独立百五十年を記念した「フィラデルフィア万国博覧会」の日本館の装飾を任命される。１９２８年（昭和３）、浜田増治が編纂した『現代商業美術全集』の中で、「博覧会のパビリオンは様式に束縛されることなく、奇想天外の設計意匠を実現すべきものだ」との持論を述べている。


『現代商業美術全集』で紹介した海外の博覧会
英国ウェムブレイ博の特設館（１９２４年）


『現代商業美術全集』で紹介した海外の博覧会
パリ万国装飾博の特設館（１９２９年）

このような華やかな存在にもかかわらず、実像が見えにくく、人がらも、業界との関わりも、エピソードすら余り残されていない。僅かにあるとすれば、広島の呉にある元海軍兵学校の教育参考館に、藤田嗣治や古島松之助などの作品と共に広瀬尋常の「軍艦旗揚揚」という油絵から偲ぶほかはない。

（九）鍛冶藤信

業界の開拓者の中で、後世に最も多く伝説を残したのは誰か、と言えば、鍛冶藤信の名が上部に置かれるであろう。藤信は業界との出合いから形破れだ。その話は『ランカイ屋一代』（中川童二著）や『人生は博覧会・日本ランカイ屋列伝』（橋爪紳也著）にも詳しい。

藤信は、１８９９年（明治32）福岡市で生まれ、小学校四年の時上京し、皿洗いから修業し、やがて結婚して小さな店をもつに至ったが、１９２３年（大正12）の関東大震災で家財を失った。そこで連合いの兄が住む池の端七軒町の家に一時寄宿することになる。その家が研精社という装飾屋だったのである。その偶然が藤信のその後の人生を一変させる。

藤信は「私は絵を描く才能もなく、装飾の知識も無くすでに三十路を超えていた」と後に語っている。義兄の小林知治は名の通った書家で軍に出入りしていた関係で、藤信も同行するようになり、やがて軍の啓蒙する博覧会にのめり込んでゆく。藤信の性格は剛胆の一言に尽きる。

１９３７年（昭和12）盧溝橋事件が勃発した


藤信の野外パノラマは人を呼び、朝日新聞社は軍に戦闘機２機を献納した。


模型による野外パノラマのコンベ風景
アメリカ博覧会（１９５０年）


晩年の鍛冶藤信

時、「戦場の実際を見ずして、生きた博覧会は出来ない」と申しでて、佐官待遇の資格を得て、勇躍して北支の最前線の調査の旅に出た。

その経験をもとに、１９３８年（昭和13）朝日新聞社主催の「支那事変聖戦博覧会」で、西宮球場の外野席を北支の山によそおい、フィールドを激戦地として再現させた。そのパノラマの砲弾の炸裂や、突撃の喚声と共に、硝煙の匂いまでおそってきそうなリアリティに観客は息をのんだ。この野外パノラマは、開闢以来の出来映えとして鍛冶藤信の名を不動のものにした。

戦後、鍛冶藤信が登場するのは、１９５０年（昭和25）の「アメリカ博覧会」である。朝日新聞社が主催で場所も野外パノラマ（アメリカの観光地めぐり）を目玉にしたことも、前回の「聖戦博覧会」と同じであった。招聘された藤信が華々しく博覧会に復活する舞台となるはずであった。野外パノラマはコンペとなったが、相手は博覧会に実績のない業者だったので、通過儀礼ぐらいにしか考えず、プレゼンテーションに油断があったのかも知れない。予定外だった事は、ＧＨＱがコンペの選定に参加した事だ。ここで鍛冶藤信は初めて敗北する。藤信は「アッ」と声を上げたと思うが、コンペの決定は絶対であった。

「博覧会は、観客に興趣を湧かせ、驚かせることにある」。また、「博覧会を業とする者は、閑散期には羽を休めて次の博覧会に備えて爪を研ぐものだ」とする持論は時代遅れになりつつあった。藤信はその後も二、三の博覧会に参画したが、１９５４年（昭和29）の「栄える産業博覧会」を最後として博覧会から手を引いた。

その後は、阪神電鉄が運営する沿線の遊園地の春秋の催し場に活動の場を求めていたが１９７８年（昭和53）、享年七十九歳で孤高の中で逝去した。その死は日デ連の『ＮＤＦニュース』（現『ＮＤ』）に報じられることもなく、晩年を過した阪神パークも今は無い。

昭和の博覧会

昭和の博覧会は、天皇即位の華やかな奉祝のイベントとして始まった。これ


即位大礼にたてられた奉祝塔


即位大礼記念国産振興東京博覧会（１９２８年）

とに新天皇の即位の大礼が御所紫辰殿で行われた京都では、ひときわ賑った。民衆は「ゴタイテン ホィ、エライヤッチャ エライヤッチャ ホイ」と御大典音頭に酔い市街を行進した。町飾りでは老舗の銭屋（後のジーク株式会社）が仕切り、この年に創業したフジヤも腕を振った。東京でも提灯行列や花電車で沸き返った。

戦争が深まると空襲をのがれて店をたたむ業者がある中で、アメリカの潜水艦の目を盗んで、朝鮮や台湾で開かれる博覧会へ海を渡る業者も多くいた。国内で開かれた展示会は、「戦争の実情」と「銃後の心得」が中心となり、文章と写真によるパネルの手法が取り入れられるようになる一方で、博覧会は戦場を切り取ってきたような原寸大の野外パノラマが作られるようになっていった。

戦事博覧会の兆しは１９２８年（昭和３）の大礼記念東京博覧会に見られる。この博覧会で初めて国防館が登場し、その中で《月下で銃をかまえ、国境を守る兵士の後姿》を表現した「北方の護り」というパノラマが話題となったが、次第に陸軍館と海軍館が威を競い合うプロパガンダの博覧会へと突入してゆく。かつての博覧会を盛り上げた花電車や少年音楽隊にかわって、開幕日には戦車が目ぬき通りを行進し、会場では工兵が橋を架ける実演が軍国少年たちの人気を呼んだ。軍事博覧会の特色は、門衛が直立したような入場門や装飾塔の毅然としたデザインにも凝縮されていた。

戦争も末期が近づくと、軍から支給されていた展示用のベニヤも角材も釘もとぎれがちになり、最後は「これで作れ」と、丸太棒を渡される始末となった。その上、兵役、徴用のための人手不足もある。それで資材を規格サイズのバック、平台、パネルとして再利用し作業を合理化することで急場をしのいだ。これが後のシステムディスプレイへ結びついてゆくが、当時の業者は、転んでも只では起きない「強かさ」で生きぬいた。

二つの展覧会

１９４１年（昭和16）二月、大阪と東京で、同じ目的をもつ展覧会が同時


日本精神昂揚展覧会（１９４１年）



当時の新聞広告

に開かれた。大阪では三越百貨店において同年二月十一日から十八日まで大政翼賛会が主催し、中部軍司令部、阪神海軍部、大阪府、大阪市、大阪毎日新聞社、大阪朝日新聞社が後援する「日本精神昂揚展覧会」で、これを「大阪商業装飾協会」が献納した。この協会は、百貨店の展覧会を主業とし、大阪に営業所をもつ、白牙社、くろふね装飾社、松永研進社など二十五社から結成された。顧問として、府、市、商工会議所の関連部門からの計十二名と大阪社会事業団と大阪広告協会の役員二名が相談役として名を連ねていた。わずか一週間足らずの催しの体制としては、少し物々しい。そのようになった原因は、主催する大政翼賛会にあったようだった。

大政翼賛会は、１９４０年（昭和15）戦意動員のため内務省主導でつくられた上位下達の一大国民組織で、さらにそれを徹底させるために、道府県の知事を支部長に置いた。この展覧会の目的は、国民の軍事体制への意志の高揚にあり、展示の内容は、「教育勅語謹寫」から始まり、「陸軍大パノラマ」、「海軍大パノラマ」「蒙古来襲大壁画」「八紘一宇」「東亞共栄圏の確立」など二十六場面から構成された。それを会員が分担して技を競い、パノラマやジオラマを中心とした視覚的表現で、展覧会の伝統に基づく仕上りを披露した。

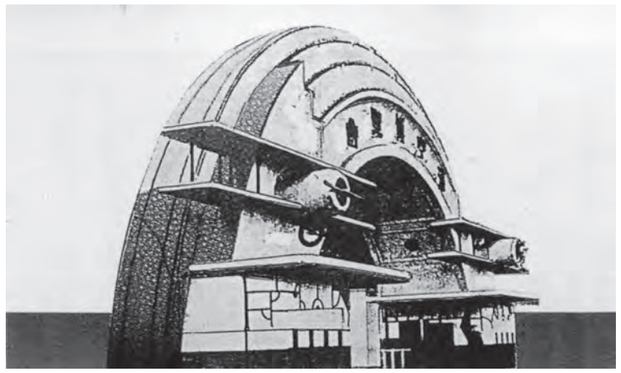
一方、東京では同年二月十二日から十八日まで、銀座資生堂ギャラリーで「太平洋報道展」が「報道技術研究会」の企画でひらかれた。報道技術研究会は、その前年、戦時体制下の国策プロパガンダを請け負うために、デザイナーやコピーライターたち二十三名が山名文夫のもとに集まり結成した企画制作者集団であった。この展覧会はパネルで構成されていたが、パノラマの華やかさも、立体感も乏しく、アクセントも少なかったが、文章、写真、イラスト、地図などのひとつひとつの表現がそれぞれに格調高く、知的で十分な説得力があった。反響は想像以上で大政翼賛会や情報局の注目を集め、読売新聞は巡回展を申し出るほどであった。「太平洋報道展」は小さな展覧会であったが、同月、大阪で開かれた「日本精神昂揚展覧会」をしのぎ、展示に一石を投じた。同研究会の作品としては、二尺×三尺（６００センチ×９００センチ）のパネル三十五枚で構成した１９４４年（昭和19）、大政翼賛会主催の「一億憤激米英撃摧展『これがアメリカだ』」がある。


太平洋報道展覧会（１９４１年）


研究会設立メンバー（左から2人目が山名文夫）



報道技術研究会制作のパネル


日本海海戦25周年記念 海と空の博覧会（１９３０年）


大礼記念国産復興東京博（１９２８年）


御大典奉祝名古屋博覧会（１９２８年）


産業総動員工業大博覧会（１９３５年）

昭和二十年代

百貨店は、統制団体や戦事工場に売場のおおくを供出して終戦をむかえた。それに対して展示業者の大半は、戦火で家財や仕事場を焼かれ、裸同様の姿で進駐軍施設のクリスマスツリー等を造って最初の冬をこした。そのような覚束無い足どりで、戦後を歩みはじめたが、思わぬ転機がおとずれ、ディスプレイ史の中でも稀に見る劇的な時代となる。それは、１９５０年（昭和25）に始まる朝鮮戦争にある。この特需景気によって日本の経済は息を吹き返し、好景気がつづいた。その間、アメリカから入ってきた大量生産・大量販売のシステムが作動をはじめ、瞬く間につむじ風のようになって全国に吹きあれ業界は多忙を極める。


戦後のクリスマス装飾


アメリカの専門誌『ディスプレイワールド』に掲載された高島屋大阪店のクリスマスデコレーション（１９５１年）

当時、わが国の宣伝活動は、ラジオ、新聞、雑誌などに依存していたが、それだけでは大量消費におぼつかない。そこで大衆の購買層に直接モノを見せて販売活動を促進させるディスプレイのメディアが台頭してくる。そしてその「場」は、集客力、宣伝力、信頼性と市民生活と直結しているとしてターゲットになったのは百貨店だった。都心の百貨店の催事場は、化繊、紡績、家電などのメーカーの新製品の展示場となり、１９５４年（昭和29）高島屋東京店で開かれた発明協会主催の「全日本発明展」では、各産業界の企業が、３６０というブースで会場を埋め尽くしたという例もある。戦後の博覧会もターゲットになる。復興博覧会も当初こそ資材の調達がむずかしく、小規模なものであったが、産業の回復に伴って規模が拡大し、毎年のように日本の各都市で開催されるようになっていく。この博覧会の特色を極論すれば、テーマ館をのぞく他のパビリオンは産業別に建てられ、その中にメーカーがブースを埋める見本市さながらの様相となっていった。この時運を、将来の大型市場が到来する兆しとして受取る業者もいる反面、不安視する声もあった。職人を中心としてきた企業体質で、産業社会をクライアントとして対応できるのだろうか、そんな不安だった。加えて当時の関係者の間では、メディアとしてのディスプレイの認識も十分ではなかった。


「全日本発明展」高島屋東京店（１９５４年）


教材とした専門誌のひとつ『エキジビション』より


教材とした専門誌のひとつ『エキジビション』より

昭和二十年代の後半にいたっても、ディスプレイという言葉は、まだ一般的ではなかった。

国際見本市

第一回国際見本市は、大阪で開かれた。国際見本市はわが国の産業の最高水準にある企業を、業種別に網羅し、バイヤーを誘致して商業活動をする「場」であるが、一般人にも公開された。外国からは十六ヶ国が参加し、出品ブースは八百を超えた。会期中には二十七万人の入場者を集め、動員力の大きさを見せつけた。以降、国際見本市は、東京・大阪・東京と主催地をかえながら、回を追ってその規模を拡大していった。

国際見本市は、業界に改革をもたらした。見本市の基礎小間の会場づくりや、業者の共同受注を切っ掛けとして、名古屋、大阪、東京の順に協同組合が誕生した。また、見本市に参加したアメリカ、カナダ、チェコスロバキアなどの優れたコンセプトによるディスプレイに刺激を受けたデザイナーたちが、１９５９年（昭和34）、「日本ディスプレイデザイン協会」の母体となる「日本展示美術協会」を結成したことなどがあげられる。


日本国際見本市におけるチェコスロバキアのブース


日本国際見本市における宇部興産ブース


日本ディスプレイデザイン協会の母体となった「日本展示美術協会」が誕生（１９５９年）

「ＣＩ」と呼ばれる企業戦略は、１９５１年（昭和26）ごろ日本に上陸してきた。あらゆるメディアを通じて視覚を統一し企業イメージを確立することを目的としている。国際見本市のディスプレイにもその影響がおこり、見本市という商業活動の場に「企業イメージ」を主張するブースが現れてくる。以来、より多様で高度なディスプレイが求められるようになり、コンペが導入されてくる。展示業者は競合により発信力、企画力、デザイン力などを磨き、社風を一変させ、攻撃的でタフな体質を身につけていく。業界は、「国際見本市」によって、来るべき「日本万国博覧会」に立ち向う布石を築いた。


日本国際見本市におけるニコンブース


日本国際見本市における日本紡績協会ブース

ディスプレイという言葉

ディスプレイの語源は《ラテン語のdisplicareで、中世ラテン語時代に〝開く〟を意味することになり、英語では〝人目にさらす〟と意味が生じた》と、英単語由来事典にある。この言葉が日本に紹介されたのは、１９１２年（大正元）大阪商品取引所で行われた催しの「実物広告ウィンドウ・ディスプレイ」が嚆矢とされている。だがウィンドウと重なった言葉は狭く、戦前では定着しなかったようだ。次に、登場するのは、１９５０年（昭和25）に、乃村工藝社が営業種目に「ディスプレイ」を取り上げたことだ。これは少なからず関係者を騒がせた。「だいたいディスプレイデザイナーという言葉など、日本中誰も知らなかったのではないでしょうか、私もその一人で蟻田さん（栄一・後の日デ連五代会長）から聞いたのが始まりです」と語った建築家の清家 清の言葉が、同社の社史『ディスプレイ１００年の旅』の中に残されている。蟻田は「装飾」という旧態依然の殻を打ち破りたかったに相違ない。だが、ディスプレイという言葉が、世間一般に理解されるまでには、なお時間を要した。１９６５年（昭和40）八月、大阪万博の開催が決定すると、ディスプレイ関連誌の創刊が相次いだ。その翌年、


大阪商品取引場


古い業界のイメージを払しょくするために英文だけの社用カタログなどが作られる（１９５０年頃）


古い業界のイメージを払しょくするために英文だけの社用カタログなどが作られる（１９５０年頃）

ディスプレイ業の原点と未来

東京・大阪・名古屋の三組合の会議で、万博の工事を受注するためには業界の全国組織の結成は不可欠で、それを推進するためにも業種の名称を「ディスプレイ業」に統一すべきだという意見が出された。そのような背景のもとで大阪でも「展示装飾業協同組合」の名称を「ディスプレイ業協同組合」と改名しようという提案が成された。当時の業界各社の営業種目は「装飾」「造型」「展示」などで、新しい協組名としては支障がある。その一方で、ディスプレイという新語もまだ世間の理解が難しく、業界内部でさえ認識が浅い、というのが反対派の意見だった。そのような難航というよりは低迷・停滞がつづく中で「――ここは将来に視点をおいて、既存語ではなく「ディスプレイ」という言葉とすべきだ、という水上さん（邦義・後の日デ連三代会長）の強い意志があって採用となった」と蟻田は語っている。



「日本ディスプレイ業団体連合会」の設立総会で第一声を発する乃村英一初代会長（1968年）

1967年（昭和42）大阪展示装飾業協同組合が大阪ディスプレイ協同組合と改名、つづいて東京展示造型業協同組合も改名、名古屋展示装飾業協同組合も改名した。また、業界の全国組織をつくる活動に応えて、九州、香川、京都、神奈川、北海道など日本各地からディスプレイ協会が次々と誕生し、1968年（昭和43）十九団体、構成員企業三百八十一社による「日本ディスプレイ業団体連合会」の創立に至った。

日本万国博覧会は成功しディスプレイ業の力を世界に示した。だが、その余韻にひたることもなく、日デ連は次々と事業をおこした。「ディスプレイ学園」の発足、「年鑑日本のディスプレイ」及び「図説ディスプレイ用語事典」の刊行。「通商産業大臣賞」の制定などである。だが、そのような活動のかげで、なお取り残されている問題があった。それは「日本標準産業分類」における「ディスプレイ業」の公的な位置付けにあった。なぜ取り残されたのか、その原因はディスプレイ業の業態の複雑さにあった。



『図説 ディスプレイ用語事典』

通産省へのアプローチは、1968年（昭和43）五月二十七日の日デ連創立時に、直ちに要望書が提出された。それ以降、熱心な折衝が重ねられた。当時の日本標準分類の一般原則では、一つの事業所で異種の活動が複合的に行われている場合は、売上高が最も多いものを業種とする、という決まりがあり、それに従って1972年（昭和47）「展示装置製造業」として格付けされた。だが、それは、ディスプレイ業の業務の一部分を示すもので「ソフト」を欠落させた言葉は実態からかけ離れたものとして、さらなる通産省との折衝がつづいてゆく。


官報
（号外）
告示
「ディスプレイ業」の格付けは、昭和59年1月10日発行の『官報』によって告知された。（1984年）

今西芳之（後の日デ連専務理事）は当初から仕上げまでの十六年間をほぼ一人で実務を完遂した。日本標準産業分類の業種の説明は、百五十字以内で書きあらわす定めとなっている。ディスプレイ業を四百字詰め原稿用紙の半分以下で書きあらわせる人は稀だ。加えてディスプレイ業の業態を熟知し、根気が兼ねそなわなければ務まるものではない。1981年（昭和56）の特定サービス産業実態調査を経て、1984年（昭和59）一月、日本標準産業分類の事業サービス業の中に「ディスプレイ業」として格付けされた。

わが国におけるディスプレイの業務範囲は年をおって拡大している。欧米においては「エキジビション」、「フェア」、「デコレーション」、「ディスプレイ」と分類されているのとは違う。わが国ではそれらを包含した事が、今日の発展に繋がったと言える。業界は、ディスプレイという言葉を大切にして育ててきた。この言葉は次の時代も、またその次の時代も、色褪せることはない。

株式会社 乃村工藝社　渡辺勝 会長
――（一社）日本ディスプレイ業団体連合会　会長



ディスプレイ業界の50年を振り返る

１９６８年、日本ディスプレイ業団体連合会（以下、日デ連）は2年後に開催される大阪万博を見据えて発足しました。当時の資料を見ると、発足当初から業界基準の作成や、日本ディスプレイ学園の設立など、その活動は非常に活発です。発足４年で日本標準産業分類に「展示装置製造業」が新設されたことを思えば、当時の会員企業と事務局が、いかに強い団結力と熱意をもって活動してきたかが分かります。

私はといえば、日デ連発足直後の１９７０年に乃村工藝社に入社。セールスプロモーション分野において長く仕事をしてきました。その過程には、高度経済成長期の終焉による「量から質へ」の価値の転換、１９８０年代の働き方改革による週休二日制スタートなどがあり、世の中は常に変化をしてきたように思います。そして業界の仕事も、こういった時代の中で変化し、どんどん裾野が広がっていきました。

今、業界が向き合う2つの課題

歴史を振り返りつつ、現在に目を向けると、今日の課題が浮き彫りになってきます。

まず一つは、日デ連設立当初から力を入れてきた「業界の認知度向上」の問題です。昔から我々の仕事は、「裏方」であり、先人達は裏方から企業を輝かせることで功績を残してこられました。しかしこれからは「表舞台の仕掛人」として、その存在を世にアピールしていかなくてはなりません。こうしたPRがあってこそ、業界の知名度や価値が向上し、それが人材確保にもつながる。ひとり一人が自分の仕事を世にPRしていく時代が来たのだと感じています。日デ連で主催している「ディスプレイ産業賞」も、昨年から日本経済新聞に掲載されるようになりました。これは世に、我々の仕事の価値を発信するよい機会です。今後もこういった機会を数多くつくり、より一層、業界を盛り立てていかねばなりません。

そしてもう一つの課題は、働き方改革についてです。先にも触れましたが、日本は30年以上も前から、この問題に取り組んでいます。しかし、いまだまったく成果が出ていない。世界に目を向けると、現在、日本における一人あたりのGDPは、世界第25位[※1]。非常に低い結果です。ここに潜むのは、「生産性」の問題でしょう。これを解決するためには、組織で、個々で常に生産性を意識し、新たな働き方の模索、実行が必要になります。

また、働き方改革の中には女性活躍の問題もあります。歴史を振り返れば、この業界は男社会であったと言えるでしょう。しかしながら、これからは女性がその視点から新しいサービスを打ち出し、価値を生むことが大切になります。日本の少子高齢化が加速するとともに、労働力の問題も深刻化していきます。そういった意味でも、女性が活躍できる場所を増やしていくことは、非常に重要なのです。



ディスプレイ業界の未来

来年再来年には、ラグビーのワールドカップ、東京２０２０オリンピック・パラリンピックが開催されます。これに関連して、業界ではインバウンドでの需要が伸びてくるでしょう。それは都市部のみならず、地方にも言えることです。日本各地が外国人観光客を意識した対策を打つ。そこには我々の活躍の場が数多くあります。私は、ぜひそこで日デ連の会員企業が連携し、パートナーシップを持って、全国各地で仕事をしていければと考えています。会員間での取引や連携はノウハウや技術の共有、人財の交流を生み、業界の組織力を向上させます。ぜひ、そのような体制をともにつくっていきましょう。

インバウンドの需要はしばらく続くはずです。現在の訪日外客数は約２８６０万人[※2]ですが、私はいずれ、日本はフランスの外国人訪問者数８０００万人を越えるはずだと考えています。日本の豊かな食文化と観光資源、治安の良さ、親切な人間性など思えば、この数字は夢物語ではない。この機会を業界のチャンスと捉え、ともに躍進していければと思います。



一方で高齢化先進国でもある日本は、コミュニケーション領域においても大きな変革期を迎えています。労働人口の減少を背景として、ＩＴ化からＡＩ化が加速。これにより、場所と時間の概念が薄れてくるという現象が起きています。ローカルニュースが瞬時に世界に拡散される時代。情報やモノは場所から場所へと直接動き、その中で、おそらく近い将来、「地方」という概念自体がなくなるのではないでしょうか。そして、コミュニケーションは、集団から個々へと変化し、場所や人数を必要としない新たな展開をみせます。

これまでディスプレイ業界は、リアルなコミュニケーションシーンをつくってきましたが、今後は個々のリアル体験を創造するメディアを提供していかなければなりません。そして、ＡＩが予測できない感動体験をつくり、人々に届けなくてはならない。それが、我々が生き残る道だと私は考えます。

現在は、そういった未来を予測しつつ、次の手を考える準備期間かもしれません。世界はこれからどう変わっていくか、それを個々で、業界全体で見極め、ともに変革への準備を整えていきましょう。

※1　２０１８年4月現在。
　　17年度データ・グローバルノート調べ
※2　17年度・ＪＮＴＯ調べ

インタビュー・文／笠井 美春

私のディスプレイ歴

1969年
アルバイトとして乃村工藝社での仕事をスタート。

1970年
乃村工藝社に入社。POP部門に配属。大手電機メーカーとの取引を６倍に拡大させるなど、入社数年で頭角を現す。

1980年代
百貨店担当として店舗改装などを数多く手がける。その人脈から、インポートブランド日本国内出店を担当。

1990年代
46歳で役員就任。バブル崩壊後の商環境事業部を支える。

2000年代
07年、代表取締役社長に。就任直後から、リーマンショック、東日本大震災を経験。社員全員に「危機感を持とう」と語りかけ、一丸となって危機を乗りきる。

2015年
代表取締役会長に就任。



次世代へのメッセージ

①常に明日仕事がなくなるかもしれないという「危機感」を持って仕事をする。それがあれば苦難を乗り越えられます。
②今やりたいことは、今やるべし。お金をためてからやろうと思っていたら、今の感性がなくなってしまいますから。

株式会社 丹青社　青田嘉光会長
――（一社）日本ディスプレイ業団体連合会　常任理事



私が歩んできたディスプレイの世界

１９７０年、私は武蔵野美術大学を卒業後、商業デザイナーになりたいという思いで、丹青社に入社しました。当時は「デザインの乃村」、「野武士の丹青」と言われていて、どこを受けようかと悩んでいたら、担任の先生から「お前は丹青だな」と言われたんです。「俺はスマートなはずなのに、おかしいな」と首を傾げつつ、丹青社を受けた記憶がありますね。

入社当初は、希望通り商業部門で店舗の内装ディスプレイのデザインを担当。３年目でようやく本格的に百貨店のデザインに関われるチャンスに恵まれたものの、突然、文化空間部門に異動になりました。１９７０年代は、各地で文化施設が次々と建てられた時代。私は、最初に手がけた秋田県立博物館を皮切りに、大阪の国立民族学博物館、ブラジルの移民資料館などのデザイン業務を立て続けに担当。とにかく忙しく、国内外を飛び回りました。その中で出会ったのが、民博の梅棹忠夫初代館長をはじめとする、日本を代表する学者の方々です。先生方と一緒に深く仕事を掘り下げることができたことが、私を文化空間デザインの面白さに開眼させるきっかけになりましたね。それを経て、そこから30数年、私は文化空間デザイン一筋に歩むことになりました。

リーマンショックや震災を経て

２０００年以降の業界は、リーマンショック、震災と苦難の時期を迎えていました。当社でも、２０１０年、私が社長に就任して最初に宣言したのは、「利益の回復を目指した組織体質の改善」。そのために社員や株主みなさんには多大な苦労をかけることになりました。私自身、何度も眠れぬ夜を過ごしましたが、同じように苦しい時期を耐えてきた企業が多くあったはずです。

その数々の苦難をようやく乗り越えた今、業界はどう動いていくべきなのでしょうか。20年のオリンピック・パラリンピックのその先を見据え、業界として、未来の日本にどのような形で貢献していけるかについて、考えるべき時がやってきたのではないかと、私は考えます。

インバウンド領域で活躍する業界に

現在の日本は少子高齢化が進み、いくつかの自治体では数年後に人口が半減。自治体としての機能を果たせなくなる可能性すら見えてきました。これは日本の国力低下を意味しています。そんな中、注目すべきは観光領域ではないでしょうか。人口減少により低下する日本のＧＤＰを、インバウンド観光の発展により引上げ、支えることが可能だと私は考えています。そして、そこに大きく貢献できる業界こそ、ディスプレイ業界なのです。



例えば訪日観光客が、最初に日本に触れる場所である空港、宿泊するホテル、これらの空間をデザインするのは私たちの仕事です。さらに、ショッピングを楽しむ店舗、飲食店、文化施設、エンターテインメント施設など、各過程で観光客が触れる〝日本〟を作り上げるのも私たち。私たちの仕事は、治安の良さなどから人気となっている日本の観光価値をさらに高め、観光客の「また来たい」を創造することができるのです。

２０２０年にはオリンピック・パラリンピックを控えていますが、日本はここで多くの外国人を受け入れることになります。これに向けて、ホテル整備やエンターテインメント施設の整備、拡張が行われる。そこは、ディスプレイの力の見せ所です。ぜひ、業界全体でこれに貢献し、日本のインバウンド領域を支える力になっていきたいですね。

ディスプレイ業界は、まだまだ活躍機会の広がりがある業界です。未来は明るい。ぜひ、近い将来だけではなく、その先にも目をむけ、目標、目的をはっきりと捉えて進んでいきましょう。

業界全体が幸せになれる未来を

現在私は、ディスプレイ振興委員会委員長を務めていますが、２０１８年はその活動として富山と福岡で「ディスプレイセミナー」を開催しました。内容は、この業界の仕事、魅力、この仕事における社会貢献について。参加してくれた学生や地元企業のみなさんからは、「こんなに幅広く活躍している業界だとは知らなかった」という言葉や、「業界の魅力を伝えるいいセミナーだった」との声をいただいています。

日デ連には現在７５０社以上の会社が加入していますが、その規模や活動内容は様々です。すべての企業が均等に発展し、幸せになっているかと言えば、まだそこには達していないのが実情でしょう。だからこそ業界全体が活性化し、そこで働く人全員が幸せになるためにも、業界を紹介するこういったセミナーは大切だと改めて感じました。業界の知名度を上げ、多くの若者に業界で働いてみたいと思わせられるよう、そして、業界で働く人全員が、業界の仕事に誇りを持って働いていけるように、我々はこういったＰＲ活動をしっかり続けていかなければと思っています。



次世代を担うみなさんへ

会社という枠にとらわれず、その組織力を活かして夢を実現して欲しいと思います。自己実現のために、会社を利用していいんです。自分が作りたかったものを作る、一緒に仕事をしてみたいと考えていた会社にアプローチするなど、やってみたいことにどんどん挑戦してください。会社に埋没することなく、個の力を全面に出していけばいい。（もちろんルールとマナーは守りながらではありますが）私自身もそうしてきたように、若手のみなさんにもそうしてほしいと思っています。

インタビュー・文／笠井 美春

私のディスプレイ歴

1970年代
デザイナーとして丹青社に入社。商業空間部門で店舗内装のデザインに携わる。3年後に文化空間部門へ異動。
最初に携わった秋田県立博物館では、熊狩りへの同行や、水中ボンベを背負った海中写真撮影など、予想外の仕事の幅広さに必死に取り組みながら、その後も、大阪の国立民族学博物館、ブラジルの日本移民資料館などに携わる。

1980年代
博物館の建設ラッシュにより、全国各地を飛び回り、博物館の空間づくり、事業のマネジメントを手がける。

1997年
取締役就任。

2010年
代表取締役社長就任。『日本一元気な会社になろう』と経営再生プログラムを発表。

2017年
代表取締役会長に就任。



次世代へのメッセージ

デザイナーや制作、様々な職種や分野の経験を積んだ人が経営者になると、それぞれの経験が生かされ、組織は活性化していくものです。力を注いだ経験は、自らの糧になります。みなさんも、ぜひたくさんの挑戦をしてください。

株式会社 シミズオクト 清水卓治 会長

（一社）日本ディスプレイ業団体連合会 監事



シミズオクトが見たディスプレイ業界

日デ連は空間デザイン関連の会員企業が多いのですが、当社の仕事は、それとは少し違う分野にあります。そのため、他社とは違った角度からディスプレイ業界の歩みを見てきたと言えるかもしれません。

当社の設立は１９５９年。先代は、設立以前からスポーツ施設のよろず請負業として様々な仕事をまかされ、１９６４年の東京オリンピックでは会場清掃、設営、販売業務を一部請け負うまでになっていました。私が入社したのはオリンピックの翌年。当時の主な仕事場は、東京体育館や日本武道館で、先代から「仕事はたくさんある」と聞いていたものの、蓋を開けてみれば、畳担ぎばかりだった記憶があります。

その武道館が、武道ではなくコンサート会場などに使用されるようになったのは１９６６年、ビートルズの初来日コンサート以降のこと。年間約１００日を武道に、その他の日程はテレビやラジオの公開収録などに使われるようになりました。そういった変化の中、私たちの仕事もスポーツからイベント、舞台装飾へと広がっていったのです。

一方、ディスプレイ業界は、70年の大阪万博を契機として日デ連が発足し、活躍の場を広げていました。80年代は文化、商業施設の建築、改装ラッシュ。非常に活気にあふれていたように思います。

そこから約30年。景気低迷や災害など様々な苦難を乗り越えて、私たちは今、より強い結束を持って、２年後の東京オリンピックを迎えようとしています。

東京オリンピックの施設活用を

来たる東京オリンピックでは33競技、パラリンピックでは22競技が同時期に実施されます。これには当社を含め、関係企業それぞれが力を結集しなくてはなりません。やるしかないといった状況ですね。そして、この規模のスポーツの祭典をやるからには、ぜひ、日本に多くのスポーツが根づいて欲しいと、私は願っています。

というのも、今日の日本のプロスポーツは、野球もサッカーも繁栄してはいるものの、実際には赤字経営をしているチーム、施設が数多くあるのです。そこには、二つの問題が潜んでいます。一つは日本人にまだスポーツ文化が浸透しきっていないこと。そして、もう一つは施設維持のための仕組みが不十分であることです。

例えば、新国立競技場の収容人数は、以前の６万人から８万人になります。これにより、サッカーのワールドカップを誘致するだけの座席数を確保できる。そこでオリンピック後はサッカーやラグビーでの使用を見込んでいるのですが、実際にはどのように活用されていくのか、その運営形態はまだまだ不透明です。



こういった施設は、仕組みなしには維持できません。サッカーでいえば、昔のヴエルディ川崎（Ｊリーグ開幕当初の呼称）、今のヴィッセル神戸のように、人気のあるチームを作り、チケットを売り、いい選手を呼び、チームの人気が上昇、そのスポーツ全体が盛り上がる。こういった循環の構図がとても重要なのです。

オリンピックを機会に、スポーツを愛する心が日本に定着し、より一層盛り上がれば、この循環がよくなります。そして、オリンピックで建設される多くの施設において、その後のよりよい活用法、循環の仕組みを考えていくことも、今後、我々業界の大きな仕事となるのではないでしょうか。

スポーツ施設の循環と地方創生

２０１５年に設立されたプロバスケットボールのトップリーグ「Ｂリーグ」でも、アリーナの新設ラッシュが予想されています。というのも現在、Ｂリーグではホームアリーナの収容人数規定が５０００人以上（Ｂ１）となっており、横浜文化体育館や千葉ポートアリーナをはじめ、多くの体育館がこれに満たない。そこで、全国各地で建て替えが行われる予定なのです。

バスケットは若者に非常に人気のあるスポーツです。ＮＢＡが１~２万規模のアリーナで試合を行っていることを考えると、今後、日本でも成長が見込めます。とはいえ、このアリーナをバスケットだけで維持するのは難しい。だからこそ、他のスポーツやイベント、コンサートなど様々な施設の活用方法を見出さなくてはなりません。

特筆すべきは、これらのアリーナが全国各地に建設されるということ。これは周辺地域への還元など、施設を地方創生に役立てるよい機会となるはずです。ここもまた業界の腕の見せ所。ぜひ、こういった機会を業界発展のチャンスと捉え、ともに社会に貢献していきましょう。



若い世代にこの仕事の魅力を伝えたい

近年、多くの若者たちが当社の扉を叩いてくれます。ぜひ彼らを育て、その才能を伸ばし、夢や理想を実現できるようにしてあげたい。そのためにも受け入れ態勢を整えることに、今、力を注いでいます。

一方でこの仕事においては、どうしてもコンサートの設営を一晩で行わなくてはならないこともある。現実は厳しいのですが、それを乗り越える先に、楽しさがあるのも真実です。

ディスプレイ業の仕事は、人々に充実感や幸福感を与える仕事。そこには苦労もあるが、それに勝るだけの魅力がある。若い世代に向けては、そのことをしっかりと伝えていきたいと考えています。

インタビュー・文／笠井 美春

私のディスプレイ歴

1967年
シミズスポーツサービスセンターに入社。清水芳一初代社長のもとで仕事を学ぶ。

1970年代
72年、初代社長没。「裏方ひとすじ」の精神を引き継ぎ、代表取締役に就任。シミズ舞台工芸設立。サーカスや音楽祭、コンサートなどを多く手がける。

1980年代
山口百恵やピンクレディなど、人気アーティストのコンサートを数多く手がける。

1990年代
横浜アリーナや幕張メッセのオープンを受けて、活動場所が拡大。スポーツ、芸能、博覧会と幅広い分野で活躍。

2000年代
01年、シミズオクト誕生。ドーム、アリーナ、野外会場が多く誕生し、大規模なイベントを多数手がける。

2005年
代表取締役会長に就任。



次世代へのメッセージ

我々の仕事は、イベントそのものだけでなく、地域の活性化、地方創生にも貢献できます。その自覚と誇りを持って仕事に励みましょう。また、若いうちに商業施設士などの資格を取得するなど、ぜひ、その道を究めてほしいと思います。

ディスプレイTOPクロストーク

渡辺会長、青田会長、清水会長から、他のお二人宛てに質問をいただき、それぞれに回答していただきました。

渡辺会長の回答



清水会長から→

Q ディスプレイ業の理想・魅力を若者にどうPRする？

A 青田会長が中心となって開催している、学生を対象としたNDFディスプレイセミナーは、回数を重ねるごとに内容が深くなり、とてもいい効果を生んでいます。何より現役のプランナー、デザイナーが現地に行き、リアルな声で業界の魅力を伝えていることに意味がある。こうした活動はぜひ続けていくべきですね。また、仕事における感動や喜びは、社内でも発信してほしい。社内で共有されれば、そこからまたいい仕事が生まれるはず。そういった意味でも社内外で自らの仕事の魅力を伝えられる人材を育てていくべきでしょうね。

青田会長の回答



渡辺会長から→

Q 社長から会長になって心境の変化は？

A 「人を愛する力」がより湧いてきました。カッコいいことを言いたいわけではないんですが、まず自社のことから考えてきた社長時代にくらべて視野が広がり、業界全体のバリュー、業界の皆が幸せになれるようにしたいという気持ちが芽生えたんです。例えばこの業界で働いている若者の両親が、「ディスプレイ業界」と聞いただけで、自分の子どもの仕事をイメージできるくらいにまで、業界の知名度を上げていきたいですね。そのためにもセミナーやその他の PR活動に力を注ぎたいです。

清水会長の回答



青田会長から→

Q 今注目しているスポーツ、これから人気になるだろうスポーツは？

A オリンピック後、新国立競技場の活用に名前があがっているフットボールには注目しています。その他のスポーツもオリンピックで人気が上昇するものが数多くあるといいですね。

また、今後人気が上昇するだろうスポーツは、やはりバスケットボールです。背が伸びる競技として中高生に人気がありますし、何より得点がたくさん入るので、盛りあがりやすく、子どもにも分かりやすい。かならず人気がでてくるスポーツだと思いますよ。

渡辺会長の回答

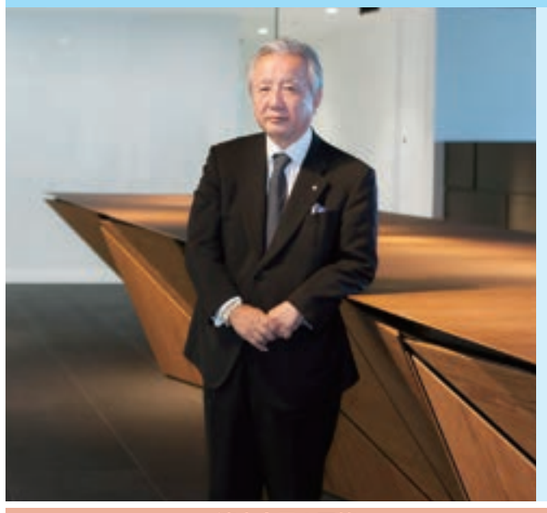


青田会長から→

Q 若い社員との世代間ギャップは感じる？それを克服するには？

A 我々世代とは違うなぁ、と感じるのは、「こうしたい、ああなりたい」というアピールがあまりないところ。競争世代の我々が持っていたハングリー精神みたいなものは、あまり感じません。だから、どんな言葉が響くのか迷うこともあります。でも、彼らにも夢や、やりたいことがあるはず。だからこそ入社して早々に、「会社を利用して、自己実現をしよう」、「誰でも社長になれる」、「ダメな上司にはついていくな」など、彼らが思うがままに働けるよう、そんなメッセージを伝えています。

青田会長の回答



清水会長から→

Q 業界に入社してきた若者へ言いたいことは？

A インタビューでも少し言及しましたが、「日本が抱える少子高齢化などの諸問題に、ディスプレイ業界として立ち向かっていこう！」というチャレンジ精神をぜひ持ってほしいと思います。そのためにも広い視野・視点で物事を捉える思考を持っていてください。

それから、私のように商業デザイナーになりたいと思って入社しても、文化施設一筋のデザイナーになる未来があるかもしれない。予定外のことが起きても、そこにはその面白味があり、出会いがある。それを糧にして成長し、夢を叶えてほしいと思います。

清水会長の回答



渡辺会長から→

Q 環境・安全確保における対策について、どう考えますか？

A 1999年、野外コンサート開催の3日前に、音響・照明機材を取り付けたステージのトラスが暴風によって一部倒壊する事故がありました。我々はこれを機に、舞台・音響・照明各社におけるNPO法人日本舞台技術安全協会を設立。各社連携し、安全衛生研修やリギング（吊り）研修などを行うようになりました。イベント会場の大規模化により、ステージ設営の難易度は上がる一方。確固たるリギング技術は必須項目です。私たちは日々進歩する技術を習得するとともに、安全確保にも積極的に取り組まなくてはなりません。

日デ連50周年記念　次世代座談会

まだ暑さの厳しい7月某日。東京・京橋の日デ連事務局会議室にて、会員企業に所属する5名の有志による座談会が開催されました。お集まりいただいたみなさんは、会社はもちろん職種も年齢も性別もさまざま。それぞれの視点から考える、「ディスプレイの仕事の魅力」や「やりがい」、「働き方改革」などについて語り合っていただきました。

Text／笠井 美春



次世代メンバーが語る ディスプレイ業界の今と、これから

■まずは自己紹介をお願いします。

小山内　株式会社ムラヤマで営業をしている小山内です。現在は広告代理店を中心としたお客様に対し、イベントなどのプランニングや現場設営などを行っています。

澤谷　小林工芸社でデザイナーをしています。入社4年目の澤谷です。ディスプレイ什器のデザインや、店舗イベント装飾の提案に携わっています。

梶村　株式会社乃村工藝社でプランナーをしている梶村です。企業プロモーションや展示会、ショールーム、商業空間のプランニングをしています。

飯野　株式会社博展の製作部で業務推進という仕事をしている、入社5年目の飯野です。仕事内容は部内のスケジュール管理や協力会社のアサインなどになります。

山本　株式会社フジヤの山本です。広告代理店で数年間勤務した後、フジヤに中途入社し、現在は物販店を中心とした商業施設の営業を行っています。

■職種の違う皆さんですが、ディスプレイ業の仕事では、どのような瞬間に、やりがいを感じますか？

小山内　私の仕事は仮設が多いので、やはり撤去の瞬間には充実感があります。まっさらになった会場をみると、やりきった感がありますよね。

飯野　私もそうです。実は今年の1月までは製作スタッフとしてスタジオで

の木工製作や、設営、現場管理などをしていました。それもあってか、やはり撤去後の安堵感、達成感は特別だと感じます。

山本　確かに撤去の瞬間は充実感がありますよね。私は広告代理店からフジヤに転職したんですが、そのきっかけは前職で展示会の仕事に携わったことだったんです。初めてディスプレイ業の仕事を見た時、とにかく驚きました。まさかあのブースが2日程度で設営されているとは思いませんでしたし、撤去のスピードにもびっくりしましたね。ブースが立ち上がる時の高揚感と撤去時の達成感。この仕事の現場には、「ものづくりの魅力」がすべてつまっていますよね。私は、そこに面白さを感じて転職したんです。

飯野　そうなんですね。私も現場の仕事は好きだったので、そのお話はなんだかうれしいです。

澤谷　私の仕事は店舗のディスプレイ装飾がメインになるので、今のやりがいはお客様に「いいデザインだね」と言ってもらえた時でしょうか。自分でも納得のいくデザインが提出できた時にも「よしっ」と思えます。

山本　お客様からの言葉にやりがいを感じることは多いですね。「まかせた」と言ってもらえた時など、信頼してもらえていることが嬉しいですし、「いい仕事をしよう」という気持ちが、さらにわいてきます。

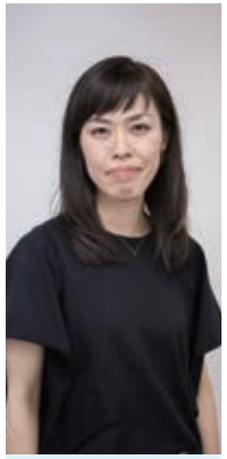
梶村　展示会でも商業空間でも、現場にはこの仕事の面白味がつまっている



飯野 達也
tatsuya iino

≪製作・業務推進≫

株式会社博展
制作本部
製作部 業務推進課
入社5年目



梶村 直美
naomi kajimura

≪プランナー≫

株式会社乃村工藝社
業務統括本部
プランニング統括部
企画1部　第4ルーム



澤谷 奈々
nana sawaya

≪デザイナー≫

株式会社小林工芸社
第2ビジネスプロデュース事業部
クリエイティブグループ
入社4年目



山本 義明
yoshiaki yamamoto

≪営業≫

株式会社フジヤ
東京SC事業本部
第１事業部
1グループ セールスマーケティングユニット
課長



小山内 賢
satoru osanai

≪営業≫

株式会社ムラヤマ
第２営業グループ
第２営業セクション
主任

と私も思います。企業の施設の中には、構想から開業まで5年かかったものもありました。長期で携わったこのような空間に人が入り、そこでの反応を見た時はとても感動しますね。今も、目の前でユーザーの感情が動く瞬間を見られることに、やりがいを感じています。

■最近の仕事のトレンドについて教えてください。時代とともに増えてきた仕事などはありますか？

梶村　最近、「働き方改革」の影響をうけてか、「働く場づくり」の仕事が増えてきています。

澤谷　シェアオフィスとか、そういったことですか？

梶村　それもあるんですが、オフィスの改装などが多くなっていますね。より効率的で、快適に仕事をできるオフィスにしたいという要望をよく聞きくようになりました。

山本　なるほど。それも時代の流れですね。具体的にはどんなふうにプランニングを進めていくんですか？

梶村　社員の皆さんのオフィス内での動き、導線をチェックしたり、ニーズをインタビューしたりして、理想の形をつくっていきます。今は、効率的であることはもちろんですが、「気持ちをリセットできること」や「暮らしを豊かにすること」などがオフィスにも求められています。社員同士の交流が自然に生まれて、そこからイノベー

ブースが立ち上がる時の高揚感と撤去時の達成感。この仕事の現場には、「ものづくりの魅力」がすべてつまっています。（山本）



ションがたくさん起こるオフィス。それが望まれているようです。

山本　風通しのよい環境を、オフィスのデザインでつくっていく。それは、とてもやりがいのある仕事ですね。確かにその分野は今後、もっとニーズが増えてくるかもしれないと思いました。先ほど澤谷さんが言っていたシェアオフィスも最近増えてきましたし、そういった「働く空間づくり」はこれから注目すべき分野かもしれません。

梶村　商業空間では「滞在時間を増やすこと」を主に考えてきましたが、オフィス空間では「心地よく過ごす」「効率よく働く」「イノベーションを生む」など、すこし違った視点が必要で、そこが面白いと思いながら取り組んでいます。

飯野　オフィスリニューアルの仕事が成熟してくれば、リノベーションの分野にも進出できる可能性が出てくるようにも思います。

澤谷　そうですね。新たな技術が磨かれたりすることで、そういった可能性も出てくるかもしれません。

小山内　話を聞いていて思うのですが、この業界の仕事は、時代に合わせて内容や手法がどんどん変わっていきますよね。イベントや展示会の仕事でも、常に新しいもの、面白いものを取り入れていきますし。

梶村　トレンドをフレッシュなうちに取り入れて、うまく料理し、効果を出すことが求められる仕事ですよね。

飯野　そうですね。最新の技術を取り入れるために勉強も必要ですが、それも面白かったりします。博展では最近３Ｄプリンターの工場見学に行ったんですよ。それを経て、実際に３Ｄプリンターの技術を取り入れるならば、製作の仕組み、つくり方にも大きな変化が出てくるだろうなと感じました。

小山内　３Ｄプリンターは、確かに今後業界に入って来そうな最新技術のひとつですね。

澤谷　あっという間に新しい技術が誕生するので、常にアンテナをはり、変化することに慣れておかなくてはいけませんね。その変化を楽しめると、仕事が面白くなる気がします。

目の前でユーザーの感情が動く瞬間を見られることに、やりがいを感じています。（梶村）



■今後やってみたいこと、挑戦したいことはありますか？

澤谷　私は、まずは自己成長をしなくては、と思っています。ブランドの立ち上げに携わったり、コンセプト決定から案件に関わったりできるデザイナーになるために、日々経験を積んでいます。

梶村　私も企画の立ち上げから運営まで見据えて、長期目線で信頼して任せていただけるプランナーになるために、いろいろな経験を積みたいなぁと思っています。例えばカフェを開いてみるのもいいかもしれません。企画から立ち上げまで経験し、さらに運営もやってみるとか。

飯野　面白いですね。そこで得たノウハウは絶対に役に立つ気がします。私が、今後やってみたいというか、やるべきだなと感じているのは展示会などの「効果測定」です。このことについては、よく同期の営業マンと話していて話題に上るんですよ。例えばその展示会の開催前と開催後でどんな変化があったか、また来場者の心に、どこでどんな変化があったか。それを可視化して欲しいという要望が多くなっていますよね。それにどう対応していくか、今後しっかり考えていかなくてはならないと思うんです。

山本　確かにそうですね。人の流れや変化を追跡して欲しいというオーダーは多くなっています。

小山内　でも、それを可視化することは、とても難しいんですよね。データを取ることはもちろんですが、そこからしっかりとした分析を行ない、何が正解なのかをお客様に提示しなくてはなりません。

梶村　そうですよね。様々な課題もありますが、これに関する要望が多くなっていることは事実です。実は少し前から、当社も「人流センサリングシステム」を使ったデータ測定・分析には取り組み始めているんです。社会的なニーズを考えると、業界として、今後、取り組むべきことなのかもしれませんね。

■２０２０年のオリンピック開催をどう捉えていますか？

小山内　期待も不安もありますね。大規模な国際大会なので、はなやかな仕事や、これまでになかった新たな仕事が発生するのではないかという期待。そして、クライアントの予算がオリンピック関連のものに多く割かれ、その他の仕事が激減するのではないかという不安。どちらもありますが、とにかく、どんなことが起こるのか分からないので、何が起こっても対応できるようにしておかなくては、と思っています。

社員同士の交流が自然に生まれて、そこからイノベーションが起こるオフィスづくりが望まれています。（梶村）

山本　私も同じような気持ちです。来年にはラグビーのワールドカップがあり、その翌年にはオリンピック・パラリンピックが開催される。この機会に新しい仕事をしっかり取ってこなくてはという気持ちもありますが、国際大会が続く中で、どんな事態が発生するのか、仕事はあるのか、危機感もあります。

梶村　そうですね。私も不安はありつつも、大切な機会だと感じています。まずは大会を成功させることを考え、そして、大会が終わった後のことも忘れずに考えなくてはいけません。オリンピックを終えた後の日本がどのようになっているのか想像し、備えておく必要がありそうです。

■ディスプレイ業界の「働き方改革」

飯野　博展は数年前からフレックス制になり、現場設営で、どうしても夜に働かなくてはならないことのある製作部署のメンバーは、働きやすくなりました。



新しいもの、面白いものを取り入れ、時代に合わせて内容や手法がどんどん変わるのがディスプレイ業の仕事です。（小山内）

小山内　いいですね。ムラヤマでは、まだその段階ではなくて、フレキシブルな働き方をできるよう準備をしている途中のようです。この業界は設営などで「夜に動かなくてはならないこと」が、どうしてもあります。だからこそ、そこに対応できるようにしたいですよね。

澤谷　小林工芸社も、昨年からフレックスタイム制が導入されました。残業が減るなど、いいこともありますが、時間を決めないとチーム全員が揃いづらいこともありますね。

山本　それがフレックスの難しいところですよね。勤務時間が自由になるかわりに、コミュニケーションが取りづらくなる。それを回避する対策をとっていかなくてはなりませんね。フジヤは月２回、ノー残業デイがありますよ。定時は17時半、18時までに退社となっています。早く帰った日は飲みに出かけたり、習い事に行ったり、皆それぞれリフレッシュして、楽しんでいるようです。

梶村　乃村工藝社では、数年前から介護や育児など、様々な事情を抱える社員が、無理なく働き続けるための制度が整えられました。サテライト、フレックス、一部で在宅勤務も認められるなど、どこにいても働ける体制になってきましたね。

澤谷　これからは育児だけでなく、介護など様々な事情に配慮した働き方が求められますよね。

小山内　そうですね。それに対応していかなくてはなりません。

山本　会員企業が、こうして様々な「働き方」への対策を取っているので、そのノウハウを共有して、一緒に働きやすい仕組みが整っている業界をつくっていけるといいですね。

飯野　同業なので、同じ悩みを抱えていることも多いですし、業界での情報交換は、ぜひ行っていきたいです。

梶村　「働きやすさ」といえば、最近、当社ではオフィスリニューアルがあったんですよ。社内コンペで企画を募集して、ワンフロアを丸ごと改装し、リセットスペースをつくったんです。カフェテリアエリアと、打ち合わせエリア、本や資料などを置いてあるエリア、集中できるデスクエリアが複合している場所で、いつも賑わっています。

澤谷　どんな企画が採用されたんですか？

梶村　若手が出した企画では、「先輩がどんな本を読んでいるのか知りたい」というものが採用され、「オススメの書籍」が展示されるエリアができました。その場で読んだりできるので、活用されていますし、面白いですよ。

飯野　先ほど話にあがっていたトレンドのオフィス改装の自社版ですね。どのエリアが人気ですか？

梶村　打ち合わせスペースは広くて、テーブルも大小様々。デザイナーズチェアなども置いてあるので、いつも誰かが打ち合わせや個人の作業などで使っていますね。跳び箱などが置いてあったり、ちょっとした遊び心があって、「らしさ」が出ているように思います。私たちの仕事を見ていただくた

まずは自己成長をしなくては。ブランドの立ち上げに携わったり、コンセプト決定から案件に関わったりできるデザイナーになりたいです。（澤谷）





私が、今後やってみたいというか、やるべきだなと感じているのは展示会などの「効果測定」です。（飯野）

なくなってきているように思います。それぞれが自分の特性を活かして活躍しているというか。女性が活躍することに違和感も珍しさもないですね。

飯野　博展もそうです。部署によって比率は変わってくると思いますが、女性もたくさん活躍しているし、産休育休から復帰して働くことも当たりまえになっています。

梶村　いろいろな働き方が認められてきたこともあって、各社ともに女性が活躍できる風土が整ってきているように思えますね。次のステージは、女性の管理職を増やしたりすることでしょうか。

小山内　そうですね。現場には、やはり男性が多い業界なので、外から見るとまだまだ男性社会なのかもしれません。そこに女性視点が入ってくると、いい変化があるようにも思います。

山本　確かにそうですね。フジヤは女性の管理職はまだまだ多くはありません。そこは今後の課題と言えそうです。

■地方貢献、活性化について

山本　最近、県のアンテナショップなどを手がけることがあったのですが、「地方の魅力」を発信力のある東京から伝えていくことの大切さを、改めて感じました。みなさんはそういった地域活性化や地方創生に関する仕事について、どう思いますか？

梶村　ニーズとしても多くなってきていますよね。地域の魅力をどうＰＲするか、そして、地方に向かう人の流れをどうつくるか。私たちの仕事が生きてくる分野だと思います。

小山内　そうですね。どうしてもイベントやエンターテイメント、アートは東京などの大都市に集中しがちです。でも地方にもニーズはある。どうやってそれらを地方に展開していくか、地方における注目をどう集めるかなどを考えていくことも、私たちの仕事だと思います。

飯野　そうですね。山本さんの手がけているアンテナショップのように、地方のいいものを都会で発信するという方向性と、都会のエンターテイメントを地方に持ち込むという方向性、どちらもあると、より活性化が図れるように思います。

澤谷　伝統文化や伝統工芸などは、ぜひもっとＰＲできる場をつくっていきたいですよね。地方にある隠れた魅力を発見し、東京などで紹介することで、注目が集まる。私もそこに貢献していきたいです。

山本　アンテナショップの仕事で、県の方々の生の声を聞いていると、「美味しいものや美しい景色をもっと伝えたい」という強い気持ちを、皆さんが持っていることが分かります。

同業企業で「働き方対策」についてノウハウを共有し、一緒に働きやすい仕組みが整っている業界をつくっていけるといいですね。（山本）



梶村　そこにどう光を当てるかが、大切になってきますね。

山本　そうなんです。こういった仕事はこれから増えてきそうですよね。

小山内　日デ連は全国に会員企業がありますし、地方での仕事なども含め、様々な会社でコラボしていきたいですね。随分前ですが、博展さんとムラヤマで一緒に仕事をする機会があって、とても面白かったんですよ。

飯野　そうなんですか？　知らなかったです。そんな機会があったりするんですね。

小山内　それぞれの強みを活かし合って仕事をしたんです。お互いの仕事の仕方を目の当たりにして、新たな発見



があり、勉強になる機会でした。

飯野　ぜひ、そういう機会を増やしていきたいですね。

山本　いつも競合になることが多いですが、手を取り合うことで共に成長できる機会を得るのも、いいかもしれませんね。

梶村　そういうネットワークが業界でつくれるといいですね。最新のものを取り入れていかなければならない業界なので、各地トレンドなども含めて情報共有は大事な気がします。

澤谷　私も今は、社内で学ぶことも多いですが、社外で他社のデザイナーさんの仕事を見たり、学んだりしてみたいです。

日デ連は全国に会員企業がありますし、地方での仕事なども含め、様々な会社でコラボしていきたいですね。（小山内）

世の中の「ちょっともったいない空間」を「楽しい空間」に変えていくのが私たちの仕事です。（梶村）

梶村　そうですよね。業界全体で技術向上や活躍機会を増やすことに取り組めると、いいなと思います。

■最後に、業界の知名度向上や人材獲得のために、「ディスプレイ業」をＰＲする際、どのような点を魅力として押し出すべきでしょうか？

梶村　最初に少しお話しましたが、この仕事の魅力は、自分がつくった空間で、コミュニケーションが生まれたり、感情が動いたりする現場を目撃できることかな、と思っています。「つくる」だけでなく、「反応を見られる」ところがいい。特に学生の皆さんには、そこを伝えたいですね。

山本　そうですね。その楽しさが多くの人に伝われば、この業界で働きたいという人が増えると思います。

小山内　毎回違うものをつくる、ルーティンな仕事ではないことも、この仕事の魅力ですよね。

飯野　基本的に、ブースなどはフルオーダーメイドですからね。同じものはありません。頭も体もフルに動かして「ものづくり」に取り組むことができる。私はそこにも魅力を感じています。

小山内　山本さんが最初に言っていたように、お客様をご案内することもありますよ。

山本　いいですね。実際に自分達がつくった空間を見ていただくことで、仕事内容やクオリティーを理解していただけるように思います。

澤谷　ぜひ一度、おじゃましたいですね。

小山内　ところで、「働き方改革」には、女性活躍なども含まれていますが、皆さんの会社では女性活躍について何か取り組みがあったりしますか？　ムラヤマでは、社員の女性比率が３割くらいです。女性はみんな、新入社員時代から力を発揮していて、頼もしいなといつも思っています。

澤谷　小林工芸社も女性が活躍していると思います。私の所属するデザインの部門だと特にそうですね。デザインは女性に適性のある職種なのか、部には男性よりも女性が多いです。

山本　フジヤの場合もそうですね。働くことにおいて、だんだん性別は関係

梶村　そうですよね。業界全体で技術向上や活躍機会を増やすことに取り組めると、いいなと思います。

■最後に、業界の知名度向上や人材獲得のために、「ディスプレイ業」をＰＲする際、どのような点を魅力として押し出すべきでしょうか？

梶村　最初に少しお話しましたが、この仕事の魅力は、自分がつくった空間で、コミュニケーションが生まれたり、感情が動いたりする現場を目撃できることかな、と思っています。「つくる」だけでなく、「反応を見られる」ところがいい。特に学生の皆さんには、そこを伝えたいですね。

山本　そうですね。その楽しさが多くの人に伝われば、この業界で働きたいという人が増えると思います。

小山内　毎回違うものをつくる、ルーティンな仕事ではないことも、この仕事の魅力ですよね。

飯野　基本的に、ブースなどはフルオーダーメイドですからね。同じものはありません。頭も体もフルに動かして「ものづくり」に取り組むことができる。私はそこにも魅力を感じています。

小山内　山本さんが最初に言っていたように、お客様をご案内することもありますよ。

山本　いいですね。実際に自分達がつくった空間を見ていただくことで、仕事内容やクオリティーを理解していただけるように思います。

澤谷　ぜひ一度、おじゃましたいですね。

小山内　ところで、「働き方改革」には、女性活躍なども含まれていますが、皆さんの会社では女性活躍について何か取り組みがあったりしますか？　ムラヤマでは、社員の女性比率が３割くらいです。女性はみんな、新入社員時代から力を発揮していて、頼もしいなといつも思っています。

澤谷　小林工芸社も女性が活躍していると思います。私の所属するデザインの部門だと特にそうですね。デザインは女性に適性のある職種なのか、部には男性よりも女性が多いです。

山本　フジヤの場合もそうですね。働くことにおいて、だんだん性別は関係

世の中の「ちょっともったいない空間」を「楽しい空間」に変えていくのが私たちの仕事です。（梶村）

ように、この仕事はものづくりの楽しさがつまっています。ものができあがっていくときの高揚感、撤去された後の達成感。それもぜひ、伝えたいことです。

山本　そうですね。私はそこに魅了されて、この業界に入りましたから。

飯野　一見すると「はなやかなイメージ」ですが、実はそうではないですよね。「はなやかさ」を裏側で支える仕事です。

澤谷　常に新しいものを探し、アイデアとして取り入れていく仕事だということも、魅力かもしれません。そこが面白いところであり、難しいところでもありますよね。最近だと「インスタ映え」を意識したり、何が流行していて、何を求められているのか、常にアンテナをはることを心がけています。

梶村　一般の方々にディスプレイ業の仕事について伝えるなら、少し抽象的な言い方かもしれませんが、「空間に集う人を幸せにする仕事」だというメッセージはどうですか？　例えば、満員電車やちょっと危険な遊具があるという理由で使用禁止になっている公園。そういった場所をリニューアルして、集まった人の「ＨＡＰＰＹ」をつくるのが、私たちの仕事だと思うんです。

澤谷　そこにある空間を「楽しい場所」にするということですね。まさに、その通りだと思います。わくわくする感じがいいですね。

小山内　そして、その集客や効果についても考える仕事ですよね。

梶村　そうですね。世の中の「ちょっともったいないなと思う空間」を見つけて、人が集う、「楽しい空間」に変えていく仕事です。

飯野　そこには、ものづくりの厳しさもありますが、いつも新鮮な、唯一無二のものをつくる喜びがあります。

山本　空間をデザインし、つくることで社会に貢献できる。そのことをぜひ伝えていきたいですね。





50年を超えて　ディスプレイ業の系譜と展望

大阪府立大学研究推進機構教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所所長
一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会理事
橋爪　紳也

「ディスプレイ業」という概念は、高度経済成長の到達点である日本万国博覧会（１９７０年大阪万博）に向けて、業界団体を結成する必要性が生じた際に確立された。他国に先例のない日本独自の業界である。

わが国にあっては、近代以降、博覧会や展示会に関わる各種の造作や運営を請け負う職人集団は、みずからの仕事を「ランカイ屋」「博展業」などと呼んだ。また百貨店のショーウインドウや店舗装飾の制作を請け負う事業者は「展示造形」「展示美術」「展示装飾」「商工美術」などと自称した。

１９７０年日本万国博の大阪開催が決まり、準備がすすめられるなか、関係省庁や万博の主催者との折衝を進めるうえで、公的な全国組織が必要となる。そこで「博展装置業」「展示装飾業」「商工美術」などの多様な業種を統べる枠組みとして、「ディスプレイ業」という概念が選ばれることになった。

１９６７年、東京展示造型業協同組合が東京ディスプレイ協同組合と改称したのを先鞭として、大阪、名古屋、さらには北海道、東北、北陸、神奈川、京都、香川、九州など各地で、「ディスプレイ協会」「ディスプレイ協同組合」といった同業者組合が組織化される。これを受けて19団体、３８１事業所からなる任意団体「日本ディスプレイ業団体連合会（ＮＤＦ）」が結成され、１９６９年2月に通商産業省の所管として法人格を得る。

大阪万博を成功させたのちは、業態として社会的な地位を得てゆくための努力が重ねられる。まず１９７２年に「展示装置製造業」として製造業の新業種として認められるが、関係者はソフトも含めた総合的な請負業として産業分類に掲げられるべきだとアピールする。ようやく１９８４年、調査・企画・設計・展示構成・製作・施工等を一貫して行う「ディスプレイ業」が、「その他の事業サービス業」として認定された。日本標準産業分類では、以下のように定めている。

「ディスプレイ業とは、主として販売促進、教育啓蒙、情報伝達等の機能を発揮させることを目的として、店舗、博覧会々場、催事などの展示等にかかる調査、企画、設計、展示、構成、製作、施工管理を一貫して請負い、これらの施設の内装、外装、展示装置、機械設備（音響、映像等）などを総合的に構成演出する業務を行う事業所をいう」

もっともその後、「ディスプレイ業」が関わる領域は、俗に「ショーウインドウから都市計画まで」といわれるほどに多様化を果たす。大阪万博に続く、沖縄海洋博、筑波科学万博などの国家イベント、さらには80年代以降のテーマパークや大型商業施設の流行、パソコンやスマートフォンの普及など、業界に変化を促す出来事や技術革新の影響を受けつつ、業界はおのずと変貌をみた。

いまやインターネットを通じて誰もが自分の表現を世界に提示できる時代となった。またＡＩやＩＯＴの進化やロボットの技術も、いっそう発展をみるはずだ。コミュニケーションの分野でも、ＶＲや通信技術の進歩は日進月歩である。近い将来、自動翻訳を介して、世界中の人たちがリアルタイムで自由に意思疎通ができるようになるだろう。私たちは次世代のテクノロジーを読み込むことで、先人の意思を継承しつつ、新たな「ディスプレイ業」を確立することが可能になる。

現時点にあって「ディスプレイ業」を再定義すれば、「空間をコミュニケーションの手段とする双方向性を有する統合的な情報サービス産業」ということになるだろうか。諸外国の模倣ではなく、わが国にあって関係する事業者が寄り合い、知恵を出し、概念を確立し、おおいに発展させてきた実践的な業態であることを、私は誇りに思っている。日本の独創である「ディスプレイ業」が時代とともに変容しながらも、１００周年、すなわち次の50年に向けて、おおいに発展をみることを願ってやまない。



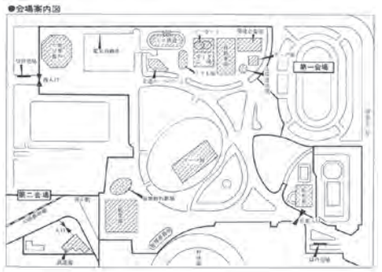
一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会50年の歩み

1972年（昭和47年）

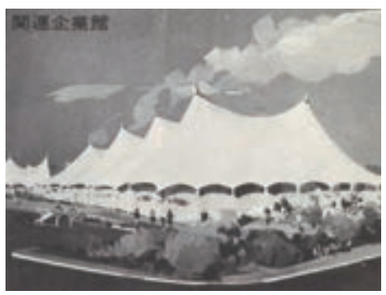
2 ／日本ディスプレイ学園初の冬期スクーリング始まる
2 ／千葉・静岡にデ協発足
3 ／岡山交通博覧会開幕
5 ／第4回通常総会および全国大会開催（京都）
5 ／商業施設連準備委員会結成
「展示装置製造業」日本標準産業分類（分類符号3988）業種新設











岡山交通博

1971年（昭和46年）

4 ／「日本ディスプレイ学園」発足
5 ／第3回通常総会および全国大会開催（熱海）
6 ／「米国ディスプレイ視察ツアー」実施
6 ／「NDFニュース」を「ND」と改称、A4変形サイズに
8 ／日本ディスプレイ学園初の夏期スクーリング始まる
機関誌「NDニッポンディスプレイ」月刊・創刊（現在続行）



第9回東京国際見本市



学園サマー・スクーリング



見積積算ゼミ



日本ディスプレイ学園発足

1970年（昭和45年）

3 ／TOC展示会場開業
3 ／日本万国博覧会開幕
4 ／茨城デ協発足
5 ／第2回通常総会開催（大阪）
6 ／統一請負契約書用紙作成
6 ／（日米安保条約が自動延長）
10 ／「EXPO'70」ディスプレイ写真展開催
ディスプレイ「企画・設計・監理業務の標準報酬」初版刊行
「請負契約書・付帯条項」制定





日本万国博覧会開幕



第17回東京モーターショー

1969年（昭和44年）

2 ／社団法人許可
3 ／日本万国博協会との折衝はじまる
4 ／第1回通常総会開催（東京）
6 ／臨時総会開催、役員決まる
8 ／秋田農業大博覧会開幕
8 ／大阪マーチャンダイズ・マート開業
11 ／東京都立産業貿易センター台東館開業
(社) 日本ディスプレイ業団体連合会（通商産業省所管）となるディスプレイ「標準見積様式」初版刊行





日本万国博覧会工事中

デイスプレイ標準見積書式

見積書 内訳合計表	内訳	明細書	備考
企画デザイン料	各項目内訳	一式	価値料を含む
制作準備	各項目内訳	必要に応じ明細	
制作（展示室別）	制作部分別内訳 床、壁、天井、パノラマなど（設計数量）（合成単価）	資材明細 附帯加工明細（各係数を乗じる）	制作出掛経費を含む
運搬（展示室別）	各項目内訳 梱包、重量、小運搬等	必要に応じ明細	場内の運搬
展示構成（展示室別）	一式 制作ディレクト、デコレートなど	一式	標準 A 3% B 6% C 10% 価値料を含む
運送	各項目内訳 自動車便、鉄道便等	必要に応じ明細	工場 → 会場間 集荷、搬入出 運送保険料共
現場経費	一式	必要に応じ明細	
営業諸経費	一式 一般管理費 営業費	一式	標準 15%
保守	各項目内訳	必要に応じ明細	別途見積とする
撤去	〃	〃	〃
特殊経費	一式	〃	〃

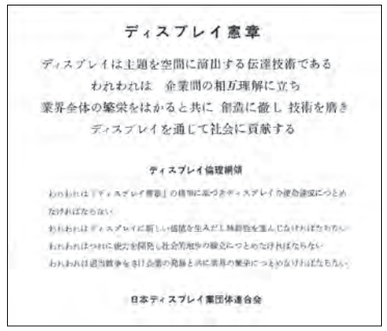
見積書式

1968年（昭和43年）

5 ／「日本ディスプレイ業団体連合会」（日デ連）創立、乃村英一氏が会長に就任
6 ／北海道大博覧会開幕
7 ／日デ連本部事務所開設
7 ／機関誌「NDFニュース」（月刊）創刊
7 ／米国サンアントニオでヘミスフェア開催
9 ／びわこ博覧会開幕
10 ／明治百年大銀座祭開催
日本ディスプレイ業団体連合会設立



創立総会



ディスプレイ憲章



ヘミスフェアー視察



初代会長乃村英一氏就任

日デ連 50年の歩み

1968年（昭和43年）日デ連創立と同時に機関「NDFニュース」が発刊され、以降半世紀にわたって継続され「歩み」を綴ってきました。
本編はそのダイジェスト版として、往時のエポック写真を機関誌より抜粋いたしました。

社会の動き

1968年（昭和43年）
川端康成氏 ノーベル文学賞受賞
小笠原諸島日本に復帰
霞が関ビル完成
三億円事件

1969年（昭和44年）
アポロ11号月面着陸に成功
東京・池袋に「パルコ」開店
東京・世田谷に玉川高島屋開店
東名高速道路全線開通
東大安田講堂事件

1970年（昭和45年）
日本万国博覧会 大阪で開催
植村直己・松浦輝夫がエベレスト登頂に成功
東京に「歩行者天国」始まる

1971年（昭和46年）
円変動相場制移行
マクドナルド1号店 銀座にオープン
プリンスホテル設立

1972年（昭和47年）
札幌冬季オリンピック開催
沖縄返還
上野動物園でパンダ公開

1977年（昭和52年）

5 ／第9回通常総会開催（東京）
5 ／西日本総合展示場開業
6 ／第9回全国大会開催（岐阜）
6 ／「北欧ディスプレイ視察ツアー」実施
11 ／徳島デ協発足



第16回国際ボートショーを観て



北欧研修旅行



年鑑日本のディスプレイ'78審査会



東京モーターショウ

1976年（昭和51年）

1 ／「みせ・みせもの・つくりもの・かざりもの百科」（ディスプレイ用語事典）刊行
1 ／鳥取デ協発足
3 ／商施連、社団法人許可
5 ／第8回通常総会開催（東京）
6 ／第8回全国大会開催（岡山）
6 ／「米国200年祭視察ツアー」実施
6 ／「ND」第3種郵便物の認可をうける
『図説ディスプレイ用語事典』（グラフィック社）刊行



JAPAN SHOP



大阪国際見本市



商施連　社団法人設立



年鑑日本のディスプレイ'77選考会

1975年（昭和50年）

3 ／福岡大博覧会開幕
5 ／第7回通常総会開催（東京）
6 ／第7回全国大会開催（新潟）
6 ／「沖縄海洋博視察団」派遣
7 ／沖縄国際海洋博覧会開幕
10 ／東映太秦映画村開業
ユーロショップ・ディスプレイスタディツアー実施



ユーロショップ視察



資生堂ザ・ギンザ オープン　福岡大博覧会



第11回東京国際見本市　沖縄海洋博



西日本地区連絡会



拡大器　銀座マップ

1974年（昭和49年）

1 ／商業施設士第1期研修会開催
3 ／長野デ協発足
4 ／第6回通常総会開催（東京）
5 ／第6回全国大会開催（浜松）
5 ／「米国ワシントン・スポーケン万国博視察ツアー」実施
11 ／山口・栃木・山梨にデ協発足
『年鑑日本のディスプレイ』（六耀社）合同刊行開始



1月号に寄稿



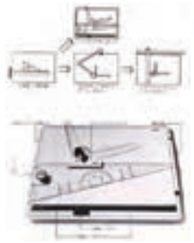
商業施設士第1期研修会



大シベリア博



ショップシステムショー



製図機



屋外広告業届出制



大阪国際見本市



原宿マップ



元町マップ

1973年（昭和48年）

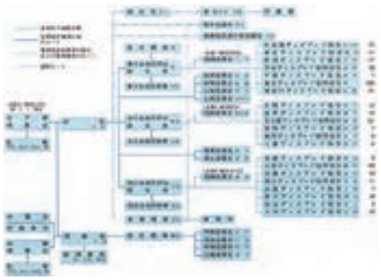
5 ／創立5周年迎える
5 ／第5回通常総会および全国大会開催（須磨）
5 ／「ND」表紙デザインコンクール実施
5 ／「全国商業施設関係団体連合会」（商施連）創立
6 ／新組織、3地区制発足
8 ／日本海博覧会開催
11 ／ポートメッセなごや開業
12 ／年鑑「日本のディスプレイ」創刊
米国ディスプレイツアー実施



商施連設立



創立5周年



全国3地区に

社会の動き

1973年（昭和48年）
第一次オイルショック
日本電信電話公社が電話ファックスサービス開始

1974年（昭和49年）
東京国立博物館でモナ・リザ展開催
セブンイレブン1号店出店
佐藤栄作がノーベル平和賞を受賞

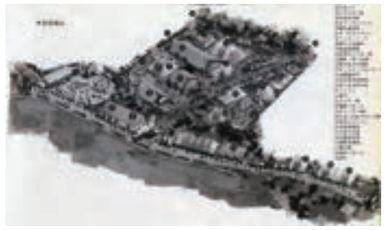
1975年（昭和50年）
山陽新幹線・岡山駅 - 博多駅間開業
沖縄国際海洋博覧会

1976年（昭和51年）
モントリオール五輪開催
ロッキード事件

1977年（昭和52年）
王選手 756号ホームランで世界記録樹立
第1回国民栄誉賞受賞
平均寿命世界一になる

1982年（昭和57年）

1 ／通産省編集「'82サービス産業年鑑」刊行
2 ／「ローマ・パリ視察ツアー」実施
4 ／「日デ連賠償責任共済制度」発足
4 ／ツインメッセ静岡開業
5 ／第14回通常総会および全国大会開催（京都）
6 ／「ND」150号発刊
6 ／全国展示場連絡協議会発足
7 ／「企画・設計・監理業務の標準報酬」改訂
8 ／兵庫デ協、「ショップ＆ディスプレイショウ」開催
10 ／「EPCOTと世界エネルギー博研修ツアー」実施
10 ／「年鑑日本のディスプレイ」の書名を「年鑑日本のディスプレイ・商空間デザイン」と改め刊行
12 ／1982年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
ディスプレイ産業賞＝通商産業大臣賞を設定



ふくおか'82大博覧会オープン



第1回ディスプレイ産業大賞
国際児童記念館（埼玉県東松山市）



'82年度通産大臣賞（ディスプレイ産業大賞）贈賞式

1981年（昭和56年）

2 ／神戸国際展示場開業
3 ／「ユーロショップ'81視察ツアー」実施
3 ／神戸ポートアイランド博開幕
5 ／第13回通常総会および全国大会開催（宮城・秋保温泉）
5 ／水上邦彦氏、会長に就任
8 ／香川デ協、「ショップ＆ディスプレイショウ」開催
11 ／通産省、「ディスプレイ業実態調査」実施
12 ／名古屋デ協、「ショップ＆ディスプレイショウナゴヤ」開催
「ディスプレイハンドブック」刊行



京都ポルタ誕生



'81JAPAN SHOP 14万人



新しい街、ららぽーと　ヘルスセンター跡地



第3代会長水上邦彦氏就任



神戸ポートアイランド博覧会

1980年（昭和55年）

2 ／通産省編集「'80サービス産業年鑑（ディスプレイ業）」に執筆協力
5 ／第12回通常総会および全国大会開催（金沢）
5 ／名古屋デ協、創立20周年式典開催
7 ／岡山デ協、「'80ショップ＆ディスプレイショウ」開催
7 ／日本ディスプレイ学園、「オカヤマ・コミュニティセミナー」開催
12 ／大阪デ協、「ショップ＆ディスプレイショウ」開催


通産省編集
「'80サービス産業年鑑」発刊
日デ連"ディスプレイ業"に執筆協力!!

'80サービス産業年鑑発刊



乃村顧問（初代会長）藍綬褒章受章を祝う

1979年（昭和54年）

3 ／サンシャインシティ・コンベンションセンターTOKYO（CCT）開業
3 ／（米国スリーマイル島で原子力発電所事故発生）
5 ／第11回通常総会および全国大会開催（福岡）
5 ／小林敬三氏、会長に就任
8 ／大阪デ協、「ショップ＆ディスプレイショウ」開催
9 ／日デ連実態調査実施
11 ／「年鑑日本のディスプレイ'80」刊行
11 ／POP EYE-JAPAN創立10周年
ディスプレイ「標準見積様式・改訂版」刊行



瀬戸内2001大博覧会



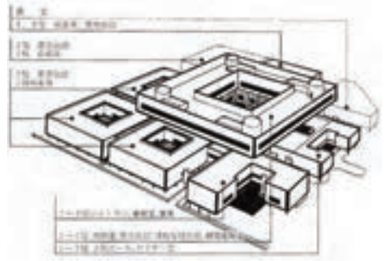
第2代会長小林敬三氏就任



世界と日本のこども展

1978年（昭和53年）

3 ／商業施設ディスプレイセミナー開催
3 ／「'78ユーロショップ・スタディツアー」実施
5 ／第10回通常総会および創立10周年記念全国大会開催（東京）
7 ／宇宙博開幕
12 ／標準見積様式改訂作業始まる
創立10周年記念全国大会実施
「ND・創立10周年特集号」刊行



国立民族学博物館開館



国立民族学博物館スケッチ



創立10周年記念全国大会



創立10周年記念全国大会レポート

社会の動き

1978年（昭和53年）
新東京国際空港（現成田国際空港）開港
日中平和友好条約調印
サンシャイン60開業

1979年（昭和54年）
第二次オイルショック
東京サミット開催

1980年（昭和55年）
任天堂が初の携帯型ゲーム機「ゲーム&ウオッチ」を発売
日本の自動車生産台数が世界第1位

1981年（昭和56年）
千葉県船橋市に大型ショッピングセンターらららぽーとオープン
スペースシャトルコロンビア初飛行

1982年（昭和57年）
500円硬貨発行
テレホンカード使用開始

1987年（昭和62年）

2 ／新潟デ協、協同組合へ改組
2 ／「NDFパンフレット」作成
2 ／「ユーロショップ'87視察ツアー」実施
4 ／群馬デ協発足
4 ／「NDFイベントプロモーションセンター」設立
5 ／第19回通常総会および全国大会開催（静岡・日本平）
6 ／「ND」200号発刊
7 ／未来の東北博開幕
8 ／九州デ協、県別に組織独立（福岡・長崎・宮崎・鹿児島）
8 ／天王寺博覧会開幕
9 ／マイドームおおさか、沖縄コンベンションセンター、名古屋市国際展示場2号館が相次いで開業
11 ／世界歴史都市博覧会開催
12 ／1987年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／イベントプロモーションセンター「夢工場のプロデュース」（川内通康氏）開催
イベントプロモーションセンター設立
イベントプロモーションセンターセミナー「イベントと日本」（堺屋太一氏）開催


アークヒルズ全景


神戸海洋博物館開館



'87未来の東北博覧会


第6回ディスプレイ産業大賞
石巻文化センター・歴史展示室

1986年（昭和61年）

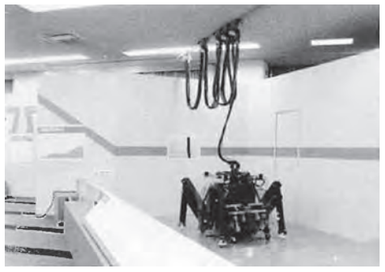
2 ／東京デ協、ディスプレイセミナー開設
2 ／「ロサンゼルス・サンフランシスコ視察ツアー」実施
2 ／東京デ協、ディスプレイセミナー開設
2 ／（財）国際花と緑の博覧会協会発足
3 ／構成員意識調査実施
3 ／通産省がイベント開催等に関する調査の中間報告発表
5 ／第18回通常総会および全国大会開催（鳥羽）
5 ／岐阜デ協、協同組合へ改組
5 ／カナダ・バンクーバーで国際交通博開幕
6 ／通産省がイベント研究会設置
11 ／通産省、「ディスプレイ業」実態調査実施
12 ／1986年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
ディスプレイ産業賞＝日本ディスプレイ業団体連合会賞を設定


「こどもの城」東京・青山にオープン


東京・自由が丘「チルドレンミュージアム」オープン



'86さっぽろ花と緑の博覧会


神戸市立青少年科学館と「ろぼっとロボットROBOT展」


第5回ディスプレイ産業大賞　仙台市博物館

1985年（昭和60年）

1 ／JCD、会名を「(社）日本環境設計家協会」に改称
2 ／「マドリッド・パリ視察ツアー」実施
3 ／国際科学技術博覧会開幕
5 ／第17回通常総会および全国大会開催（水戸）
5 ／蟻田栄一氏、会長に就任
5 ／「政策特別委員会」設置
5 ／インテックス大阪開業
6 ／大阪デ協、「インテックスO・D・A」開設
9 ／名古屋デ協、創立25周年記念式典実施
9 ／横浜新都市ビル「横浜そごう」完成
12 ／1985年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
ディスプレイ産業賞＝通商産業省産業政策局長賞を設定


第5代会長蟻田栄一氏就任


つくば万博会場全景


鉄の歴史館（釜石市）


横浜そごうオープン


第4回ディスプレイ産業大賞
国際科学技術博覧会政府出展施設歴史館

1984年（昭和59年）

1 ／東京デ協、創立20周年記念式典実施
2 ／「ユーロショップ'84視察ツアー」実施
2 ／「ディスプレイ業」小冊子発行
2 ／「ディスプレイ業界の近未来展望」報告書作成、通産省へ提出
3 ／高知黒潮博覧会開幕
4 ／ドイツ博開幕
5 ／米国ニューオリンズで国際河川博開幕
5 ／第16回通常総会開催（東京）
6 ／第16回全国大会開催（北海道・登別温泉）
6 ／JCD関西情報誌「JCD-KANSAI」創刊
6 ／小樽博覧会開幕
7 ／東京デ協、創立20周年記念「ショップ＆ディスプレイショウ」開催
7 ／とちぎ博開幕
9 ／「日デ連オリジナルノベルティ商品」頒布開始
12 ／1984年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／SDA、東京都屋外広告物規制条例改正をめぐる懇談会実施
「ディスプレイ業」日本標準産業分類（分類符号8691）業種新設


'84年度通産大臣賞（ディスプレイ産業大賞）決定


年鑑日本のディスプレイ・商空間デザイン85年版発刊


第3回ディスプレイ産業大賞　釧路市立博物館

1983年（昭和58年）

1 ／「カリフォルニア・ロサンゼルス視察ツアー」実施
4 ／東京ディズニーランド開業
5 ／第15回通常総会および創立15周年記念全国大会開催（名古屋）
5 ／中村良司氏、会長に就任
5 ／大阪デ協、創立20周年式典開催
6 ／香川デ協、「ショップ＆ディスプレイショウ」開催
6 ／東京都立産業貿易センター本館（現浜松町館）開業
7 ／新潟博覧会、にっぽん新世紀博覧会開幕
10 ／大阪城博覧会開幕
10 ／大阪で第1回国際デザインフェスティバル
11 ／1983年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
11 ／(社）日本店舗設計家協会（JCD）、第1回商業環境会議開催


ディスプレイに内閣総理大臣賞決まる


第4代会長中村良司氏就任


国立歴史民俗博物館開館


第2回ディスプレイ産業大賞
人間博物館リトルワールド・本館施設展示（愛知県犬山市）

社会の動き

1983年（昭和58年）
東京ディスニーランド開業
任天堂が「ファミリーコンピュータ（ファミコン）を発売

1984年（昭和59年）
ロサンゼルスオリンピック開催
衛星放送開始
プランタン銀座が開業

1985年（昭和60年）
科学万博つくば'85開催
両国国技館が完成
初の日本人宇宙飛行士誕生

1986年（昭和61年）
男女雇用機会均等法施行
英チャールズ皇太子とダイアナ妃が来日

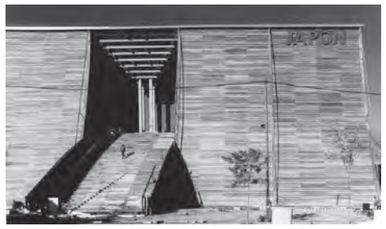
1987年（昭和62年）
国鉄が分割・民営化され、JRグループ7社が発足
有明コロシアムが完成

1992年（平成4年）

1 ／長野デ協、協同組合へ改組
3 ／イベントプロモーションセンターセミナー「信長のプロデュースについて」（八木雅次氏）開催
3 ／東京デ協青年懇話会、創立20周年祝賀会挙行
3 ／セビリア万国博覧会開幕
3 ／ハウステンボス開業
4 ／フードラマ・なごや開幕
5 ／名古屋デ協、愛知名古屋デ協へ名称変更
5 ／第24回通常総会および全国大会開催（横浜）
5 ／イベントプロモーションセンター、「セビリアEXPO、フロリアード視察ツアー」実施
6 ／東武百貨店池袋店、リニューアルオープン
7 ／イベントプロモーションセンターセミナー「EC型博覧会とイベントの方向性について」（高村英也氏）開催
7 ／ジャパンエキスポ認定博の三陸・海の博覧会、ジャパンエキスポ富山が開幕
7 ／東京ドームの屋内遊園地「ジオポリス」開業
10 ／イベントプロモーションセンターセミナー「ディスプレイ業の産業廃棄物を考える」（東忠昭氏）開催
10 ／「西日本ディスプレイ業厚生年金基金」設立
11 ／イベントプロモーションセンター、「ハウステンボス視察ツアー」実施
11 ／くまもとアートポリス開催
12 ／1992年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／大分デ協発足
イベントプロモーションセンターセミナー「時代を読む」（田原総一郎）開催



三陸・海の博覧会



セビリア万国博覧会開幕


第11回ディスプレイ産業大賞
長崎オランダ村・ハウステンボス

1991年（平成3年）

1 ／「ロサンゼルス・サンフランシスコ視察ツアー」実施
3 ／イベントプロモーションセンターセミナー「イベント社会を斬る」（竹内宏氏）開催
3 ／神戸国際展示場・2号館開業
3 ／都庁が新都庁舎に移転
4 ／熊本デ協発足
4 ／東京デ協、新入社員教育研修会開催
4 ／レオマワールド開業
5 ／第23回通常総会開催（東京）
5 ／イベントプロモーションセンター「初夏の瀬戸内と九州クルーズ」実施
5 ／定款を一部変更
7 ／パシフィコ横浜の会議センター開業
7 ／東京流通センターにアールンホール誕生
8 ／兵庫デ協、協同組合へ改組
8 ／イベントプロモーションセンターセミナー「イベント振興とジャパンエキスポ」（中澤桂介氏）開催
10 ／第23回全国大会開催（名古屋）
10 ／パシフィコ横浜の展示ホール開業
11 ／「ニュージーランド視察ツアー」実施
11 ／イベントプロモーションセンターセミナー「イベント・ディスプレイ市場育成と課題」（細野哲弘氏）開催
11 ／通産省、「ディスプレイ業」特定サービス産業実態調査実施
11 ／JCD、創立30周年記念式典開催
12 ／イベントプロモーションセンターセミナー「ヨコハマが描くメッセ・コンベンション新時代」（佐久間健治氏）開催
12 ／1991年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
小冊子「ディスプレイ業 現況と展望」刊行

TOYOTA AUTO SALONオープン

サンリオピューロランドオープン


パシフィコ横浜開業


第10回ディスプレイ産業大賞
アユタヤ歴史研究センター

1990年（平成2年）

1 ／イベントプロモーションセンターセミナー「世界のコンベンション時代を演出する」（田部井正次郎氏）開催
1 ／全日本建築士会附属建築道具館完成
2 ／「ユーロショップ'90、'92パルセロナオリンピック施設視察ツアー」実施
2 ／おかやま食と緑の博覧会開幕
3 ／「第1回'90環境メディアDesign4大賞展」開催
3 ／イベントプロモーションセンターセミナー「？」（福田繁雄氏）開催
4 ／群馬デ協、協同組合へ改組
4 ／埼玉デ協発足
4 ／イベントプロモーションセンター、「ロッテワールド視察と当世韓国事情」実施
4 ／東京都が東京フロンティアの基本計画発表
4 ／国際花と緑の博覧会開幕
4 ／スペースワールド開業
5 ／第22回通常総会および全国大会開催（神戸）
7 ／名古屋デ協、創立30周年記念式典開催
7 ／大阪デ協、「アメリカ・ディスプレイ研修」実施
7 ／イベントプロモーションセンターセミナー「ソウル版テーマパーク、ロッテワールド」（大熊俊隆氏）開催
7 ／東京国際展示場の基本設計を発表
8 ／長崎「旅」博覧会開幕
10 ／イベントプロモーションセンターセミナー「これからの"テーマパーク"、"アミューズメントパーク"へのアプローチ」（堀貞一氏）開催
10 ／「デザインの日」創設
10 ／東京ルーフ開業
11 ／イベントプロモーションセンターセミナー「信州博覧会とこれからの博覧会のめざすもの」（秋山智弘氏）開催
12 ／1990年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／サンリオピューロランド開業
イベントプロモーションセンターセミナー「花と緑の博覧会、そしてこれからのイベントビジョン」（小松左京）開催


国際花と緑の博覧会


第9回ディスプレイ産業大賞
'89海と島の博覧会・ひろしま テーマ展示館　BIG WAVE

1989年（昭和64年、平成元年）

1 ／通産省、ジャパンエキスポ構想発表
2 ／イベントプロモーションセンターセミナー「これからのイベント」（大隈正憲氏）開催
2 ／「ロサンゼルス・サンフランシスコ視察ツアー」実施
2 ／東京デ協、「ディスプレイセミナー」開催
2 ／横浜でマリタイムミュージアム、横浜市美術館が相次いで完成
3 ／イベントプロモーションセンターセミナー「生まれかわるパリ1989-フランス革命200年祭イベント」（美原研氏）開催
3 ／北陸デ協を発展的に解消し、福井デ協、石川デ協、富山デ協として発足
3 ／東京国際コンベンションパーク基本構想懇談会報告書まとまる
3 ／横浜博覧会、アジア太平洋博覧会、静岡駿府博覧会、姫路シトロピア博、サザンピア21、ダッハらんど大阪開幕
5 ／イベントプロモーションセンターセミナー「TVメディアとイベント化社会」（美里美寿々氏）開催
5 ／第21回通常総会および全国大会開催（岩手・安比）
6 ／イベントプロモーションセンターセミナー「新しい都市づくりと博覧会」（保科好信氏）開催
7 ／イベントプロモーションセンター、「フランス革命200年祭イベント視察ツアー」実施
7 ／海と島の博覧会、世界デザイン博覧会、鳥取・世界おもちゃ博覧会開幕
8 ／イベントプロモーションセンターセミナー「フランス革命200年祭にみるポスト博覧会時代」（高村英也氏）開催
8 ／「商業施設士制度」スタート
8 ／（社）日本イベント産業振興協会発足
9 ／東京デ協、創立25周年記念式典開催
9 ／甲府博覧会開幕
10 ／「ディスプレイ業実態調査」実施
10 ／神奈川デ協、創立20周年記念式典開催
10 ／幕張メッセ開業、第28回東京モーターショーに192万人来場
12 ／1989年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／イベントプロモーションセンターセミナー「大阪が変わる - 巨大プロジェクト」（上田篤氏）開催
ディスプレイ「企画・設計等の業務及び報酬基準」改訂版刊行


アジア太平洋博覧会 福岡'89


YES'89 横浜博覧会


第8回ディスプレイ産業大賞
YES'89 テーマゾーン 建築・展示演出全体計画

1988年（昭和63年）

2 ／「ロサンゼルス・サンフランシスコ視察ツアー」実施
3 ／日本初の屋根つきスタジアム「東京ドーム」オープン
3 ／瀬戸大橋博開幕
3 ／さいたま博覧会開幕
4 ／イベントプロモーションセンター、「瀬戸大橋博'88・岡山シンポジウム」開催
4 ／福岡デ協、協同組合へ改組
4 ／オーストラリア・ブリスベンで国際レジャー博覧会開幕
4 ／（株）東京国際貿易センターが創立30周年
4 ／大宮ソニックシティ開業
4 ／なら・シルクロード博覧会開幕
4 ／運輸省が19都市を国際コンベンションシティに指定
5 ／大阪デ協、創立25周年記念式典開催
6 ／（財）日本コンベンション振興協会発足
6 ／世界・食の祭典開幕
7 ／イベントプロモーションセンターセミナー「ブリスベンEXPO'88、海外におけるプロデュース」（坂根進氏）開催
7 ／青森EXPO、函館EXPO開幕
7 ／ぎふ中部未来博開幕
8 ／イベントプロモーションセンターセミナー「メディアステージJR」（木下秀彰氏）開催
10 ／東京夢の島熱帯植物館完成
11 ／イベントプロモーションセンター、「幕張メッセ見学会」実施
12 ／1988年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／イベントプロモーションセンターセミナー「地方博覧会の総括と展望」（須藤公明氏）開催
創立20周年記念全国大会実施
「ND・創立20周年特集号」刊行




YES'89 横浜博覧会


渋谷LOFT館完成とその周辺　江戸東京博物館


瀬戸大橋博'88


第7回ディスプレイ産業大賞
ブリヂストンコミュニケーションスペース
"ダイナミックドラゴン"

社会の動き

1988年（昭和63年）
東京ドームが完成
瀬戸大橋が開通
ソウル・オリンピック開催

1989年（昭和64年、平成元年）
昭和天皇崩御、昭和から平成に
消費税3%を導入
ベルリンの壁崩壊

1990年（平成2年）
第1回大学入試センター試験実施
黒澤明　米アカデミー賞特別名誉賞を受賞

1991年（平成3年）
東京都庁が新宿に移転し、新東京都庁舎開庁
パシフィコ横浜開業

1992年（平成4年）
長崎県でハウステンボス開業
東海道新幹線で「のぞみ」が運転開始

1997年（平成9年）

1 ／東京国際フォーラム開業
3 ／ナゴヤドーム、大阪ドーム相次ぎ開業
5 ／第29回通常総会開催（東京）
6 ／イベントプロモーションセンターセミナー「交流の新しい形～西暦2000年世界民族芸能の祭典・第2回CIOFFに向けて」（三代川透氏）開催
7 ／山陰・夢みなと博覧会開幕
9 ／JR京都駅ビルグランドオープン
10 ／第29回全国大会開催（岡山）
10 ／関西ミュージアム・メッセ'97開催
10 ／幕張メッセ・国際展示場ホール9～11開業
12 ／イベントプロモーションセンターセミナー／東京CASA開催
12 ／1997年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
『ディスプレイの世界』（六耀社）刊行


大阪市立環境学習センター開設


JR京都駅ビルグランドオープン



東京湾アクアライン開通


第16回ディスプレイ産業大賞　ワールド・ライティング・フェア in Tokyo'96 東京舞台照明ブース

1996年（平成8年）

1 ／イベントプロモーションセンターセミナー「21世紀地球EXPO ～愛知万博について」（松尾隆之氏）開催
3 ／イベントプロモーションセンター「補習セミナー」実施（東京、大阪）
4 ／東京ビッグサイト開業
4 ／キャナルシティ博多開業
5 ／第28回通常総会および全国大会開催（富山・高岡）
6 ／イベントプロモーションセンターセミナー「地域開発～アメリカと日本の考え方」（山下明氏）開催
7 ／世界・炎の博覧会開幕
7 ／京都市勧業館（みやこめっせ）、海峡メッセ下関開業
10 ／イベントプロモーションセンターセミナー「今後の科学館・博覧会のあり方」（山田英徳氏）開催
10 ／新宿高島屋オープン
12 ／1996年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
「ディスプレイ業のPLガイドブック」刊行



キャナルシティ博多オープン



ジャパンエキスポ佐賀'96　世界・炎の博覧会


新宿高島屋オープン


第15回ディスプレイ産業大賞
科学技術館5F　FOREST「遊び・創造・発見の森」

1995年（平成7年）

4 ／コンベンションズ　コンベンション95開催
5 ／第27回通常総会および全国大会開催（幕張）
8 ／マリンメッセ福岡開業
10 ／イベントプロモーションセンター、「補習セミナー」実施（東京、大阪）
10 ／鎌倉シネマワールドオープン
10 ／夢メッセみやぎ開業
12 ／1995年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
12 ／札幌キリンビール園オープン
イベントプロモーションセンターセミナー「感動の美学、共感の経済学」（印南勝氏）開催


第6代会長村山常三郎氏就任


鎌倉シネマワールドオープン


第14回ディスプレイ産業大賞
ペイントショー '94　テーマゾーン

1994年（平成6年）

3 ／国立科学博物館リニューアルオープン
4 ／志摩スペイン村オープン
5 ／イベントプロモーションセンターセミナー「エンターテインメントの世界を探る」（吉田斉氏）開催
5 ／第26回通常総会および全国大会開催（長崎）
6 ／イベントプロモーションセンターセミナー「笑いの周辺」（田中宏幸氏）開催
6 ／千葉県立現代産業科学館オープン
9 ／イベントプロモーションセンターセミナー「米国アミューズメント視察旅行」実施
10 ／アクトシティ浜松開業
11 ／イベントプロモーションセンターセミナー「独善的映画論」（奥山和由氏）開催
12 ／1994年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
イベントプロモーションセンターセミナー「これからの街づくりを考える」（北山孝雄氏）開催


志摩スペイン村開園


千葉県立現代産業科学館オープン


関西国際空港開港



第13回ディスプレイ産業大賞
NECパソコンフェア'93　マイクロソフトスタンド

1993年（平成5年）

1 ／イベントプロモーションセンターセミナー「ウォーターフロントに誕生する新しいコミュニケーション空間東京国際展示場を語る」（大平晃司氏、小泉厚氏）開催
3 ／東京都江戸東京博物館オープン
4 ／「ディスプレイ業～現況と展望」改定版発行
4 ／福岡ドーム開業
5 ／イベントプロモーションセンターセミナー「テレビ時代劇のウソとまこと」（稲垣史生氏）開催
7 ／第25回通常総会および創立25周年記念全国大会開催（東京）
7 ／ジャパン・エキスポ信州博'93開幕
7 ／横浜ランドマークタワーオープン
8 ／イベントプロモーションセンター、「信州博'93・国宝松本城400年まつり視察ツアー」実施
8 ／大田世界博覧会開幕
9 ／イベントプロモーションセンター、「大田EXPO視察ツアー」実施
10 ／イベントプロモーションセンターセミナー「ディスプレイ業界、今後の政策について」（近藤正春氏）開催
10 ／ポートメッセなごや・第3展示館、インテックス大阪・6号館、くにびきメッセ、アスティとくしま相次ぎ開業
11 ／福岡・マツヤレディス　リニューアルオープン
12 ／1993年度ディスプレイ産業賞贈賞式挙行
ディスプレイ産業賞＝日本経済新聞社賞を設定


江戸東京博物館オープン



創立25周年記念全国大会


大田エキスポ'93


第12回ディスプレイ産業大賞　笠懸野岩宿文化資料館

社会の動き

1993年（平成5年）
皇太子・雅子さま御結婚
サッカー Jリーグ開幕
福岡ドームが完成
横浜ランドマークタワーが開業
レインボーブリッジが開通

1994年（平成6年）
関西国際空港が開港
大江健三郎氏がノーベル文学賞受賞

1995年（平成7年）
阪神・淡路大震災
PL法施工
野茂氏が米大リーグ新人王獲得

1996年（平成8年）
東京ビッグサイト（東京国際展示場）が開場
海の日施行
複合商業施設キャナルシティ博多オープン

1997年（平成9年）
消費税率を5%に引き上げ
東京湾アクアライン開通

2002年（平成14年）

パシフィコ横浜、2万㎡の供用開始
サッカーのワールドカップ、日韓で共同開催
日本展示会主催者協会の「JExpo2002」が開催
イベントプロモーションセンターセミナー「2005年愛知万博を語る」（7月30日。2005年日本国際博覧会チーフ・プロデューサーの牧村真史氏を講師に招聘）開催
この年度で「NDFイベントプロモーションセンター」の事業終了に。その後は、本部の教育研修委員会として事業活動を継続することに



2005年日本国際博覧会着工へ



日本商業施設学会設立



第21回ディスプレイ産業大賞
第35回東京モーターショー 2001　日産ブース

2001年（平成13年）

韓国、釜山初の本格的コンベンション施設「釜山展示・コンベンションセンター」（BEXCO）竣工、9月にグランドオープン
米国同時多発テロが発生
パシフィコ横浜の展示場Ⅱ期増床計画が竣工、展示ホール2万㎡に
東京ビッグサイトが開場以来初の年末年始休業
イベントプロモーションセンターセミナー「地方都市の目指すもの」開催



北九州博覧祭2001開催



JAPAN EXPO



日本科学未来館開館



第20回ディスプレイ産業大賞
第34回東京モーターショー 2000　日産ブース

2000年（平成12年）

「さいたまスーパーアリーナ」竣工
「インテックス大阪」開業15周年
ドイツ初の万博「2000年ハノーバー国際博覧会」（エキスポ2000）開催
「さいたまスーパーアリーナ」グランドオープン
新千年紀事業として「インターネット博覧会」（インパク）開催
ホームページ開設



アクアシティ お台場オープン



イクスピアリオープン



NDFホームページ開設



第19回ディスプレイ産業大賞
JRセントラルタワーズ・タワーズプラザ

1999年（平成11年）

MM21（みなとみらい）地区の大観覧車移設オープン
「東京ビッグサイト」開業3周年迎える
「つくば国際会議場」オープン
幕張メッセの開業および幕張新都心の街開き10周年を記念する式典開催
「東京モーターショー－乗用車・二輪車－」初の分離開催
ディスプレイ『新・標準見積様式』（六耀社）刊行



創立10周年記念イベントフォーラム　トークセッション



第7代会長加藤賢次氏就任



ティーズ原宿オープン



第18回ディスプレイ産業大賞　世界遺産ポスター展

1998年（平成10年）

4 ／グランメッセ熊本開業
4 ／西日本総合展示場・新館開業
5 ／第30回通常総会開催（東京）
「キラメッセぬまづ」「ビックパレットふくしま」「北九州メディアドーム」が続々とオープン
東京ビッグサイトの施設入場者数2,000万人を達成
創立30周年記念全国大会実施
「ND・創立30周年特集号」刊行
「ディスプレイ連合会30年の軌跡」ビデオ制作



98年度ディスプレイ産業賞審査会



創立30周年記念全国大会



第17回ディスプレイ産業大賞　テクノ コスモス

社会の動き

1998年（平成10年）
冬季長野オリンピック開催
サッカー W杯に日本初出場
明石海峡大橋が開通

1999年（平成11年）
ユーロ誕生　欧州新通貨が始動

2000年（平成12年）
シドニーオリンピック開催
新紙幣2000円札発行
第26回主要国首脳会議（九州・沖縄サミット）開催
都営地下鉄大江戸線が全線開通

2001年（平成13年）
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開園
アメリカ同時多発テロ事件
埼玉スタジアム完成

2002年（平成14年）
2002 FIFAワールドカップ日韓共同開催
日本経済団体連合会が発足

2007年（平成19年）

日本展示会協会40周年
「全国青年交流会発足式」（3月22日）を東京・八重洲富士屋ホテルで開催
第39回全国大会 in くまもと（5月25・26日）開催



全国青年交流会発足式


第1回KU/KAN賞贈賞式


第26回ディスプレイ産業大賞
城崎マリンワールド “ダイブ”

2006年（平成18年）

ソフトバンクが携帯電話全機種の店頭価格を0円とするなど携帯電話の競争激化
国土交通省が「国際会議、国際文化・スポーツイベント等を通じた観光交流拡大のための検討会」開催
ディスプレイ『企画・設計等の業務及び報酬基準』の改訂版発行（4月）
日デ連の広報機関誌「ND」誌が版型をB5版からA4版へと変更。
編集内容のリニューアルを図る（5月号より）
第38回全国大会 in とちぎ（5月23・24日）開催



第38回全国大会 in 栃木


ディスプレイ産業賞審査風景



第25回ディスプレイ産業大賞
RICOH COMMUNICATION SPACE i-salon

2005年（平成17年）

日本イベント産業振興協会が「第1回日本イベント大賞」を開催
愛・地球博開幕
インテックス大阪20周年
（株）幕張メッセ発足
第37回全国大会 in あいち（5月25・26日）開催


2005年日本国際博覧会（愛・地球博）


第37回全国大会 in 愛知


第8代会長乃村義博氏就任


第24回ディスプレイ産業大賞
2005年日本国際博覧会 トヨタグループ館

2004年（平成16年）

みなとみらい線開通
「幕張メッセ」15周年
アテネオリンピック開幕
この年度から日デ連の機関誌「ND」が従来の年10回発行から、年6回の隔月発行に変更。また、情報の適時提供を目指したFAX・メールを活用した「NDFにゅ～す」が発行されることに
第36回全国大会 in「みやざ」（5月21・22日）開催
ホームページ「NDFウェブ・サイト」をリニューアル



第36回全国大会 in 宮城



ホームページをリニューアル



第23回ディスプレイ産業大賞　酒田夢の倶楽

2003年（平成15年）

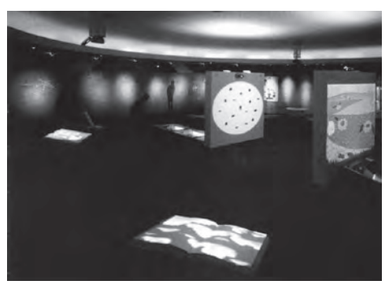
（株）東京ビッグサイト発足
日本展示会主催者協会が日本展示会協会へと名称を変更
日本展示会協会が主催する「JExpo2003」開催
教育研修委員会を新設。同委員会は労働安全の立場から関係法令などで義務づけられている資格の取得促進を目的にセミナーを行なうことに
第35回記念全国大会 in おおさか（5月22・23日）開催
「第1回職長・安全衛生責任者教育」を11月21・22日に福岡市で開催。その後、日本各地で開催を続ける



第35回全国大会 in 大阪



第1回職長・安全衛生責任者教育講習会開催


第22回ディスプレイ産業大賞　命と環境の学習館

社会の動き

2003年（平成15年）
六本木ヒルズがグランドオープン
大江戸温泉物語オープン

2004年（平成16年）
アテネ五輪で日本選手大活躍、メダル最多の37個
シアトル・マリナーズのイチローがシーズン最多安打記録を84年ぶりに更新
新潟県中越地震

2005年（平成17年）
日本プロ野球 セ・パ交流戦が開幕
愛知県で「愛・地球博」が開幕
エクスプレス線（東京・秋葉原駅～茨城・つくば駅間）が開通

2006年（平成18年）
第1回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本が優勝
表参道ヒルズがオープン

2007年（平成19年）
第1回東京マラソン開催
東京ミッドタウンが開業
郵政民営化スタート

2012年（平成24年）

経済産業省が展示会統計にかかわる第三者認証制度の運用開始、日本展示会認証協議会発足。
日本ディスプレイデザイン協会が一般社団法人に移行するとともに、日本空間デザイン協会に名称変更
一般社団法人に移行（4月1日）
第44回全国大会 in かながわ（5月24・25日）開催
事務所を中央区銀座に移転（6月）
「第5回全国青年交流会」（7月6日）開催
ディスプレイ産業賞2012授賞式挙行（12月4日）


第44回全国大会 in 神奈川


第5回全国青年交流会 in 新潟


第31回ディスプレイ産業大賞
コミカミノルタプラネタリウム“天空”
in スカイツリータウン

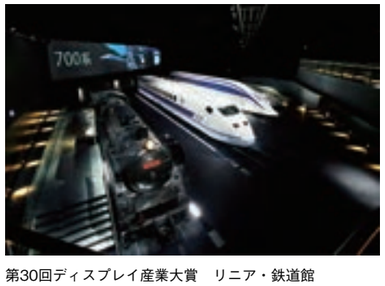
2011年（平成23年）

「展示会産業活性化方策検討委員会」で日本展示会認証協議会が設置される
東日本大震災発生。多数の展示会が中止・延期になるなど、展示会産業に深刻な影響与える
イベントマネジメントにおける持続可能性の国際規格ISO20121の策定はじまる
「第4回全国青年交流会」（4月15日）開催
NDF集客産業フォーラム福岡（5月19日）開催
第43回全国大会 in ふくおか（5月19・20日）開催
AFECA第6回総会（9月17日～19日）参加
ディスプレイ産業賞2011授賞式挙行（12月6日）
ホームページリニューアル


NDF集客産業フォーラム福岡開催


東日本大震災


AFECA 第6回総会参加


第30回ディスプレイ産業大賞　リニア・鉄道館

2010年（平成22年）

日本展示会協会がアジア各国の展示会・コンベンション関連団体の連合組織AFECAに入会
観光庁が第1回MICE推進協議会を発足。国際会議に加え展示会・見本市、インセンティブなどを含むMICEについても施策展開を行なう
第3回地域活性化事業 in 熊本「くまもとを元気にする『街』の資産発掘」開催（3月12日）
「第3回全国青年交流会」（4月9日）開催
第42回全国大会 in ぐんま（5月27・28日）開催
AFECA第5回総会（9月16～18日・マカオ）参加
ディスプレイ産業賞2010授賞式挙行（12月7日）

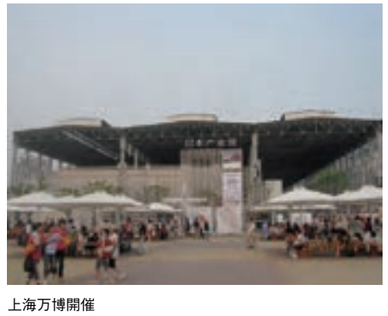


第3回全国青年交流会開催


加藤賢次氏
正六位旭日小綬章受章



ND400号発刊


上海万博開催

2009年（平成21年）

コンベンション、イベント、展示会の開催に関するPCR策定ワーキンググループ発足
横浜「開国博Y150」開催
DDA創立50周年記念出版「空間創造発想帖」発刊
「上海万博視察交流会」開催
「第2回全国青年交流会」（4月10日）開催
第41回全国大会 in みえ（5月21・22日）開催
日デ連、シンガポールの業界団体SACEOSと覚書締結（7月29日～8月2日）
ディスプレイ産業賞2009授賞式挙行（12月8日）


第9代会長浜田晋氏就任


乃村義博氏　藍綬褒章受章


SACEOS創立30周年式典及び協力関係覚書締結式



第4回AFECA年次総会参加



第6回Korea Exhibition Forum　日韓交流会参加


第28回ディスプレイ産業大賞　かごしま環境未来館

2008年（平成20年）

展示会の企画ISO25639が策定される
「第1回全国青年交流会」（3月5日　東京・八重洲富士屋ホテル）開催
第40回全国大会 in 東京（5月22・23日）開催
ディスプレイ産業賞2008授賞式挙行（12月9日）
第2回地域活性化事業「『横丁進化論』シンポジウム仙台」開催（12月15日）


第1回全国青年交流会開催


第40回全国大会 in 東京


京橋から神田へ事務所移転


第27回ディスプレイ産業大賞　INAX GINZA

社会の動き

2008年（平成20年）
北京オリンピック開幕
東京地下鉄副都心線 池袋駅 - 渋谷駅開業
複合施設赤坂サカスがグランドオープン

2009年（平成21年）
初の裁判員裁判　東京地裁で始まる

2010年（平成22年）
上海万博開催
小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還

2011年（平成23年）
東日本大震災発生
小笠原諸島がユネスコ世界自然遺産に登録
地上デジタル放送に完全移行

2012年（平成24年）
東京スカイツリーが開業
複合商業施設「渋谷ヒカリエ」が開業

一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会50年の歩み

2017年（平成29年）

「2017NDFスペシャル in 熊本 空間を創るディスプレイの仕事」（10月5日）開催
「2017NDFスペシャル in 富山 空間を創るディスプレイ業の仕事」（11月26日）開催
第36回ディスプレイ産業賞贈賞事業・NDF特別賞贈賞（9月7日）。ディスプレイ産業賞2017年鑑を発刊
高所作業車特別教育、コンプライアンス研修を実施（2月）
AFECA総会於台湾高雄参加・ユースチャレンジ（3月20日～ 23日）協賛
第49回全国大会 in 長崎（6月22日）開催
第10回全国青年交流会 in 東京（7月7日）開催
JAPAN SHOP2018（3月9日）協賛
中小企業等経営強化法の経営力向上設備当に係る生産性向上要件証明書の発行12件対応（3月29日）
大分ディスプレイ協会発足入会して37団体、構成員数751社、賛助会員が増加29社となる（7月1日）



NDF特別賞「英宏の泉 ホタル再生プロジェクト」
環境大臣賞金賞



第49回全国大会 in 長崎



浜田晋氏　藍綬褒章受章



渡辺勝氏　旭日小綬章受章



第36回ディスプレイ産業大賞　広島平和記念資料館東館

2016年（平成28年）

東京ビッグサイト東新展示棟開業
愛知県が中部国際空港島の空港隣接地に5万㎡の展示場新設を発表。2019年の開業目指す
熊本地震が発生。政令指定都市で震度6弱以上の地震は東日本大震災以来。
『コンプライアンスガイド』刊行・全構成員に配布
第35回ディスプレイ産業賞贈賞事業・NDF特別賞贈賞（8月26日）。ディスプレイ産業賞2016年鑑を発刊
足場組立てなどの作業従事者特別教育を全国15箇所にて開催（2月23日）。受講者延べ1579名
AFECA総会於中国厦門市参加・ユースチャレンジ（11月7・8日）協賛
第48回全国大会 in 宮城（6月9日）開催
第9回全国青年交流会 in 福岡（7月8日）開催
JAPAN SHOP2017（3月7日～ 10日）協賛
沖縄ディスプレイ業協会が設立され入会・構成員44社増強734社となる



全国事務局会開催



第48回全国大会 in 宮城



第35回ディスプレイ産業賞贈賞式



第35回ディスプレイ産業大賞　The World of Sports

2015年（平成27年）

日本展示会協会が東京五輪のメディア施設として東京ビッグサイトが使用される問題を受け、署名活動を開始
日本コンベンション協会が発足
ディスプレイ業における能力評価基準4月策定・説明会の実施
第34回ディスプレイ産業賞贈賞事業・NDF地域賞贈賞（6月9日）
AFECA総会於マレーシア（4月29日）出席
第47回全国大会 in 岐阜（5月28・29日）開催
第8回全国青年交流会 in 茨城（7月10日）開催
JAPAN SHOP2016（3月8日～ 11日）協賛
埼玉県と島根県に新たな協会設立され入会・構成員数690社に増加



第10代会長渡辺 勝氏就任



第47回全国大会 in 岐阜



AFECAマレーシア総会参加



第34回ディスプレイ産業大賞
東レ・メディカルショールーム

2014年（平成26年）

東京ディスプレイ協同組合が創立50周年。「超・お祭り」を開催
夢メッセみやぎ西館がオープン
展示会産業議員連盟が結成される
展示会の企画・運営業が日本標準産業分類に掲載される
日本展示会認証協議会（JECC）がUFI公認認証機関となる
地域活性化事業「かがやき未来交流会－富山」（10月12・13日）開催
第33回ディスプレイ産業賞贈賞事業・NDF地域賞贈賞
AFECA総会於台湾（9月17・18日）出席
第46回全国大会 in 北海道（6月19日）開催
第7回全国青年交流会 in 愛知（7月11日）開催
JAPAN SHOP2015（3月3日～ 6日）協賛
ディスプレイ業界の人材育成のための評価基準資料と評価シート及び活用マニュアル作成



第3回通常総会開催



第7回全国青年交流会愛知名古屋大会開催



AFECA 第9回総会参加



第33回ディスプレイ産業大賞
鬼平江戸処 東北自動車道羽生パーキングエリア（上り）

2013年（平成25年）

日本イベント産業振興協会が一般社団法人に移行
第3回地域活性化推進事業「秋田の自慢てんこ盛りフォーラム」開催（2月27日）
第45回全国大会 in Osaka（5月23・24日）開催
大阪ディスプレイ協同組合創立50周年
「第6回全国青年交流会」（7月12日）開催予定



第45回全国大会 in 大阪



第6回全国青年交流会広島大会開催



土井啓実氏　黄綬褒章受章



第32回ディスプレイ産業大賞　東京ソラマチ

社会の動き

2013年（平成25年）

東京銀座にて歌舞伎座新開場
富士山が世界文化遺産に登録される

2014年（平成26年）

消費税が5%から8%に増税
あべのハルカスが完成　日本一高いビルとなる
富岡製糸場が世界文化遺産に登録

2015年（平成27年）

北陸新幹線の開業区間が東京-金沢区間に延伸
マイナンバー（個人番号）の通知がはじまる

2016年（平成28年）

平成28年熊本地震 M6.5、最大震度7の地震
G7 伊勢志摩サミット（第42回先進国首脳会議）が開催
改正公職選挙法-選挙権年齢が18歳以上となる
リオデジャネイロオリンピック開催
アメリカ合衆国大統領選挙 ドナルド・トランプが当選

2017年（平成29年）

プレミアムフライデー開始
愛知県名古屋市にレゴランド（テーマパーク）がオープン
「ギンザシックス」開業＝大型商業施設、東京に新名所

2018年（平成30年）

平昌五輪　羽生結弦2大会連続金メダル
ロシアW杯　日本決勝T進出
西日本豪雨　広島・岡山など甚大な被害



1964　ニューヨーク世界博覧会視察

1960年代



案内看板書き風景



1960　モスクワ日本産業見本市



1964　創業40周年記念式典



工場内の製作風景



社内事務所の風景



1964　東京オリンピック感謝状



運搬風景



社内風景



1964　東京オリンピックにて弊社清掃員がアベベ選手が紛失した指輪を発見。
その様子がニュースとして当時話題となった。
昭和40年4月29日付　毎日新聞掲載



ディスプレイの記憶

構成員各社から記憶写真を提供いただきました。各社それぞれの成長過程にある記念写真の数々です。現業、現場でのスナップが少ないのも日々忙しくすごしてきた業界ならではと偲ばれます。

1910年代～1950年代

1928
京都・東堀川　創業時　社屋前での記念撮影



1928　昭和天皇即位式（京都）



1931　京都・祇園　歌舞練場「都をどり」



創業当時　社屋の前での記念撮影



1959　当時最大見本市の大阪国際見本市



1956　日本商品展覧会　北京



1946　戦後すぐに業務を再開した時の看板



1973　創業50周年式典



1974　SITEMA'74（シンガポール）



1979　上野新本社竣工（丹青社）

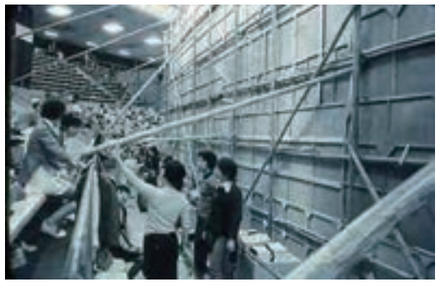
1970年代



1970　大阪万博現場



1972　広告　ぼくはマネが大嫌いだ



日本武道館　舞台裏の丸太組みの風景



社内風景



社内風景



1968　創業40周年記念行事



工場内の製作風景



1965　謝恩会



1967
EXPO'67（カナダ・モントリオール博）視察



1967　湯島本社内（丹青社）



1965　大阪社屋（乃村工藝社）



1969　大阪万博テーマ館竣工式



1968　乃村・日展・丹青3社親善試合



1966　東京芝浦新社屋（乃村工藝社）



1966　東京友乃会発足（乃村工藝社）

1980年代



日本店装新聞　昭和58年9月30日（金）　第992号

業界から第1号の上場企業
丹青社 9月16日店頭登録

写真右は、丹青社 渡辺社長、左は、東京台東区にある同社本社屋全景

1983　店頭登録 記事



「雪と氷と幻想と」で採用された鉄骨ステージ



社内の会議風景



工場内の製作風景



シミズ舞台工芸の作業風景



1982　新年会風景



現場記念撮影



グランド・ファンク・レイルロード公演で初めて使用された鉄骨組み立て方式の舞台（搬入作業）



工場風景



1979　周年記念撮影



社内の打合せ風景



デザイン部風景



社内風景



創業者　清水芳一（シミズオクト）



観客誘導風景（国立競技場、千駄ヶ谷門）



本社作業場の風景



社内風景



製作風景



1993　永年勤続表彰風景



スタッフ業務風景



警備業務風景



1996　渡辺正治名誉会長社葬

1990年代



1990　500億達成祝賀会



1993　創業101周年祝賀会（乃村工藝社）



1995　「友乃会」発足会



1985　ノムラスポーツフェスティバル



1986　株主総会（丹青社）



1987　マーケティング・イノベーション・シンポジウム



1989　株式の店頭登録（乃村工藝社）



1980 100億突破パーティー（丹青社）



1984　東京新木場のスタジオ（乃村工藝社）



1982　乃村英一会長社葬

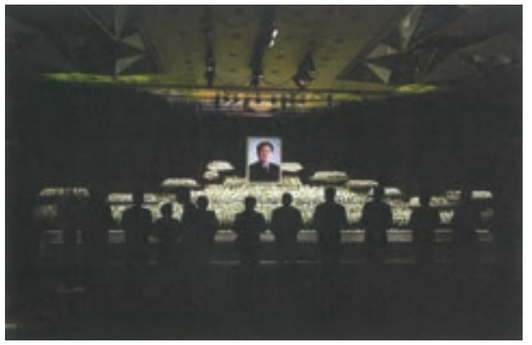
2000年代



2000　東証一部上場（丹青社）



2001　蟻田栄一名誉会長「お別れの会」



2011　乃村義博会長「お別れの会」



2005　東証一部



2013　創業周年風景



2015　入社式

本50周年記念誌の作成にあたり、以下の企業から掲載写真をご提供いただきました。ここにご紹介するとともに、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。

株式会社シミズオクト　　株式会社フジヤ
株式会社丹青社　　株式会社ムラヤマ
株式会社乃村工藝社

編集後記

過去の歴史はその時代に生きた人たちによって創られたもの。時代時代の節目で成功と失敗がせめぎあった瞬間の結果の数々。過去をさかのぼってその瞬間に立ち会うことは決して叶わないけれど、残された資料に目を向ければいつでも過去の歴史の事例をひも解き、そこから成功や失敗に至った理由、結果の道筋を知ること、学ぶことができます。歴史は繰り返すとも言われています。過去の事例を調べて学ぶこと、再確認することは決して無駄なことではないと思います。

時代の流れとともにこんにちのディスプレイの領域はアメーバーのように縦横無尽に広がり、人々の日常生活のあらゆる場面に溶け込み、生活を取り巻く環境にディスプレイはなくてはならないものと実感している方々も多数おられると思います。ディスプレイによってもたらされる感動・共感は誰もが希求するところであり、その一翼を担っている私たちの仕事は素晴らしく誇りを持てるものであるといえます。

メディアミックス、IT化が急速に進む中「今現在」の混沌とした空気を読み、この先の見通しを立てるにあたり、過去の事例に立ち戻り、深く読み解くことでちょっとした未来進路のヒントが見つかるかもしれません。読者の皆さん、とくに若いディスプレイヤーにとって、この50周年記念誌がひとつの羅針盤として少なからず役に立つ有意義な資料と感じていただければ嬉しい限りです。

これからの歴史を創っていくのはどのような挑戦も苦労もいとわない若人たちでしょう。ディスプレイというフィールドには境界がないだけに無限の可能性にあふれています。ディスプレイに携わる一人ひとりが存在感を発揮し、素晴らしい未来を自らの力で勝ち取ってください。ひいては業界の更なる飛躍・発展につながって行くことを期待します。

最後に、50周年記念誌発行に至るまで実に多くの方々のご支援とご協力を賜りました。日デ連、渡辺会長はじめ理事各位の深いご理解とご支援、事務局、専務理事はじめスタッフの方々、ディスプレイの生い立ちから今日までの流れを寄稿してくださった清水章氏、なつかしの作品写真をご提供いただいた各社様、トップインタビュー・次世代座談会にご参加いただいた各位様、記事ライターの笠井さん、印刷・編集の㈱アイセレクトさん、広告出稿していただいた各社様、そしてなによりも勤務時間の合間を縫いながら編集に汗を流した広報委員の各位に心より感謝申し上げます。

広報委員長　小林英介

表紙デザイン　最優秀作品

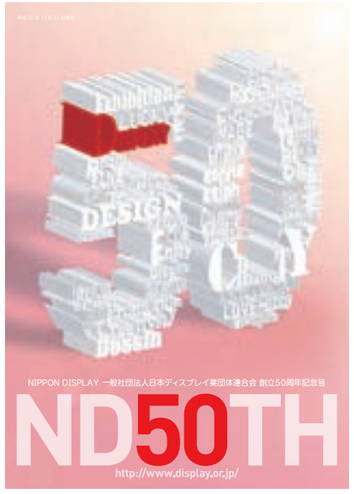
株式会社フジヤ　関西CC総括　中西基文

プロフィール

ディスプレイデザイナーとして、B to B主体の展示会を中心に、企業ショールーム、物販などの空間デザインに従事。ディスプレイするアイテムの魅力を最大限に引き出すことに拘りを持って空間演出を行っている。
近年は様々なイベントに足を運び、知覚に訴える空間技法を学び、新たな空間創りに活かしている。五感に訴えかける空間演出の創造を目指していく。

デザインコンセプト

『Spell Stack』
NDの歴史は様々なディスプレイ媒体と、そこから生まれたコミュニケーションの積み重ねではないでしょうか。それらの要素を様々なフォントの言葉を使い、積み重なって50周年をカタチ作っているイメージとしました。



広報委員会

委員長	小林　英介	㈱小林工芸社	
委　員	大倉　　大	㈱博展	古川　俊弘　㈱丹青社
	山崎　純二	㈱乃村工藝社	坂本　　薫　㈱ムラヤマ
	福美かおり	㈱フジヤ	須永　英二　㈱シミズオクト
	澁谷　　龍	ジーク㈱ 東京店	綿谷　賢治　第一工芸㈱
	平野　　顕	国際電氣工業㈱	

編集協力　笠井　美春

2018年12月

発行所　一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会
東京都中央区京橋3-9-4　新京橋ビル9階

発行人　渡辺　勝　（会長）

編集人　山口廣幸　（専務理事）

印刷所　株式会社アイセレクト



イベントをプロデュースされる皆様へ。

私たちジェイレンタルは
各種イベント、興行に必要な
設備・備品を
多数取り揃えております。

音楽・スポーツ・文化イベントや地域物産展など、
各種イベントや興行の開催会場には、
そこに訪れた人たちが快適に過ごすための
設備・備品が必要となります。
イベントをプロデュースする皆様に
確かな品質と機能を持つさまざまなアイテムを
ご提供致します。
どうぞお気軽にお問い合わせください。

J-RENTAL 株式会社 ジェイ レンタル
〒192-0361 東京都八王子市越野14-2
TEL.042-676-7000 FAX.042-676-3842
www.j-rental.co.jp

商業および都市の生活環境の
質的向上に役立つことを目的として

**商業施設技術に関する
調査・研究及び収集、
提供を行うとともに
技術者の教育及び認定を
おこなっています。**

「商業施設士」資格試験
2019年6月中旬 実施予定

公益社団法人 商業施設技術団体連合会
〒108-0014　東京都港区芝5丁目26番20号 建築会館4階
電話番号　03-3453-8103　　FAX　03-3453-8109
URL　http://www.jtocs.or.jp

Creative&Takumi

SANKO

Space Interior & Display



株式会社 山光

〒462-0016 名古屋市北区西味鋺1丁目612
TEL：052-901-1641 FAX：052-902-2406
E-mail：yuuji.y@ygmsanko.co.jp
代表取締役　山田　祐嗣

純光社

価値豊かな企業を
目指します

電気設備設計施工

株式会社 純光社

〒134-0091 東京都江戸川区船堀3-11-11
TEL.03-3675-3001 FAX.03-3675-3139

ISO14001認証取得
MSA-ES-1159
JAB CM024
http://www.junkosha.jp

GLOBAL
EXPERIENCE

下町から世界へ

IZMI SENKOSHA
SPACE INNOVATOR
URL https://www.izmi.bz

青森県ディスプレイ協会

**本州最果ての現場とお祭りは
我々にお声掛け下さい！**

Ａｒｕｋａｓ
有限会社 オフィスO. C
株式会社 クレア
有限会社 三建プロジェクト
象クリエイティブ・ワークス
株式会社 千葉工芸社
株式会社 ニシキデザイン
有限会社 ブラッシュ・アップ
八重田木工株式会社
有限会社 山藤伊藤電工

協賛企業
オーデリック株式会社 青森営業所
株式会社ニップコーポレーション 盛岡営業所

LEDライトパネル

高輝度アクリルパネル
展示会レンタル専門

株式会社グリフィン





全在庫枚数 1200 枚！
種類サイズ豊富！
全国レンタル可能！

TEL:03-5577-8833
FAX:03-3295-7111
http://ledpanel-rental.com/
led@griffin-net.co.jp

〒101-0048 東京都千代田区神田司町
2丁目13番地 神田第4アメレックスビル8階

◆各種サイズ、豊富に取り揃えております
A0、A1 ～ A4 サイズ／B1、B2 サイズ／社名板サイズ ／コーナーサイン



株式会社オオウチ工芸

各種サイン・展示会・イベント
ディスプレイ・店舗内外装
企画デザイン・設計・製作・施工

■本　　社 〒984-0014 宮城県仙台市若林区六丁の目元町3番8号
TEL.022-286-1515(代)　FAX.022-286-2254
■東京営業所 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-22-17 TOCビル 4F 40-1号室
TEL.03-6417-9727　FAX.03-6417-9728

http://oouchi-k.com

CONGRATULATIONS

50th

ANNIVERSARY

一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会 様

創立50周年おめでとうございます。
ますますのご発展お祈り申し上げます。

JACE 一般社団法人 日本イベント産業振興協会

レンタルのスタンダードブランド
NIPPO

求めるチカラは、
求められるチカラ。



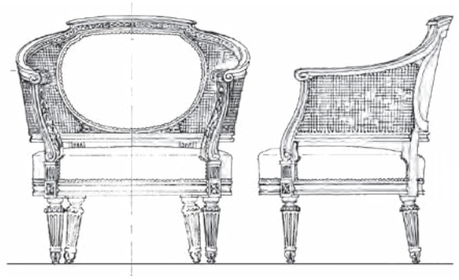
行動力、知識力、対応力、組織力…
私たちが求めるチカラは何？
そして、私たちに求められるチカラは何？
多様化するシーンに、対応できるチカラを
これからも日々探求してまいります。

株式会社 日邦
http://www.nippo-rental.co.jp

■本　　社　〒552-0021　大阪市港区築港3-1-8
TEL:06-6576-3735　FAX:06-6576-3736

■東京営業所　〒135-0053　東京都江東区辰巳3-15-14
TEL:03-5534-3700　FAX:03-5534-3701

おかげさまで
インテリア事業創業140年を迎えました



おかげにて
140th

髙島屋スペースクリエイツ株式会社

〒103-8218
東京都中央区日本橋茅場町2-12-7
TEL.03-5652-1217　FAX.03-5652-1230
札幌・仙台・名古屋・大阪・京都・広島・福岡
http://www.ts-create. jp



Taisho
大昌工芸株式会社

時代の空気に満ちた空間づくりを
トータルサポートします

http : www.taishokougei.co.jp

本　社 / 〒733-8531　広島市西区小河内町2-15-2　☎082-291-6211
事業所 / 東京・大阪・岡山・広島・高松・高知・松山・福岡

NOMURA GROUP

共感と共創のパートナー

集客空間のディスプレイ・プロモーションづくり

ノムラデュオは、店頭プロモーションとオペレーションサポート
（お店の魅力を高めるノウハウ）で、生活者の「買う喜びと感動」
体験を創り出します。



株式会社 ノムラデュオ

本社／東京都港区台場2丁目3番1号 トレードピアお台場 22階／TEL:03-6426-0043（代表）／〒135-0091
大阪事業所／大阪府大阪市浪速区難波中2丁目10番70号 パークスタワー19階／TEL:06-6649-3350（代表）／〒556-0011
名古屋事業所／愛知県名古屋市中村区名駅4丁目5番27号 大一名駅ビル6階／TEL:052-569-5081（代表）／〒450-0002
https://www.nomura-duo.co.jp

NOMURA GROUP

展示演出空間の設計施工から保守点検まで
施設運営をトータルにサポート致します。

BUILD

MUSEUM
CORPORATE PR FACILITIES
LEISURE FACILITIES
CONTENTS, LED VISION
MODELING, DIORAMA

MAINTENANCE

OPERATION

ノムラテクノ株式会社

〒135-0091 東京都港区台場 2-3-1
トレードピアお台場20F
TEL : 03-6426-0198 / FAX:03-6426-0199
http://www.nomura-techno.co.jp

2018年8月15日より
【東京造型美術株式会社】は
【東京造形美術株式会社】
（TZB CO., LTD.）
に改称いたしました。

東京造形美術株式会社
TZB CO., LTD.



EST.1962

〒103-0011
東京都中央区日本橋大伝馬町 12-7　3F
TEL : 03-3669-8571
FAX : 03-3669-8240
MAIL : tzb_info@tzb.co.jp
URL: http://www.tzb.co.jp





私たちはデザインや出版物の制作を通して、大切なお客さまに信頼されること、愛されることがいちばんの幸せです。

■企画制作・編集代行	編集業務サポート、企画・デザイン
■データ編集・DTP	学術関連の高度なデータ編集（学会、協会、学校） アニュアルレポート、報告書（企業、労働組合） ワード・エクセルによるデータ編集、管理（報告書、名簿）
■印刷加工	オフセット印刷、オンデマンド印刷、バリアブル印刷、PUR製本、POP印刷
■WEBサイトの運営事業	戦国ヒストリー

aiSELECT

株式会社 アイセレクト　116-0013 東京都荒川区西日暮里5-30-6 第3宝生ビル　TEL.03-6806-8503　FAX.03-6806-8504



「お店づくりの会社」

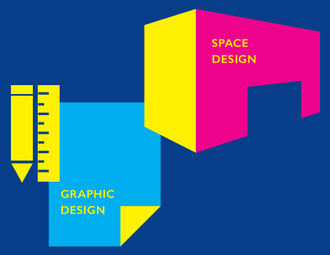
サイン＆ディスプレイ
の技術集団
ー全力でお手伝い致しますー

本社・工場	〒738-0021 広島県廿日市市木材港北7-17 電話(0829)32-8757(代) FAX (0829)32-9078	大阪営業所	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-29テラサキ第2ビル 1階 電話(06)6396-3347(代) FAX (06)6396-5031
東京支店	〒171-0014 東京都豊島区池袋2-23-24 電話(03)5954-7675(代) FAX (03)5954-7810	広島営業所	〒730-0051 広島市中区大手町1丁目1-26 大手町ー番ビル 1109 電話・FAX(082)569-4117
名古屋営業所	〒460-0013 愛知県名古屋市中区上前津1-4-12 上前津ビル 2階 電話(052)324-5390(代) FAX (052)324-3650	福岡営業所	〒812-0893 福岡市博多区那珂1-46-19 電話(092)414-0390(代) FAX (092)414-0391

SANKYO DISPLAY
一級建築士事務所
三共ディスプレイ株式会社



美しく
見やすく
解りやすく
易しく
人に伝え
心を動かす



ブースデザイン・設計・施工・企画・運営

WORLD COLOR Inc.

株式会社 ワールドカラー　www.worldcolor.co.jp
101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-46
Tel.03-3293-4501

NOMURA GROUP



ストーリーをかなえる、
プロセスがある。

株式会社 ノムラプロダクツ

〒135-0091
東京都港区台場 2 丁目 3 番 1 号トレードピアお台場 20 階
TEL:03-6426-0023　FAX:03-6426-0025

〒556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中 2 丁目10 番 70 号パークスタワー19階
TEL:06-6649-3349　FAX:06-6649-3359

http://www.nomuraproducts.co.jp/

建築・内装事業、多店舗事業、サイン事業、ビル再生事業

EXHIBITION-FITTER
BOX-1

Congratulations on the 50th anniversary.

おかげさまで私たちボックス・ワンも
今年で創立 30 周年を迎えます。
これからも日本のディスプレイを共に彩ってまいります。

70th Thank You

「空間」の力で想いを形にする。
それが、私たちの事業であり提供価値です。

創立から70年、
私たちは商空間プロデュース企業として
様々な空間を手がけてきました。

100年企業を目指し、
これからも空間の可能性と向き合い続けます。



明日が、笑顔になる空間を。
SPACE

株式会社スペース
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-9-4
TEL 03-3669-4008 www.space-tokyo.co.jp

独自の発想と提案、そして施工技術力で
商業施設等の企画、設計、施工に携わります。

SOGO DESIGN
http://www.sogodesign.co.jp/

株式会社 綜合デザイン
151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-4-5
大阪／名古屋／札幌／福岡／広島／香港

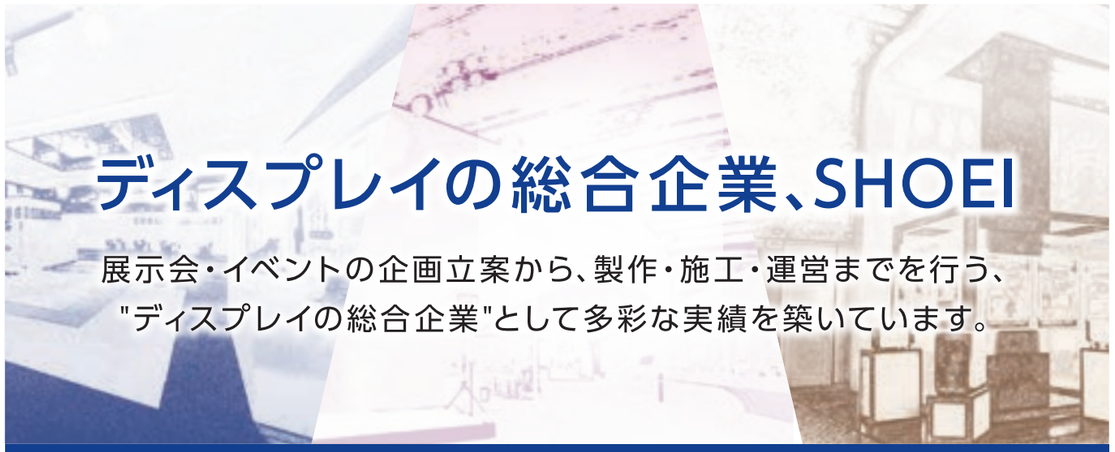


大阪本社 TEL.06-6310-4100 FAX：06-6310-4110
東京支店 TEL.03-6685-4100 FAX：03-6685-4134
京都支店 TEL.075-723-0430 FAX：075-723-0431
広島支店 TEL.082-246-7762 FAX：082-243-2281
九州支店 TEL.092-409-4120 FAX：092-409-4128
www.cima-net.co.jp 0120-410-866

株式会社シーマ

シーマにはあらゆる映像機材と、ビジュアル演出の
アイデアとセンスを持ち合わせたスタッフが
揃っていますぜひご相談ください。

Cima
Solutions for great impression.



ディスプレイの総合企業、SHOEI

展示会・イベントの企画立案から、製作・施工・運営までを行う、
"ディスプレイの総合企業"として多彩な実績を築いています。

THINK YOUR VISION

私たちは、お客様が理想とする未来像をお客様視点で捉え、
新たな価値実現に向けて共に創造する企業を目指します。

SHOEI THINK YOUR VISION 株式会社昭栄美術 http://www.shoei-bijutsu.co.jp
「ISO9001」認証取得 「ISO27001」認証取得 ※営業部のみ

本 社 〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー25F Tel:03-5148-6651(代) Fax:03-5148-6658
大阪オフィス 〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町1-4-8 FD備後町ビル301 Tel:06-4705-8022(代) Fax:06-4705-8023
昭栄(上海)展覧服務有限公司 〒200050 中国上海市長寧区延安西路889号 太平洋企業中心11 楼1120室 ※中国(上海)現地法人のお問い合わせは本社・第3営業部まで

Hakusuisha

その先にあるものを想像し、私達は創造する

私達は『集う』とは何かを考え 70 年あまり、多くの空間を作り続けてきました。
驚き・感動・安心・信頼・出会いといったそこに集う人の感情に寄りそって。
その時代を想い、先の時代を見据え、そこで過ごす時間と空間作りを共に演出してきました。

白水社グループは、空間創造のコンサルタントとしてお客様のビジネスブランディングにこれからも深く関わってまいります。

人と人が『出会い』『集う』場づくりを「想像」から「創造」へ。

Hakusuisha

株式会社 白水社
東京都中央区日本橋茅場町 2-2-8　　03-3669-9521（代表）
https://www.d-hakusuisha.co.jp

空間創りの先にある
お客様ビジネスの可能性と便益を最大化します

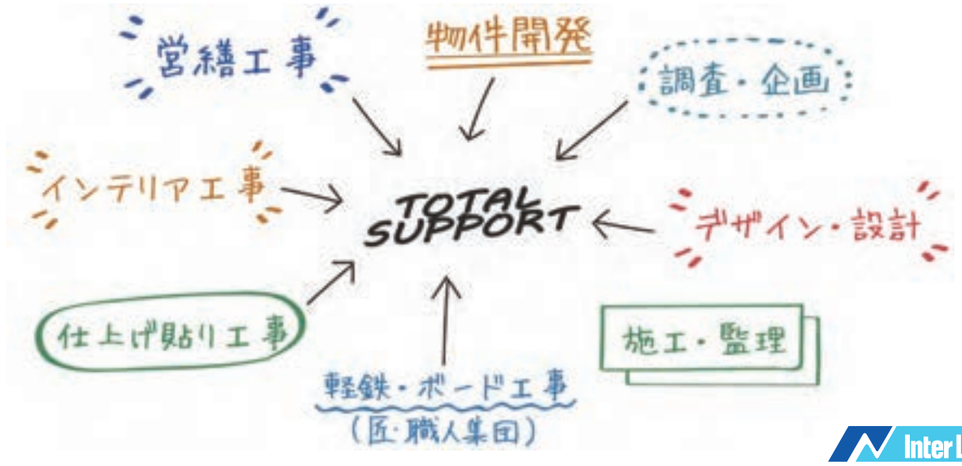
BENEFIT LINE
Creating the Next Space

株式会社ベネフィットライン

〒150-0022
東京都渋谷区恵比寿南1-1-9　岩徳ビル7階
Tel. 03-6451-0609　/　Fax. 03-6451-0619
https://www.benefit-l.co.jp/

お店づくり専門の工事屋だからこそできること

施設づくりをサポートする日商インターライフの総合力



OMOTENASHI
SINCE 1975

Inter Life

Inter Life GROUP JASDAQ 証券コード 1418

株式会社 日商インターライフ

〒116-0012　東京都荒川区東尾久 4-16-12
本社 TEL：03-3810-7111
http://n-interlife.co.jp/nil/

○ 専業本部
●建材課　TEL：03-3809-6171
●インテリア課　TEL：03-3819-0611

○ 商環境本部
● 営業 ・ 制作 ・ 企画設計課　TEL：03-5901-1200
●大阪営業所　TEL：06-6634-0736

50th anniversary
50周年おめでとうございます。

Shop
Museum
Sign
Exhibition
Interior

NIP

株式会社 ニップ コーポレーション

創造力にお応えする
空間創りのベストパートナー

本社　〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-25-8　TEL.03-5952-5501（代）FAX.03-5952-1051

盛岡　仙台　郡山　新潟　さいたま　千葉　松戸　氷川台　小岩　大森　日野　横浜　静岡　名古屋　岐阜　四日市
金沢　京都　大阪　神戸　岡山　広島　福岡　北九州　熊本　鹿児島　マーケティング

www.nip-co.co.jp

www.zycc.co.jp

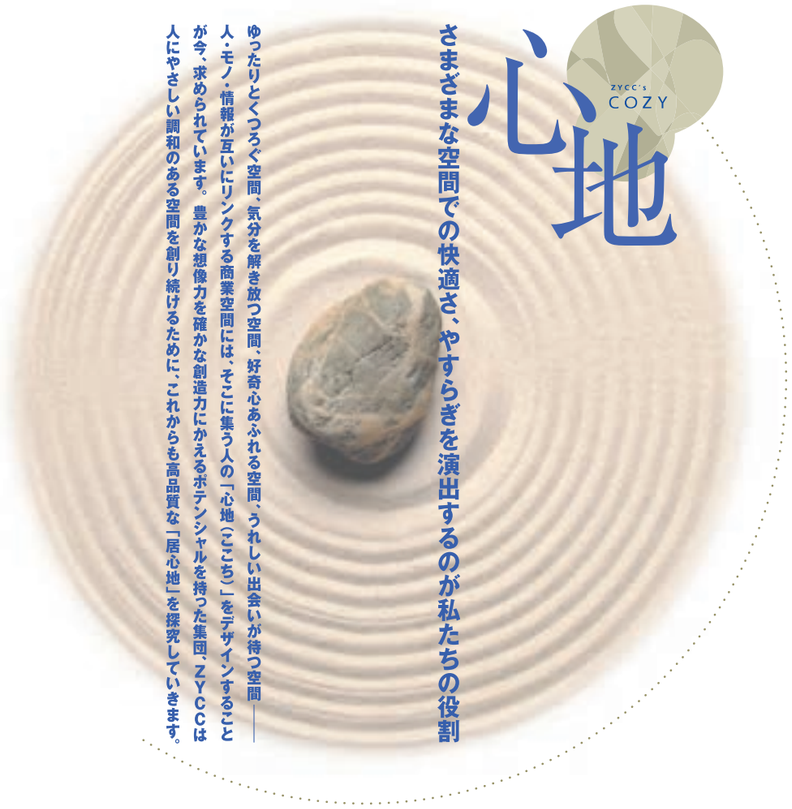
ZYCC

ZYCC's COZY

心地

さまざまな空間での快適さ、やすらぎを演出するのが私たちの役割

ゆったりとくつろぐ空間、気分を解き放つ空間、好奇心あふれる空間、うれしい出会いが待つ空間——
人・モノ・情報が互いにリンクする商業空間には、そこに集う人の「心地（ここち）」をデザインすること
が今、求められています。豊かな想像力を確かな創造力にかえるポテンシャルを持った集団、ＺＹＣＣは
人にやさしい調和のある空間を創り続けるために、これからも高品質な「居心地」を探究していきます。



2005年、創立200周年を迎え旧社名ゼニヤより、新しくジーク株式会社に社名変更いたしました。
新社名「ZYCC（ジーク）」は、従来の社名「ZENIYA（ゼニヤ）」より、「Z」と「Y」を残しました。それは、この2文字に、過去の歴史の意義を感じ大切に受けとめているからです。
「CC」は、「Commitment（約束）」「Confidence（信頼）」「Creative（創造力）」を意味し、信頼と約束を基盤に創造力あふれる企業（Corporation）を目指します。

ZYCC
ジーク株式会社

商業施設、文化教育施設、レジャー・スポーツ施設などのコンサルティング・企画・設計・監理・施工
●京都店 075-681-0511 ●東京店 03-3646-2131 ●大阪店 06-6943-6151 ●福岡店 092-411-6565 ●札幌店 011-210-5311
●営業所 仙台 名古屋 ● 海外ネットワーク 台湾全麗雅室内装修設計股份有限公司 全麗雅設計（深圳）有限公司上海分公司
全麗雅設計（深圳）有限公司 ZYCC SINGAPORE Limited ZYCC HONG KONG Limited ZYCC VIETNAM Limited



そのひらめきが、
未来を創造する。

株式会社 小林工芸社
KOBAYASHI KOGEISHA Co.,Ltd.

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-9-15 TEL.03-3917-1688 www.kobayashi-kk.co.jp
■第１ビジネスプロデュース事業部 ■第２ビジネスプロデュース事業部 ■ソーシング戦略室
EVENT/SP/OOH/Commercial Space/Hospitality,Other space













心が動く。

そんなイベントを手掛けます。

イベント・ソリューション・パートナー

セレスポ

株式会社セレスポ　〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-21-5　TEL:03-5974-1111















私たちは感動の「場」を支えます。

会場設営、運営、警備、施設管理など
イベントに携わるすべての道のプロフェッショナルが揃った会社、
それがシミズオクトです。

私たちは1932年の創業以来、80年以上にわたり、
野球・サッカーの公式試合をはじめ
あらゆるスポーツの大会、コンサート、展示会、博覧会など
さまざまなイベントの快適性や安全性をサポートしてきました。

これからもシミズオクトは、感動を創る「場」を支え続けます。

シミズオクト

www.shimizu-group.co.jp



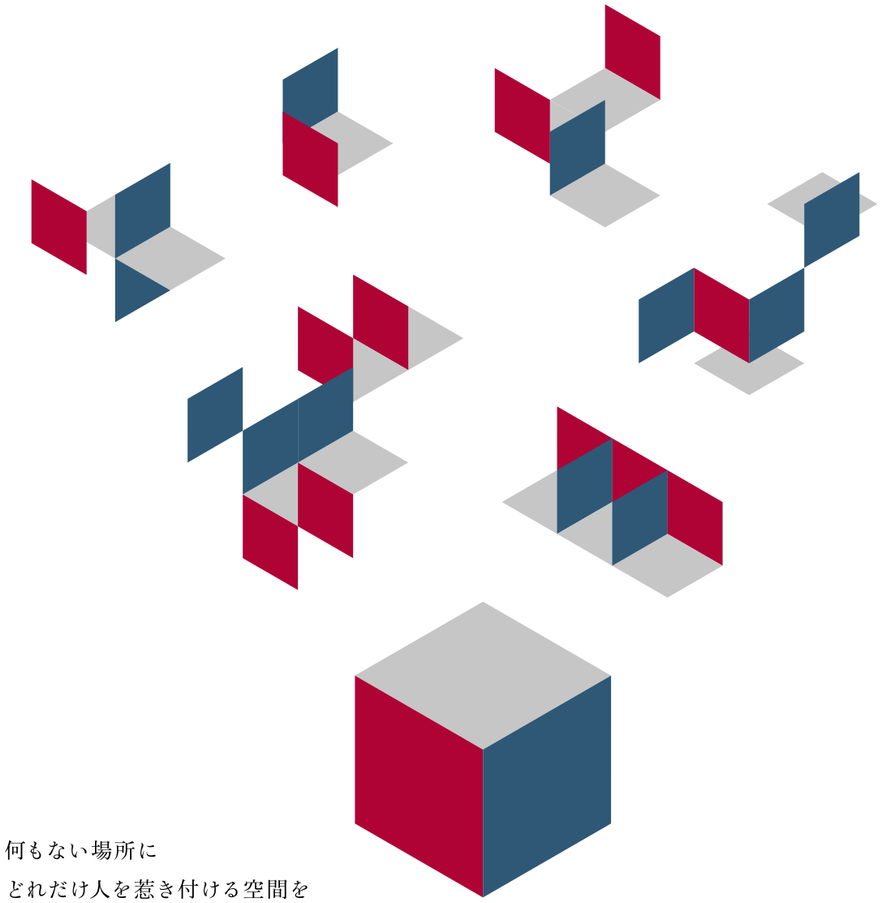
私たちが目指すのはお客様のイマジネーションを
パーフェクトにかたちに変える
TOTAL DESIGN & PRODUCT REALIZATION
時間や、ジャンルを超えた生命力あふれる交流シーンの
提供がわたしたち『つむら工芸』の使命と考えています。

株式会社つむら工芸
一級建築士事務所

http://www.tsumura-kogei.com

所在地　大　阪／〒550-0003 大阪市西区京町堀２丁目12番24号　TEL. 06-6448-2761
　　東　京／〒108-0073 東京都港区三田３丁目12番16号7F　TEL. 03-6809-5222

こころを動かす空間をつくりあげるために。



何もない場所に
どれだけ人を惹き付ける空間を
描けるだろう。

その空間は、どれほどの驚きや感動、
出会いや発見を生み出すだろう。

技術と経験、時代を読む眼を力にして
一人ひとりの思いを注ぎ続ける。

多彩なフィールドで
こころを動かす空間をつくりあげるために。
丹精を込めて。

Tanseisha

空間創造のプロフェッショナル
株式会社丹青社

〒108-8220 東京都港区港南1-2-70
品川シーズンテラス19F
TEL | 03-6455-8100（代表）
URL | www.tanseisha.co.jp

札幌・仙台・新潟・名古屋・京都・大阪・福岡・那覇・北京・上海

Hospitality Mind

心からのおもてなし

ホスピタリティでつなぐ

人と人

人とモノ

人と環境

人とイベント

人と空間



記憶に残る感動体験をプロデュース

TOTAL POWER by NISHIO

総合レンタル業のパイオニア
西尾レントオール株式会社

move

感動体験
記憶に残る

お問い合わせ

〒108-0022　東京都港区海岸３丁目21-32 安田芝浦７号ビル
TEL：03-6809-5548　　FAX：03-3769-9249





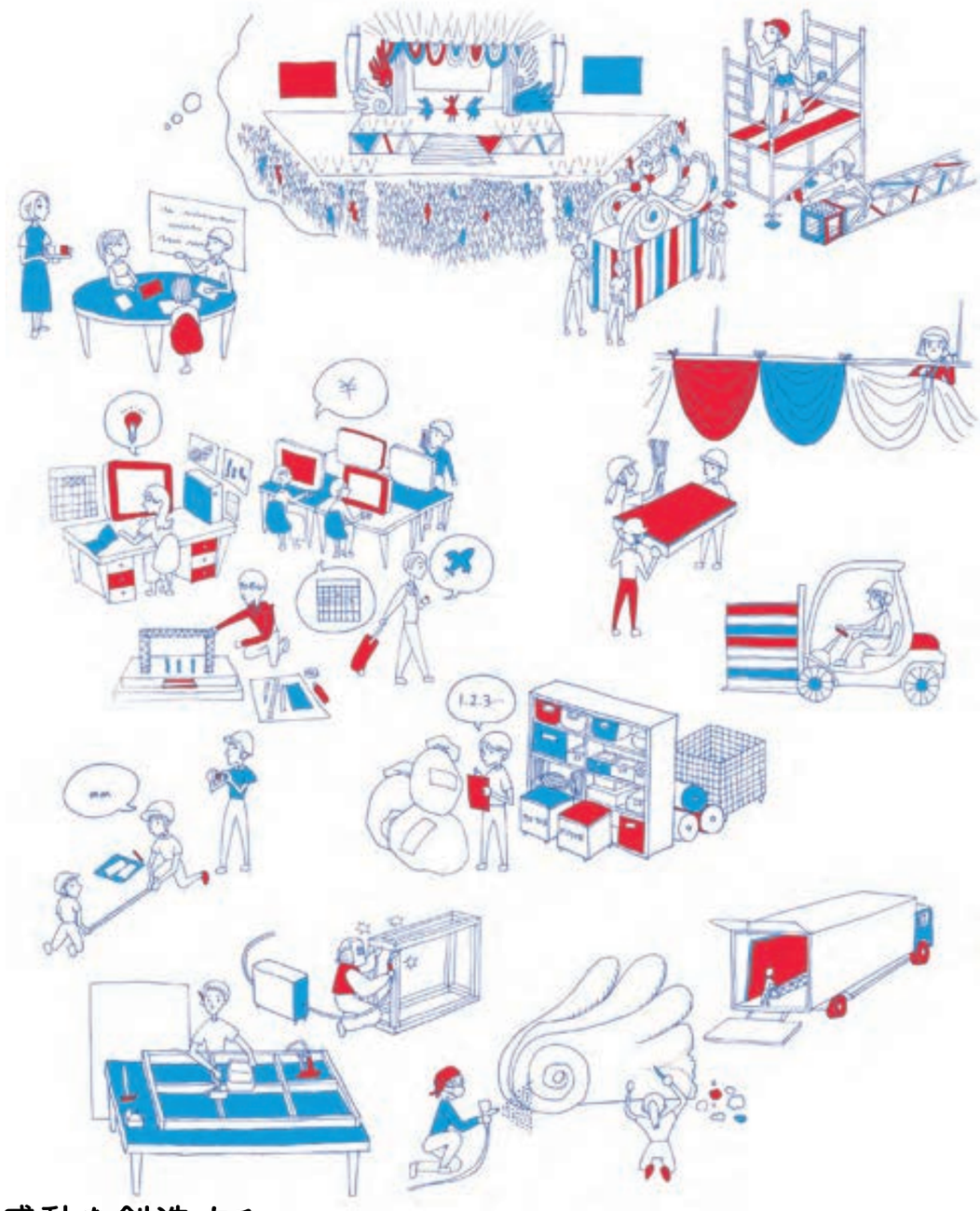
Communication Design®

人と人の、笑顔が創り出す未来へ。

ココロ揺さぶる瞬間（とき）を創り、世の中を次へ動かす。

私たちは、「Experience Marketing」の先駆者として、
創業以来積み重ねてきた信頼を基本に、
事業活動のすべてにおいて、
お客様とともにココロを揺さぶる瞬間を創り続け、
人と社会の新しいコミュニケーションを描いていきます。

HAKUTEN | TEL：03-6278-0010　https://www.hakuten.co.jp



感動を創造する

日本ステージ

NIHON STAGE

http://www.nihonstage.co.jp

まだ出会っていない心の躍動が必ずある



もっと楽しく、もっと面白く、
私たちは常に追究し、想像を超えて
もっと心を動かす未来を創造していきます。

ムラヤマは潤いあふれる感動コミュニケーションを創造しています。

株式会社ムラヤマ
www.murayama.co.jp



創業訓：
可能性に挑戦しつづける小さな巨人たちへ…
手を使う仕事にたづさわることに感謝しよう。
美しいものに出会えることを喜びとしよう。
優しい心を持ち続けられることを誇りにしよう。
若々しさを求められることを励みにしよう。

since1928

thanks!
90年の
ありがとう

創造的な活動が社会を少し幸せにすると思う。
日本一の富士山のようになろうと志し、90年。
まだまだ道なかば、
これからも可能性に挑戦し続けます。
小さな巨人より

up to date designing
FUJIYA

株式会社 フジヤ
札幌・仙台・東京・横浜・浜松・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・北九州・福岡・シンガポール
http://www.fujiya-net.co.jp/

NOMURA GROUP



1892（明治 25）年の創業以来、
乃村工藝社グループは歓びと感動を追い続けてまいりました。

お客様の事業繁栄とそこに集うエンドユーザーである 皆さまに
夢やときめきをお届けすること―

すなわち、時代を彩るクリエイティブ力と乃村工藝社グループ全社の総合力による
空間創造事業と空間ににぎわいをもたらす空間活性化事業が私たちの仕事です。

常にお客様のベストパートナーであるために
乃村工藝社グループはお客様の課題解決につながる新たな価値を創造し、
“場”の魅力を最大限に高めるチャレンジを続けてまいります。

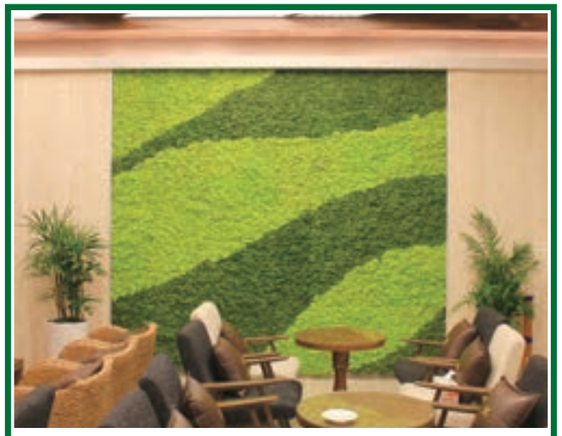
株式会社 乃村工藝社
本社　東京都港区台場2-3-4　TEL:03-5962-1171（代表）

キヌガワ・パック
アートフラワーのご紹介

生花をリアルに再現した美しいアートフラワー
Flowers & Accessories
Riaflora
リアフローラ



お問い合わせ・資料のご請求はホームページから riaflora.com



100%天然素材のディスプレイ用「コケ」アイテム
SCANDIAMOSS
スカンディア モス

プロジェクター用スクリーン素材
プロジェクションメディアカタログ

2019年1月下旬
発刊予定!!



表紙イメージ

カタログ先行予約受付中
詳しくは株式会社パックまで
http://www.kinugawa.com/pack/

TOTAL DISPLAY 株式会社キヌガワ　大阪本社・名古屋・京都・金沢・神戸 岡山・広島・高松・福岡・大分・鹿児島
URL : http://www.kinugawa.com　E-mail : info@kinugawa.com
WEB SHOP「資材市場」: http://www.shizai-ichiba.com

TOTAL DISPLAY 株式会社パック　江東店・板橋店・城南店 スペースディレクション事業部
URL : http://www.kinugawa.com/pack
E-mail : info@pack-display.com